HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト（1938 年～1945 年）…… エドゥアルド・ニジニャンスキー ，カタリーナ・プシツォヴァ
著者	木村，和範；KIMURA，Kazunori
引用	季刊北海学園大学経済論集，71(4)：27-105
発行日	2024-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

《翻訳》

スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト（1938 年～1945 年）*

エドゥアルド・ニジニャンスキー**　カタリーナ・プシツォヴァ***
木　村　和　範****（訳）

もくじ

1. 自治宣言からスロバキア国の誕生まで
（1）政党
（2）フリンカ・スロバキア人民党独裁政権の特徴
（3）行政単位
（4）ユダヤ人コミュニティ
（5）反ユダヤ主義の類型と担い手
2. ホロコーストの諸段階
（1）準備段階：1938 年 10 月 6 日～1939 年 3 月 14 日（自治政府時代）
（2）第 1 段階：1939 年 3 月 14 日～1940 年 8 月
（3）第 2 段階：1940 年 9 月～1942 年 10 月
（4）第 3 段階：強制移送の終わりから 1944 年 8 月まで（静止期）
（5）第 4 局面：1944 年 9 月から終戦まで

解題

＊訳文は，Eduard Nižňanský und Katarína Psicová, „Die Politik des Antisemetismus und der Holocaust in der Slowakei (1938–1945)“の邦訳である。この論文はヤド・ヴァシェム国際ホロコースト研究所の支援を受けて発刊された *ditto*, *Antisemitizmus a holokaust na Slovensku v dokumentoch nemeckej proveniencie 1938-1945/ Antisemitismus und Holocaust in der Slowakei in Dokumenten deutscher Provenienz von 1938 bis 1945*, Banská Bystrica: Múzeum Slovenského národného povstania［スロバキア国民蜂起記念博物館］, 2021, SS. 27–58 に収録されている（訳文末尾の「解題」参照）。この著書の出版に当たり，コメニウス大学哲学部（ブラチスラバ/スロバキア）からの支援を受けるほか，「人種差別，反ユダヤ主義，ホロコースト研究のためのフリートリヒ・カール・フォン・オッペンハイム男爵寄付口座」（フォン・オッペンハイム家/ケルン）と EU（「多様性の統合 ── 現代ヨーロッパ・ユダヤ人に関する学際的研究と諸省察」（課題番号 UDISEJ-Erasmus+ 2018-1cZ01-KA203-048165））からの助成を得た。原著者の許可を得て翻訳出版する。なお，［　］内は訳者による。

＊＊コメニウス大学教授

＊＊＊コメニウス大学大学院

＊＊＊＊本学名誉教授

1. 自治宣言からスロバキア国の誕生まで

ミュンヘン協定（1938 年 9 月 29 日）によってチェコスロバキア共和国（Československá republika: ČSR）は弱体化した。それに乗じて，1938 年 10 月 6 日，ジリナ（Žilina）でフリンカ・スロバキア人民党（Hlinkova slovenská ľudová strana: HSĽS）は，スロバキアの自治を宣言した。フリンカ・スロバキア人民党の圧力により，社会民主党，共産党，ユダヤ党を除く他の政党もこれを支持した。フリンカ・スロバキア人民党は他党を解党させた上で，候補者を一本化した国政選挙によって，それまでの議会制民主主義を徐々に一党独裁体制に変えていった[(1)]。自治組織は解体され，政事の差配は政府管理監（Regierungskommissare）が行うようになった。フリンカ・スロバキア人民党の指導部に対して新たに誕生したフリンカ警固団（Hlinka-Garde）［フリンカ・スロバキア人民党の準軍事組織］と国民委員会（Nationalausschüsse）が圧力をかけ，その結果政治のありようは急激に変化した。そのトップにいたのはフリンカ・スロバキア人民党の副党首カロル・シドル（Karol Sidor）であり，その下で反チェコ，反ユダヤの激烈なプロパガンダが展開されるようになった[(2)]。そして反ユダヤ主義者は，第一次ウィーン裁定でハンガリーに割譲された地域に居住する 7500 人以上のユダヤ人のスロバキアからの追放へと雪崩（なだれ）を打って突き進んでいった。チェコへのアレルギーもあって，チェコ人従業員は雇い止めの憂き目を見た。未熟な政治風土と性急な目標追求によって行き過ぎが数多くあり，それが日常になった。もちろん，「浄化（Säuberung）」の対象はユダヤ人，チェコ人，政敵（共産主義者，社会民主主義者など）であるから，スロバキア人は何も恐れることはない，と政権のプロパガンダは躍起になって信じこませようとしていた[(3)]。

スロバキア自治政府に関する法律を制定することは，フリンカ・スロバキア人民党の重要な成果であった。ヨゼフ・ティソ（Jozef Tiso）[(4)] は，当来した時代を詩的な言い回しで次のように特徴づけている。

---

(1) ヨゼフ・ティソ（Jozef Tiso）は，1936 年にピエシュタニー（Piešťany）で開催された第 7 回フリンカ・スロバキア人民党大会で次のように述べた。

民主主義が国民に死をもたらしかねないならば，民主主義を有難いとも何とも思わない。（Kočiš, Aladár, *Náć siedmy zjazd*［第 7 回党大会］, Bratislava 1936, S. 15.）

(2) カロル・シドル［脚注 84 参照］は 1938 年 10 月 19 日，反対派を次のように非難した。

……ようやく旧体制派が眠りから覚めてきた。……彼らは，陰謀を企て密かに会合を開き襲撃の準備をして，新たに発展しようとしているスロバキアを袋小路に追いやろうと目論んでいる。……スロバキアのチェコ人も目覚め，チェコ党スロバキア支部で密かに集まっている。（*Slovák*, 19.10.1938, 1.）

(3) フェルディナンド・デュルチャンスキー（Ferdinand Ďurčanský）は 1938 年 10 月 29 日にルジョムベロク［ローゼンベルク］で「私はスロバキア国民に対して，慎ましく暮らしている農民と国民を破滅させた内外のユダヤ人相場師に警戒するよう呼びかける。」と話した（『スロバキアの人々（*Slovák*）』1938 年 11 月 1 日付第 3 面）。; Vgl. auch die Artikel: „Výstraha Židom, ktorí ćkúlia za hranice［記事「国外脱出を図るユダヤ人への警告」］“, *Stredoslovenské noviny*［ストレドスロベンスク県］, 21.10.1938, S. 3; „Židovská otázka［記事「ユダヤ人問題」］“, *Podtatranský kraj*［タトラ山の麓］, 28.10. 1938, S. 4; „Židia musia sa preorientovaí［記事「ユダヤ人は方向転換しなければならない」］“, *Slovenská pravda*［スロバキアの真実］, 1.11.1938, S.3.

(4) ヨゼフ・ティソ（Jozef Tiso）（1887 年～1947 年）。ローマ・カトリック司祭，スロバキア人民党（Slovenská ľudová strana，1925 年にフリンカ・スロバキア人民党と改称）党員。1925 年～1939 年，チェコスロバキア国会議員（フリンカ・スロバキア人民党）。1927 年～1929 年，チェコスロバキア保健・スポーツ大臣。1938 年 10 月 7 日，ス

我々のスロバキア革命では血は一滴も流れていない。口笛を吹きながら成し遂げたのだ[5]。

1938年10月6日の，スロバキア自治宣言は，［ドイツ国民啓蒙宣伝大臣］ヨーゼフ・ゲッベルス（Josef Goebbels）の筆先から零（こぼ）れたかのように，「……我々は，腐敗と暴力のユダヤ・マルクス主義イデオロギーと闘う国民の側に立つ。」[6] がスロバキア国民のマニフェストであった。

（1）政党

スロバキア政府の首班ヨゼフ・ティソは，すでに1938年10月には政党の問題について次のように発言している。

政党が出る幕はもうない。様々に再編成を弄して生き残ろうとしても，無駄である。将来，国民の理念（Idee）［単一政党による国家の領導］が勝利すれば，国民には党の正当性とか党派性というものは無用の長物になってしまう。我々には無敵の旗印を手に前進あるのみである[7]。

しかし，これは，すでにピエシュタニー（Piešťany）で開催された1936年フリンカ・スロバキア人民党第7回大会に登場した「一つの国民，一つの政党，一人の総統のために，国民の全勢力が結集して行動する」というスローガンの繰り返しでしかなかった[8]。「フリンカ・スロバキア人民党」だけがスロバキア人の代表政党という構想を，早い段階でフリンカ・スロバキア人民党は公言していたのである。

政党の統制は，二つの戦略によって進められた。第一の戦略は，政党活動の中止と解党である[9]。禁止されたのは以下の政党である（（　）内は解党の日）。共産党（1938年10月9日），社会民主党（チェコスロバキア社

ロバキア自治政府首相。1939年3月14日（スロバキア建国後），首相，1939年10月26日，初代大統領。1939年10月1日，フリンカ・スロバキア人民党議長，1942年，法律により「総統（der Führer）」。終戦後，国民法廷で死刑判決。ティソの伝記については以下を参照。

ČULEN, Konštantín, *Po Svätoplukovi druhá naća hlava. Život Dr. Jozefa Tisu*［スヴェートプルコフに次ぐ指導者ヨゼフ・ティソ博士の生涯］, Middletown 1957; ĎURICA, Milan S., *Jozef Tiso 1887-1947. Životopisný profil*［ヨゼフ・ティソ（1887年～1947年）の伝記］, Bratislava 2006; HRABOVEC, Emília (ed.), *Jozef Tiso - kňaz a prezident*［ヨゼフ・ティソ―聖職者と大統領］, Bratislava, 2017; KAMENEC, Ivan, *Tragédia politika, kňaza a človeka. (Dr. Jozef Tiso 1887-1947)*［ある政治家，司祭，そして人間の悲劇―ヨゼフ・ティソ博士（1887年～1947年）］, Bratislava 1998; KAPLAN, Karel, *Dva retribuční procesy. Komentované dokumenty*［二つの報復裁判―史料と注釈］, Praha 1992; BYSTRICKÝ, Valerián - FANO, Štefan (Hg.), *Pokus o politický a osobný profil portrét Jozefa Tisu*［政治家と個人としてのヨゼフ・ティソのポートレート研究］, Bratislava 1992; RAŠLA, Anton - ŽABKAY, Ernest, *Process Dr. Jozefom Tisom. Spomienky obžalobcu A. Raćlu a obhajcu E. Žabkayho*［ヨゼフ・ティソ博士の裁判―被告人A. ラッチルと弁護人E. ジャブカイの思い出］, Bratislava 1990; WARD, James Mace, *Priest, Politician, Collaborator: Jozef Tiso and the Making of Fascist Slovakia*, Ithaca 2013.

（5）ヨゼフ・ティソは次のようにも述べている。

今日の事態は，正しく革命である。我々は革命の申し子であって，革命的な力を生み出したわけではない。（*Slovák*, 11.10.1938, S. 3.）

（6）*Slovenská pravda*, 8.10.1938, S. 1.

（7）ティソの見解は以下のとおり。

……サタンになれと政党に言う必要はない。「望むのは，ただ一つの政党だけ……」という民意を公言できて，私は嬉しい。（*Slovák*, 1.11.1938, S. 1.）

（8）KOČIŠ, Aladár, *Náć siedmy sjazd*［第7回大会］, S. 16.

（9）*Slovák*, 25.1.1939, S.1. *Úradné noviny*［官報］, XXI, 8.2.1939, 25. チェコスロバキア共産党（コミンテルンの一支部），チェコスロバキア社会民主労働党，ドイツ社会民主労働党，ユダヤ党，統一社会主義シオニスト労働者党の各政党禁止に関する政令はスロバキアの内務大臣が発出。

会民主党）（1938 年 11 月 16 日）[10]，ドイツ党（1938 年 11 月 22 日）[11]，二つのユダヤ人政党（ユダヤ党（1938 年 11 月 24 日）[12] と社会主義シオニスト統一労働者党（1938 年 11 月 25 日）[13]）。

第二の戦略は，［解党させられなかった］各政党を 1938 年 11 月 8 日までに一括して「国民統一党（Partei der Nationalen Einheit）」に統合し，それをフリンカ・スロバキア人民党に「自主的」に合流させることであった[14]。［この結果，フリンカ・スロバキア人民党＝スロバキア国民統一党（Hlinkova slovenská ľudová strana - Strana slovenskej národnej jednoty: HSĽS-SSNJ）が結成された。以下，簡単に「フリンカ・スロバキア人民党」と言う。］農業党，人民党，国家社会主義党，商業党，国民党，そしてファシストはこの道を辿った。しかし，このような「自主的合流」で得をしたのは，ごく一部の政党だけであったことは言っておかなければならない。合流した政党は，1938 年 12 月のスロバキアの国政選挙でわずかな議席しか獲得できなかったのである[15]。

政党合同の後，「ブラチスラバ宣言」が採択されたが，以下の引用文が示すように，そこには政治的・市民的な寛容さはまったく見られなかった。

> 今日からは，スロバキア国民の一元的な利益というものが，すべてのスロバキア国民にとっての最高法規でなければならない。スロバキア国民の総意に反対したり違反したりする者は，スロバキア国民の敵であり裏切り者であるから，国民は容赦なく断罪するであろう[16]。

当初からフリンカ・スロバキア人民党は，敵に対するこのような心象を国民統合のために利用した。そして，政党合同は国民統合の必然的な帰結と称されたのであった[17]。フリンカ・スロバキア人民党は，議会制民主主義の礎石である多元的政党制と決別することになった。

（10）Slovenský národný archív［スロバキア国立文書館（以下,「SNA」と略記）］Fond Ministerstva vnútra (MV)［内務省関係（MV）］, Karton 3, 522/1938.

（11）SNA, Fond Ministerstva vnútra, Karton 3, 1065/1938.

（12）SNA, Fond Ministerstva vnútra, Karton 3, 1122/1938.

（13）SNA, Fond Ministerstva vnútra, Karton 3, 1151/1938.

（14）*Slovenská politika*［スロバキアの政治］, 10.11.1938, S. 1.

（15）例えば，旧農業党（Agrarpartei）の議席は 5 議席である（パヴェル・テプランスキー（Pavel Teplanský），ヤーン・ペトロヴィッツ（Ján Petrovič），ヴラジミル・モラヴチク（Vladimír Moravčík），ヴォイテフ・フサーレク（Vojtech Husárek），ヤーン・ヴァンチョ（Ján Vančo））。Vgl. URSÍNY, Ján, *Spomienky na SNP*［スロバキア国民蜂起の思い出］, Liptovský Mikuláš 1994, S. 22.

（16）*Slovenská pravda*, 10.11.1938, S. 1.

（17）ティソは次のように述べた。

> 千年来繰り広げられてきたスロバキア人の政治的権利のための闘い（千年神話の復活―引用者）は最近頂点に達し，スロバキア国民は政治的独立を達成した。それだけでなく国民生活にとってさらに重要なことは，独立と同時に全政党の合同を経験したことである。これまで国民は内部分裂し，残酷にも自分自身を敵として闘いを繰り広げ，国外勢力を喜ばせていた。スロバキアの国民がこれまでの闘争ですべて敗北を喫したのは，まさしくこの分断のせいであった。国民は自然権のために長く辛い闘いをしなければならず，内部分裂によりみずからを破滅の道に迷い込んでしまった。……産みの苦しみに長くあえいできたスロバキア人の心の中で機が熟し，ついに我々は団結を遂げた。すべてのスロバキア人が団結したのである。すべての人々は一つの民族である。我々には，もはや政党もなければ，階級もない。あるのはいつも一つの民族であり，フリンカの民がいるだけである。（*Slovenská pravda*, 10.11.1938, S. 1.）

スロバキアでは，ドイツ系とマジャール系[18]のマイノリティの政党はある種の例外的な地位にあった。これらのマイノリティは合同政党に合流することができ[19]，国政選挙では統一候補者名簿に氏名を記載することができた。そして，スロバキア自治政府にあって，ドイツ系マイノリティのフランツ・カルマシン（Franz Karmasin）はドイツ担当国務長官に就任した。

新政権を作るとき，既存の国家機関，地方自治組織，そして抑圧装置（憲兵隊や軍隊）に頼ることはできなかった。そのためにフリンカ・スロバキア人民党首脳は［治安維持のために］フリンカ警護団を結成し，政権運営には急ごしらえの国民委員会を当てることにした[20]。フリンカ・スロバキア人民党の党員はそれを追い風にして政界全体を管理下に置き，政治情勢を先鋭化（軍事化）しようとした。それは，ユダヤ人問題などの若干の政治課題を迅速に解決して，仲間内の不平分子を宥（なだ）めるために必要なことであった。［フリンカ・スロバキア人民党の］準軍事組織としてのフリンカ警護団を結成した第一義的目的は，広い意味で誰が支配しているかをはっきりさせることであった[21]。私見によれば，ここで重要なのは，彼らの「見てくれ」，制服姿，パレード，デモ行進などである。スロバキアは「フリンカ・ブラック」に染まり始めた[22]。

やがて不寛容な雰囲気は，そうでなくとも検閲による同調圧力に苦しんでいた日刊紙の紙面にも及ぶようになった。検閲に当たったのは，アレクサンデル・マッハの政治宣伝（プロパガンダ）局（1938年10月設立）と報道担当の管理監である[23]。共産主義者と社会主義者の報道機関だけでなく，多くの定期刊行物の出版社にも発行許可が降りなくなった。チェコで発行された多数の新聞は輸入禁止となり，映画の配給にも及んだ（例えばチャップリンの『モダン・タイムス』の上映禁止）[24]。

（18）「マジャール（magyarisch）」はマジャール人としての民族的帰属を，また「ハンガリー（ungarisch）」はハンガリーの領土を意味する。

（19）1938年10月10日には「ドイツ党（Deutsche Partei: DP）」が結党された。SNA, Fond Ministerstva vnútra, Karton 3, 3/38, 21/38, 23/38, 506/38, 776/38. 1938年11月，ドイツ党の準軍事組織「義勇親衛隊（Freiwilligen Schutzstaffeln: FS）」が誕生した。

（20）ティソは次のように述べた。

> いかに迅速に国民委員会やフリンカ警護団を結成して，スロバキア人が社会秩序と国民の財産を守ったかを見た人は，……スロバキアのナショナリズムが浮ついた感情ではなく，計り知れない深さと見たこともないような可能性を秘めた生命力の豊かな源となっていると証言せざるをえないであろう。（*Slovenská politika*, 4. 12.1938, 4.）

（21）より詳しくは以下を参照。Baka, Igor, *Politický systém a režim Slovenskej republiky v rokoch 1939-1940*［1939年～1940年におけるスロバキア共和国の政治体制と政権］, Bratislava 2010; Sokolovič, Peter, *Hlinkova garda 1938-1945*［フリンカ警固団（1938年～1945年）］, Bratislava, 2009; Suško, Ladislav, Hlinkova garda od svojho vzniku po salzburské rokovania (1938–1940)［フリンカ警護団の創設からザルツブルク会談まで（1938年～1940年）］, in: *Zborník Múzea SNP II*［スロバキア国民蜂起記念博物館講演集録第二集］, Banská Bystrica 1969, S. 167–262.

（22）1938年10月23日にプレスブルク［ブラチスラバのドイツ名］でフリンカ警護団が初めて組織力を誇示したときに，ウィーンからドナウ地方親衛隊保安局（Sicherheitsdienst: SD）の主任F. シュターレッカー博士（Dr. F. Stahlecker），そして当時のユダヤ人移住ウィーン中央事務所長アドルフ・アイヒマン（Adolf Eichmann）らが参加していたことは興味深い。Štátny archív Bratislava, Fond Ľudový súd［ブラチスラバ国立公文書館，国民法廷関係］, Dr. Juloslav Janek, Tn Ľud 587/46.

（23）以下の記事を参照: „Celá tlač na Slovensku pod vládnym dozorom“［スロバキアのすべての報道機関，政府の監督下に置かれる］, *Slovák*, 29.10.1938, S. 3.; „Vládni komisári pre tlač［検閲担当管理監］“, *Stredoslovenské noviny*［ストレドスロベンスク県広報］, 4.11.1938, S. 1.

（24）記事: „Závadné filmy［悪性映画］“, *Úradné noviny*［官報］, 4.11.1938.

政党活動への干渉と並行して，自治政府は早くも 1938 年 10 月には地方自治体に対して手を打ち始めた。新任のスロバキア地方長官（Kreispräsiden）ユリアン・シムコ（Dr. Julián Šimko）は，1938 年 10 月 19 日に次のような内容の命令（「地方議会の解体」）を発出した［1927 年 7 月 14 日にスロバキア地方は一つの行政区（Kreis，Province）となり，そこに長官が配置された］。

> スロバキアは新しい経済と政治の体制に移行したが，特に地方自治体が諸情勢との迅速な調整を十分に担保しない場合，もしくは現下の条件下では不適格な者が地方自治体の首長に就任している場合には，当該地方自治体の地方議会を直ちに解散し，その首長には政府委員を当て，必要に応じて諮問委員を任命するものとする。……[25]

スロバキア政府は失政への批判をかわすべく，反ユダヤとチェコ人排斥という二つの「立場」に立って過激な支持者を宥（なだ）めようとした。

フリンカ・スロバキア人民党が権力を強化し，それまでの歩みの正当性を証明しようとして用意した舞台が，国政選挙であった。候補者名簿は一つだけで，民族ごとに投票所が設けられた。選挙結果に乗じたフリンカ・スロバキア人民党は，農業党の大臣枠を一人に削減した。1938 年 12 月に早くも実現した授権法（Ermächtigungsgesetz）［議会の立法権を政府に委譲する法律］に基づく政治体制への移行は，ガバナンスの点から見て決定的であった。

選挙前には，反チェコと反ユダヤ[26]のキャンペーンが繰り広げられた。政治宣伝（プロパガンダ）局は選挙前に反ユダヤのポスターを貼りだした[27]。これに対して，ユダヤ人は新しい状況の下での選挙に苦慮した。『ユダヤ新聞（*Jüdische Zeitung*）』も投票を呼びかけた。『スロバキアの人々』紙（1938 年 12 月 14 日）［フリンカ・スロバキア人民党機関紙（日刊）］に掲載された「有権者の皆さんへ」という記事は「否」と投票する者を売国奴だと決めつけた。

（25）Štátny archív Bytča, pobočka Martin［ビッチャ国立公文書館マルティン分館］, Fond OÚ Martin, Karton 124, 2963/38.

（26）Vgl. Nižňanský, Eduard, *Židovská komunita na Slovensku medzi československou parlamentnou demokraciou a slovenským ćtátom v stredoeurópskom kontexte*［チェコスロバキアの議会制民主主義とスロバキア国との狭間にあるスロバキア・ユダヤ人コミュニティ ── 中欧の文脈の中で ──］, Prešov 1999, S. 181–198.

（27）ポスターには以下の文章が添えられてあった。

> スロバキアのキリスト教徒の皆さん。ユダヤ人は何世紀にも亘って皆さんから搾取してきました。今こそ，私たち非ユダヤ人は手を取り合って反ユダヤ・ブロックを作らなければなりません。ユダヤ人の店では鐚一文（びたいちもん）も買い物をしてはなりません。ユダヤ人のせいで［チェコスロバキアの独立（1918 年）から］20 年を経て 27 万 6000 人のスロバキア人がハンガリー人の手に落ちてしまいました。1918 年よりも前［オーストリア＝ハンガリー帝国の時代］にはユダヤ人はみなマジャール人でした。10 月 6 日まではチェコスロバキア人，そして占領地ではマジャール人に戻り，スロバキアではまたスロバキア人に戻ろうとしています。ユダヤ人を信じてはいけません。これ以上騙されてもいけません。ユダヤ人はいつまでたってもユダヤ人です。ユダヤ人の財産を破壊してはなりません。しっかり管理しておかなければなりません。今日明日中にでも，それはスロバキア国民のものになるからです。今ユダヤ人を助けようとする輩（やから）は国賊なのです。ヨゼフ・ティソ識す（Štátny archív Bytča, pobočka Liptovský Mikuláš［ビッチャ国立公文書館リプトフスキー・ミクラーシュ分館］, Fond OÚ L. Mikuláš, 4211/1938 prez.）

> スロバキア国会議員選挙に棄権しようとする，自由スロバキアに巣くうウジ虫は，投票場を出て投票用紙一式を，かねて用意のゴミ箱に棄てるべきである。……しかし，スロバキア国民の自由に背信しようとしたり，我が国の輝かしい未来を壊そうとしたりするスロバキア人は我が国にはいないし，また他国に忠誠を誓うような者もいないと信じている[28]。

前述した選挙操作や選挙前の雰囲気などを考えると，選挙はとても正常とは言えないものであった[29]。63 議席中，50 議席はフリンカ・スロバキア人民党が獲得したのに対して，農業党はわずか 5 議席であった。残りの議席は，フリンカ・スロバキア人民党に忠誠を誓う政党と「その存在が法的に認められる」マイノリティの政党に分けられた[30]。

ヨゼフ・ティソはこの不正選挙に乗じて政権交代をなし遂げた。政党間の比率に手を加えて，フリンカ・スロバキア人民党を第一党にしたのである。1938 年 10 月には，議席数は，（フリンカ・スロバキア人民党）：（農業党）が 3：2 であったが，蓋を開けてみれば，（フリンカ・スロバキア人民党）：（スロバキア国民党）（Slovenská národná strana: SNS））：（農業党）は 4：1：1 になった。［SNS は，1938 年 12 月に合同して，フリンカ・スロバキア人民党＝スロバキア国民統一党（HSĽS-SSNJ）が結成された。］

チェコスロバキア第二共和国時代の法制上で重要な転換点は，1938 年 12 月 15 日の授権法（憲法（1938 年法律第 330 号））[31] を採択したときであった。授権を定めた条文は憲法第 2 条第 2 項であり，これによってスロバキア政府には，本来スロバキア議会が制定権限を有する事柄について，政令を制定して措置する権限が付与された[32]。こうして三権分立が崩壊し，十分なチェック機能が働く余地はなくなり，行政権が立法権に優越するようになった。明らかに，これは民主主義の原則からの逸脱である。

スロバキア国の誕生を決定づけたのは，フリンカ・スロバキア人民党，国会，政権首脳などの意向ではない。中欧において強固な支配的地位にあって，「チェコスロバキアの残りの部分（Rest-Tschechei）」[33] に関する問題を解決しようとした国家社会主義国ドイツの意思がそうさせたのである。

スロバキア[34] の誕生は，この［ドイツの］

（28）*Slovák*, 14.12.1938, S. 1.

（29）1938 年 12 月 14 日（水）にプラハで開催されたチェコスロバキア共和国国民議会下院第 157 回速記録 23 頁以下，および 1938 年 12 月 15 日（木）にプラハで開催されたチェコスロバキア共和国国民議会上院第 127 回速記録 11 頁以下を参照。

（30）ドイツ人には 2 議席が，マジャール人とルテニア人には各 1 議席が割り振られた。

（31）Sbírka zákonů a nařízení státu česko-slovenského［チェコとスロバキアの法令集］.

（32）より詳しくは以下を参照。ZAVACKÁ, Katarína, Ústavný vývoj na Slovensku v období od 6.10.1938 do apríla 1945［スロバキアにおける憲法制定過程（1938 年 10 月 6 日～1945 年 4 月）］, in: *Sećity ústavu pro soudobé dějiny ČSAV*［チェコスロバキア共和国科学アカデミー歴史研究所紀要］, Vol. 5, 1993, S. 47.

（33）「チェコスロバキアの残りの部分（Rest-Tschechei）」という言いかたは，ミュンヘン協定後（ズデーテン地方［ズデーテンラント］がナチス・ドイツに占領された後）に残されたボヘミアとモラビアの領土に対する蔑称である。この地域は，1938 年にボヘミア・モラビア保護領としてドイツに支配された。［Vgl. PRINZ, Claudia. „Die "Zerschlagung der Rest-Tschechei"“, (© Deutsches Historisches Museum, Berlin, 16. Oktober 2015), Text: CC BY NC SA 4.0, in: Lebendiges Museum Online: LEMO, https://www.dhm.de/lemo/kapitel/ns-regime/aussenpolitik/tschechei/, accessed on April 11, 2023.］

（34）Vgl. u.a. BYSTRICKÝ, Valerián. Zasadnutie Slovenského snemu 14. marca 1939［スロバキア国会（1939 年 3 月 14 日）］, in: *Historický časopis*［歴史学雑誌］, Bd. 47, 1999, S. 105–114.

願望から生み落とされた副次的現象に過ぎない。ティソはこの状況を次のように評価している。

> あの日のこと（独立宣言のこと ── 引用者）を思い出すとき，私は，偉大なるアドルフ・ヒトラー（Adolf Hitler）がかくも強い力を持っていると感じたことはないといつも思う。あのときヒトラーは私に［断りの］電話をかける必要がなかった。あのとき，ヒトラーはそのことを誰にも話す必要がなかった。あのときヒトラーは，少なくとも我々小国のスロバキア国民に，何をしようとしているのかを伝える必要がなかった。そして，ヒトラーは我々に対して寛大にも次のように言った。「秋(とき)は来た，今決断しなければ，国民は数時間先には蹂躙され，葬り去られてしまう。」と。今日，我が国があるのは，ひとえに何ものにも拘束されないあの寛大なるヒトラーの おかげ である。私は頭を低(ず)くして，スロバキア国民はヒトラーを失望させることはないと約束した[35]。

このころにはスロバキアという国の基本的な制度が形をなしてきたために，フリンカ・スロバキア人民党の指導層は，もう自治宣言以来の しがらみ に囚われなくても良くなった。その一方で問題になったのは，伝統を顧慮しつつ「単色」政治に徹することができる政府［の樹立］であり，他方では，特に見せかけの議会主義を保証する 1939 年 7 月憲法の採択であった。この方向性は，最後の党大会におけるヨゼフ・ティソのフリンカ・スロバキア人民党議長選出，さらには（ポーランドに対して軍事的勝利を収めた後の）1939 年 10 月 26 日の大統領就任に連なる。

フリンカ・スロバキア人民党の指導層は授権法による国家運営を重要視していた。スロバキア共和国の秩序を維持し，利益を確保するために移行期に必要とされる一切の事柄については，政令（Verordnung）による執行を政府に委任することが，独立国家スロバキアに関する 1939 年法律第 1 号（1939 年 3 月 14 日）第 4 条で定められていたからである[36]。この授権には，はっきりとした制限が定められていなかったので，政府は社会生活のあら

（35）*Slovák*, 3.10.1939, 4; ティソはアドルフ・ヒトラーに同じような文面の電報を送った。

> ドイツ帝国首相閣下。スロバキアの国民と軍隊のみならず，小職への親愛に満ちたお言葉に深く思いを致し，ドイツ帝国首相閣下に感謝の意を表します。本年 3 月 13 日に閣下に申し上げましたが，国民的な取り決めに基づいてヨーロッパの恒久平和を築こうとしておられる貴職を，スロバキア国民は誰一人として裏切ることはありません。そのことを改(くみ)めてここにお約束申し上げます。ドイツに与する我々の行動は，我々が正義のために［貴国に］協力することの 証(あかし) であるとともに，ドイツと総統閣下が我々のためにしてくださったことを忘れてはいないことを示す証でもあります（*Völkischer Beobachter* (*Münchener Ausgabe*),『国民の監視人』［ナチス党機関紙］（ミュンヘン版），1939 年 9 月 28 日，第 5 面）。

ティソは次のようにも述べている。

> 我が国民の活力を駆り立てて，国事全体の舵取りを完全かつ無条件に我が物としようとする悲願は成就した。独立国スロバキアは，誰にもまったく依存することなくみずからを統治しようとするスロバキア国民のぶれない政治的意思から誕生したのである。我が国は強い同調力を糧として成長し，熱い血潮をたぎらせ価値観を創造し，勤労を通じてそれを達成してきたのであって，スロバキア国民の歴史的発展は連綿として続いている。……我がスロバキア国は憎しみから生まれたのではない。我々自身への大きな愛，そしてこの理想のために勤労し，そのための犠牲を厭わないという強固な意思から生まれたのである。（*Slovák*, 16.3.1939, S. 4.）

（36）Vgl. hierzu ZAVACKÁ, Katarína, *Ústavný vývoj na Slovensku*［スロバキアにおける憲法制定］, S. 51f. 法制史研究者によれば，憲法が採択された時点（1939 年 7 月 21 日）で，それまでに約 150 本の政令が成立していた。

ゆる領域に幅広く介入することが可能になった。

スロバキアの建国宣言が行われてからは，ドイツ一辺倒の傾向が強まった。ティソはこのことについて次のように述べている。

> 我々はドイツ志向の道を選択し，この決定を堅く守ることが正しいと信じている。この方向を進めば，はるか昔に実現されていたはずのもの［独立］を手中に収めることができると確信している。ヨーロッパにおいてゲルマン民族とスラブ民族の二大勢力が手を組めば，嘘やごまかしで隣人を屠殺場に追いやって懐を潤すような あくどい手合（てあい）をヨーロッパから駆逐することができる[37]。

［第一次世界大戦後に独立したチェコスロバキア共和国は］ナチス・ドイツの圧力でチェコとスロバキアに分離された。［チェコはボヘミア・モラビア保護領となり，その東側のスロバキアが独立した。］スロバキアとは，［このようにして誕生し，］1939年から1945年まで存在した中欧の内陸国家（Binnenstaat）のことである。この時期のスロバキア共和国は単独与党のフリンカ・スロバキア人民党による独裁国家であった。スロバキアは枢軸国の同盟国［衛星国］としてドイツによるポーランドとソ連への侵略戦争に加担した。

ティソのかねてからの極端なスロバキア・ナショナリズムは，その外交政策の解釈にも見ることができる。1942年11月16日にトレンチン［ブラチスラバの北東約120キロメートル］で次のように演説している。

> ポーランドとの闘い，そして反ボルシェヴィキのための遠征は，国民の安全に資するところが最も大きい措置であった。それは我が国民のためであって，それ以外の何者のためでもない。戦火を招かないようにするために，ポーランドとの戦いに突入したのである。戦火の通り道は，それを呼び寄せた側の領土にあるべきものであって，我が国の領土を通ることは断固として避けなければならない。このことを我々は肝に銘じなければならない[38]。

この独裁政権はファシストの顔も持っていた。そのためであろう，人種法が制定された（1941年政令第198号，「ユダヤ法（Judenkodex）」）。スロバキアは自国資源を投入して，1942年にユダヤ人約5万8000人をナチスの絶滅収容所に強制移送した。

1939年3月14日，スロバキア国が建国された。ドレッセンは次のように述べている。

> 建国当初からスロバキアは，首相ヨゼフ・ティソ（1939年10月からは大統領）のもとにあって，ドイツ帝国の衛星国としてヒトラーに完全に従属していた[39]。

3月18日にティソはドイツ帝国と保護条約（Schtzvertrag）を締結し，スロバキアの軍事・外交政策はドイツ帝国が「保護」し，スロバキアはドイツ帝国との間で外交，軍事，経済の諸政策を調整することになった。ドイツ軍はスロバキア西部（「保護区（Schutzzone）」）に駐留した[40]。

（37）*Slovák*, 3.10.1939, S. 3.

（38）FABRICIUS, Miroslav - HRADSKÁ, Katarína (Hg.), *Jozef Tiso. Prejavy a články. Zv. II. (1938-1944)*［ヨゼフ・ティソ　その演説と掲載記事　第2巻（1938年～1944年）］, Bratislava 2007, S. 522.

（39）DRESSEN, Willi, Der Holocaust in der Slowakei und die deutsche Justiz, in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung*, Bd. 7, 1998, S. 93.

（40）TULKISOVÁ, Jana, Činnosť Nemeckej vojenskej komisie na Slovensku a ohraničenie ochranného pásma［スロバキアにおけるドイツ軍事委員会の活動と

(2) フリンカ・スロバキア人民党独裁政権の特徴

1938 年から 1939 年にかけたフリンカ・スロバキア人民党による「権力の掌握」に関しては，カール・ディートリッヒ・ブラッハーによる「全体主義的統制の諸段階」の研究がスロバキアでは嚆矢であるが[41]，これはワイマール共和国の崩壊と［ナチスによる］1933 年の権力奪取に関する研究として，後に厚みを増すことになった[42]。

ここではファシスト政権の誕生という問題に関して，ヴォルフガンク・シーダーの社会理論を取り上げる。この理論を約言すれば[43]，それぞれの国の歴史の中で国民国家が成立する場合，国民の形成，立憲国家の編制，工業化（私はこれに伴う近代化と都市化などを付け加えたい）が重なり合うときに，戦間期の各国ではファシスト政権が誕生する可能性があったという言説である。

ここで，ファシズムは常に国民を巻き込んだ現象であったという，よく知られたテーゼを思い起こすべきであろう。つまり，個々の国々に出現したファシズムは，それに先行して成長した国民からの影響を一貫して受けていた。私見によれば，「国民の特殊性」が現象するのは，具体的な社会的・政治的状況の中においてのみである。

スロバキア共和国（1939 年～1945 年）は，ヨゼフ・ティソ（Jozef Tiso）を党首とするフリンカ・スロバキア人民党による一党独裁の国である。ティソはその党首であると同時に大統領であり，さらに 1942 年以降は法律[44] により「総統（Führer）［最高指導者］」でもあった。フリンカ・スロバキア人民党の地位は，憲法第 58 条で定められて盤石であった。［同条は以下のとおり。］

保護地域の画定], in: *Slovensko medzi 14. marcom 1939 a salzburskými rokovaniami* [1939 年 3 月 14 日からザルツブルク会談までのスロバキア], (ed. M. PEKÁR, R. PAVLOVIČ), Acta Facultatis Philosophicae universitatis Prešoviensis［プレショビ大学哲学科卒業論文］, in: *Historický zborník*［歴史学集録］, Vol. 9 (AFPhUP 187/269), Prešov 2007, S. 419–433.

(41) BRACHER, Karl Dietrich, Stufen totalitärer Gleichschaltung: Die Befestigung der nationalsozialistischen Herrschaft 1933/34, in: *Vierteljahreshefte für Zeitgeschichte*, Bd. 4, 1956, S. 30–42.

(42) Vgl. BRACHER, Karl Dietrich, *Die Auflösung der Weimarer Republik.* Düsseldorf 1978; *ditto*, *Die deutsche Diktatur. Entstehung, Struktur, Folgen des Nationalsozialismus*. Köln-Berlin 1969; *ditto*, *Deutschland zwischen Demokratie und Diktatur*, Bern-München-Wien 1964; BRACHER, Karl Dietrich — SCHULZ, Gerhard-SAUER, Wolfgang (Hg.), *Die nationalsozialistische Machtergreifung. Studien zur Errichtung des totalitären Herrschaftssystems in Deutschland 1933/34*, München 1973.

(43) 以下は，SCHIEDER, Wolfgang, Faschismus, in: *Fischer Lexikon Geschichte*, Hrsg. v. Richard VAN DÜLMEN, Frankfurt am Main. 1990, S. 185f.による。

……しかし，目標がどうであれ，ファシスト運動の発展の可能性を条件付けたのは次の 3 つの要因であると言うことができる。第一の要因は，国民統合の過程である。ここに国民統合の過程とは，一方では社会文化的統一と法的政治的統一という意味での内に向かう国民形成のことであり，他方では国境で仕切られた国家による外に向かう国民形成のことである。第二の要因としては，近代政治的な意味での憲法制定過程（独裁国家から自由で民主的な立憲国家への道筋）に言及しなければならない。最後の第三の要因としては，工業化の過程が重要である。これを通じてヨーロッパの国民社会における物資の主たる取得構造が農業から工業へと変化したのである。……戦間期のヨーロッパ諸国の中でファシズムが成功するかどうかは，一方では国民形成から憲法制定に至る過程，他方では憲法制定と工業化の過程，この両者がどのような歴史的関係にあるかに依存していた。これらの両者が密接に併走すればするほど，もしくは重なり合えば重なるほど，ファッショ的な激動の危険性は高まる。……国民形成と憲法制定を巡る意見の対立，経済成長の危機，これらが相対的に同時に進行したために，［第一次世界］大戦後の特殊な歴史的条件のもとで，独自のファシスト政権が出現した。

(44) 1942 年法律第 215 号。

スロバキア国民は，フリンカ・スロバキア人民党（人民統一党）を通じて国家権力に参画する[45]。

ティソが聖職者独裁国家を作り上げようとしたとき，「ユダヤ人問題の解決」が絡むようになり，ティソを戴く一党独裁体制は真正のファッショ的独裁になった。（1939年3月14日～1939年7月21日の正式国名は「スロバキア国（Slovenský štát）」，1939年7月21日～1945年5月8日は「スロバキア共和国（Slovenská republika）」である[46]。）

（3）行政単位

スロバキアには，大管区（župa）が6つ，郡（okres）が61，そして2659の基礎自治体（obec）があった。1940年1月1日現在の大管区/区庁所在地は以下のとおり。

プレスブルク大管区（Bratislavská župa[47]）/ブラチスラバ（Bratislava）
ネウトラエル大管区（Nitrianska župa[48]）/ニトラ（Nitra）
トレンチン大管区（Trenčianska župa[49]）/トレンチン（Trenčín）
タトラ大管区（Tatranská župa[50]）/ルジョムベロク（Ružomberok）
シャリシュ＝ゼンプリネル大管区（Šarišsko-Zemplínska župa[51]）/プレショフ（Prešov）
グラネル大管区（Pohronská župa[52]）/バンスカ・ビストリッツア（Banská Bystrica）。

大管区の首長（大管区庁（Župný úrad）の長）には大管区知事（Gauhauptmann, Slovak župan）が就任した。大管区は郡（スロバキア語でokresy）に分かれていた。郡は郡管理監（Slovak okresný náčelník）が管理し，その役所を郡管理事務所（Bezirkshauptmannschaft, okresný úrad）[53]と言った。郡管理監は，国の行政事務に当たる公証人の下で4村～6村を担当し，それぞれの村には村長がいた。戦時中，市町村を指導したのは，内務省が任命する政府任命市町村管理監（Regierungskommissar）である[54]。

（4）ユダヤ人コミュニティ

1930年人口センサスによれば，スロバキアにはユダヤ教徒13万6737人が住んでおり[55]，総人口の4.11％を占めていた[56]。「信仰を持つユダヤ人」のうち，国籍をユダ

（45）Verfassung der Slowakischen Republik［スロバキア共和国憲法］, Bratislava 1939, S. 41.
（46）1939年7月21日に採択された憲法により「スロバキア共和国（Slowakische Republik）」という国名になった。
（47）6郡（スロバキア語ではokresy［以下，脚注52まで同じ）：Bratislava, Malacky, Modra, Senica, Skalica, Trnava.
（48）5郡：Hlohovec, Nitra, Prievidza, Topoľčany, Zlaté Moravce.
（49）12郡：Bánovce nad Bebravou, Čadca, Ilava, Kysucké Nové Mesto, Myjava, Nové Mesto nad Váhom, Piešťany, Považská Bystrica, Púchov, Trenčín, Veľká Bytča, Žilina.
（50）13郡：Dolný Kubín, Gelnica, Kežmarok, Levoča, Liptovský Svätý Mikuláš, Námestovo, Poprad, Ružomberok, Spišská Nová Ves, Spišská Stará Ves, Stará Ľubovňa, Trstená, Turčiansky Svätý Martin.
（51）10郡：Bardejov, Giraltovce, Humenné, Medzilaborce, Michalovce, Prešov, Sabinov, Stropkov, Trebišov, Vranov nad Topľov.
（52）12郡：Banská Bystrica, Banská Štiavnica, Brezno nad Hronom, Dobšiná, Hnúšťa, Kremnica, Krupina, Lovinobaňa, Modrý Kameň, Nová Baňa, Revúca, Zvolen.
（53）公文書でもドイツ側は「郡事務所（Bezirksamt）」を使用する傾向があった。
（54）BArch, Fond R 70 Slowakei/194, S. 302.
（55）1930年の人口センサスでは，チェコスロバキアのユダヤ人は，ユダヤ教を信仰していることと国籍がユダヤであることの両方を回答することができた。無神論者のユダヤ人は統計では把握されなかった可能性があるが，ごく少数であろう。
（56）ユダヤ教の信徒は，ボヘミアには7万6301人（総人口の1.07％），モラビアとシレジアには4万1250人（1.16％），カルパト＝ウクライナには10万2542人（14.14％）がいた。*Národne noviny*［国民新聞］, 8.11.1938, S. 2.による。

ヤと回答した者は 6 万 5385 人（47. 81%），チェコ国籍かスロバキア国籍[57] を有すると回答した者は 4 万 4019 人（32. 19%），ドイツ国籍を有する者[58] は 9945 人（7. 27%）であった。最大のユダヤ人コミュニティは，ブラチスラバ（プレスブルク［ドイツ名］，約 1 万 5000 人）にあり，以下，ニトラ（Neutra, 4358 人），プレショフ（Preschau，4308 人），ミハロフチェ（Großmichel，3955 人），ジリナ（Sillein，2917 人），トポルチャニー（Topoltschan，2459 人），トルナヴァ（Tyrnau, 2445 人），バルデヨフ（Bartfeld，2441 人），フメン（Homenau，2172 人），トレンチン（Trenčín，1619 人）が続く[59]。

1938 年 11 月 2 日の第一次ウィーン裁定による領土の割譲により，スロバキア・ユダヤ人の人口が変化した[60]。第一次ウィーン裁定に基づいてハンガリー軍がスロバキア南部の一部を占領したことにより，ユダヤ人は 8 万 9000 人に減少した[61]。スロバキア西部のユダヤ人は都市部に居住する古典的な中間層であった。これに対してスロバキア東部では，ユダヤ人は小農として農村で生計を維持する者が多く見られた。その他に，スロバキア全域の村落ではユダヤ人がしばしば商人となり，その村落で唯一の商店経営者であることも少なくなかった。

1930 年の職業統計によると，ユダヤ人の 49. 5%が商業とサービス業に従事し，3 万 151 人のユダヤ人が公務員であり，弁護士の約 50%がユダヤ人であった[62]。1939 年の医師会調査によれば，医師は 1414 人，そのうちの 43. 9%がユダヤ人であった。薬剤師や獣医師についても同様のデータがある（1921

（57）統計では，「チェコスロバキア国籍（československá národnosí）」となっている。

（58）*Naučný slovník aktualit 1939*［教育用語辞典（1939 年改訂）］, Praha: Nakladatelství L. Mazáč, 1939, S. 96.

（59）Siehe BARKÁNY, Eugen - DOJČ, Ľudovít, *Židovské náboženské obce na Slovensku*［スロバキアのユダヤ教団体］, Bratislava 1991; BÜCHLER, Robert, Židovská komunita na Slovensku pred druhou svetovou vojnou［第二次世界大戦以前のスロバキアにおけるユダヤ人コミュニティ］, in: TÓTH, Dezider (Hg.), *Tragédia slovenských Židov*［スロバキア・ユダヤ人の悲劇］, Banská Bystrica 1992, S. 5–26; HRADSKÁ, Katarína, Die Lage der Juden in der Slowakei, in: *Judenemanzipation – Antisemitismus – Verfolgung in Deutschland, Österreich-Ungarn, den Böhmischen Ländern und in der Slowakei*, Essen 1999, S.155f.; ROTHKIRCHEN, Livia, The Situation of Jews in Slovakia between 1939 and 1945, in: *Jahrbuch fur Antisemitismusforschung*, Bd. 7, 1998, S. 50.

（60）HOENSCH, Jörg K, *Der ungarische Revisionismus und die Zerschlagung der Tschechoslowakei*, Tübingen, 1967, S. 189 には次のように記載されている。

> 入手可能な統計では，……第一次ウィーン裁定（1938 年 11 月 2 日 ── 引用者）による領土割譲でチェコスロバキアは……全部で 1 万 2009 平方㌔，104 万 1494 人を失った。そのうちスロバキアが喪失した国土は 1 万 423 平方㌔［割譲された総面積の 86.8%］で，人口 85 万 9885 人［ハンガリーに編入された全体の 82.6%］（うちスロバキア人 27 万 6287 人，ハンガリー人 54 万 6662 人，ユダヤ人 2 万 6181 人，ドイツ人 8967 人，ルテニア人 1829 人）を失った。

なお，*Naučný slovník aktualit 1939*［現代教育用語辞典　1939 年版］, S. 96 も参照。これによれば，スロバキアはハンガリーに 87 万 9697 人を奪われた。そのうち 4 万 5292 人がユダヤ教徒で（スロバキア・ユダヤ人の 33.12%），この中の 2 万 6227 人は国籍がユダヤであると回答している。

（61）Dokumentationsarchiv des Österreichischen Widerstandes (DÖW) Wien［オーストリア・レジスタンス文書センター（ウィーン）］, Eichmann Protokoll 5272/5, F1, G1.; ユダヤ人センターの元職員 E.アベレス博士（Dr. E. Abeles）は，スロバキアには約 9 万 5 千人のユダヤ人がいたと証言している。

（62）Siehe *Národné noviny*［国民新聞］, 8.11.1938, S. 2. リビア・ロートキルヒェンによれば，弁護士は 543 人である（ROTHKIRCHEN, Livia, *The Situation*, S. 50.）。カタリーナ・フラツカによれば，ユダヤ人の 7%が農業，20%が工業，53%が小売業に従事し，7%が医師，弁護士，公務員であった。商業に従事していたのは 60%以上である（HRADSKÁ, Katarína, *Die Lage der Juden*, S. 162–163）。

年，薬剤師167人のうち32人がユダヤ人（19.2%），獣医師141人のうち30人がユダヤ人（21%））[63]。事業主についても，ユダヤ人は大きなシェアを占めていた。

ロートキルヒェンによれば，スロバキアにはユダヤ教の宗教団体が167あり，その内訳は正統派（Orthodoxe）107，ネオログ派（Neologische）29，現状維持派（Status-quo-ante）31である[64]。

チェコスロバキア第一共和国時代の最大のユダヤ人政党は，シオニスト系の「ユダヤ党（Jüdische Partei）」であった[65]。

（5）反ユダヤ主義の類型と担い手

借り物でない自前の反ユダヤ主義はすでに戦間期のスロバキアには見られていて，特にフリンカ・スロバキア人民党の構想の中にあったが[66]，議会では反ユダヤ的な発言はほとんど聞かれることがなかった。それだけに，1938年以降のスロバキアで反ユダヤ主義が急速に表面化したのには目を見張るものがある。

この反ユダヤ主義には，いくつかのレベルがある。スロバキアはキリスト教（カトリック）の国であった[67]。このために，まずキリスト教レベルでの反ユダヤ主義を取り上げる。それは「ユダヤ人はキリストを十字架に架けた。ユダヤ人はキリストを救世主（メシア）とは認めない。」[68] というキリスト教の根本的な教

（63）Näher dazu SULÁČEK, Jozef, *Biele plášte*［白衣の人］, Bratislava 2005.

（64）ROTHKIRCHEN, Livia, *The Situation*, S. 65.

（65）1929年の議会選挙では，ユダヤ党はポーランド党と共同して統一候補を立て，ルドヴィク・シンガー（Ludvik Singer）とユリウス・ライシュ（Julius Reisz）の2人をチェコスロバキア議会に送り込むことができた。6年後，ユダヤ党は社会民主党と選挙協力をしたが票を減らし，アンゲロ・ゴールドステイン（Angelo Goldstein）とハイム・クーゲル（Chaim Kugel）（ムカチェヴォ［コシチェの東約135キロメートル］（カルパト・ウクライナのムンカチ）でヘブライ語ギムナジウム校長）の2人を再び国会に送り出した。1938年11月24日，内務省はユダヤ党を活動停止とし，その後の活動を禁じた。1938年11月25日，社会シオニスト労働者統一党（Einheitlichen Sozial-Zionistischen Arbeiterpartei）の活動が停止された。Siehe näher: KAMENEC, Ivan, Židovské politické strany na Slovensku v medzivojnovom období［戦間期スロバキアのユダヤ人政党］, in: LIPTÁK, Ľubomír, *Politické strany na Slovensku 1860-1989*［スロバキアの政党1860年～1989年］, Bratislava 1992, S. 211–213.

（66）フリンカ・スロバキア人民党は，1930年代に「唯一の神，一つの党，一人の総統」（„Jeden Boh, jedna strana, jeden vodca (Ein Gott, eine Partei, ein Führer)“）というスローガンを標榜し，ナショナリズムとカトリックを志向する保守政党であった。チェコスロバキア第一共和国時代にはスロバキア人の代表として活動していたが，スロバキアの議会選挙では三分の一以上の票を獲得することはなかった。詳しくは以下を参照。LIPTÁK, Ľubomír, *Politické strany na Slovensku 1860-1989*［スロバキアの政党（1860年～1989年）］, Bratislava 1992, S. 109–22, 221–231; KAMENEC, Ivan. *Po stopách tragédie*［悲劇の軌跡］, Bratislava 1991, S. 17.

（67）アントン・シュテファネク（Anton Štefánek）によれば，1940年のスロバキアにおける宗派構成は次のとおりである。カトリック教徒195万6233人（73.64%），ギリシャ・カトリック教徒18万3736人（6.91%），プロテスタント全宗派40万3073人（15.13%），無宗教9994人（0.37%）。より詳しくは，以下を参照。ŠTEFÁNEK, Anton, *Základy sociografie Slovenska*［スロバキア社会統計要綱］, Bratislava 1944, S. 179–180.

（68）このようなユダヤ人に対する認識は，第二バチカン公会議（II. Vatikanischen Konzil）［1962年～1964年］まで，あるいは1965年に宣言『私たちの時代（ノストラ・エターテ）（*Nostra Aetate*）』が採択されるまで存続し，スロバキアだけでなく，それ以外の国のカトリック教会の間でも広まっていた。1939年2月10日付の『スロバキアの人々』紙に掲載されたイエズス会管区長ルドルフ・ミクシュ（Rudolf Mikuš）との対話は，このステレオタイプの反ユダヤ主義の例である（以下参照）。

> ……ユダヤ人が影響力を行使して公共生活と経済生活の全体を支配し，その結果，現状が非ユダヤ人社会全体を直接脅（おびや）かしていればこそ，国家は，公共生活と経済生活からユダヤ人を排除しなければならない。さもなけ

義に由来するステレオタイプの［宗教レベルの］反ユダヤ主義である。ヨゼフ・ティソは，ユダヤ人を社会生活から排除する理由を宗教だけでなく政治にも結びつけて次のように述べた。

> ドイツが戦争に負けることなど，あるはずがない。……［終戦になれば］すべてのユダヤ人が舞い戻ってくるはずだ。この戦争はすべて，ユダヤ資本に対する全面戦争である……キリストの死をピラトに求めた彼ら（ユダヤ人 ── 引用者）への呪いは成就しつつある[69]。

第二のレベルの反ユダヤ主義は，ユダヤ人が主としてドイツ語とハンガリー語を（場合によってはイディッシュ語も）話すので，スロバキア人ではないという主張に由来する。

このため，これは言語的・民族的レベルの反ユダヤ主義とも言われている。（ただし，チェコスロバキア第一共和国時代に学校教育を受けた若い世代にはそのような偏見はなかった。）スロバキア・ユダヤ人は，オーストリア・ハンガリー帝国時代にスロバキア人のマジャール化の片棒を担いでいたとも非難されることがあった[70]。アメリカの『ニューヨーク・タイムズ』紙は，1938 年秋，スロバキア・ユダヤ人の厳しい状況を次のように特徴づけている。

> 彼ら（ユダヤ人 ── 引用者）はチェコ人による中央集権主義を支持し，また親ハンガリーの立場に立ちハンガリー語を話すと言って，スロバキアの人たちが非難している。これに対して，ハンガリー人はハンガリーを裏切ったとして彼ら（ユダヤ人 ── 引用者）を非難している[71]。

フリンカ・スロバキア人民党はスロバキアの民族主義的政党でもあったために，このようなステレオタイプの反ユダヤ主義が政治やプロパガンダの場面で活用されたことは，当然と言えば当然であった。

反ユダヤ主義は，政治のレベルでも現れた。フリンカ・スロバキア人民党の目からすれば，ユダヤ人は自由主義政治（場合によっては左翼政治）の代弁者であった。この点で，フリンカ・スロバキア人民党は，ユダヤ人の政治姿勢のことを「ユダヤ・ボルシェヴィズム（židoboľćevizmus）」と非難した。すべてのユダヤ人は，根っからの極左共産主義者と考えられていた。大統領ヨゼフ・ティソも同様に，「スロバキアに巣くう獅子身中の虫，ユダ

れば，ユダヤ人はキリスト教社会全体を灰燼に帰することになる。タルムードの教えにどっぷり漬(つ)かって染まりきったユダヤ人は危険な存在である。（*Slovák*, 10.2.1939, S. 1 を参照）

［訳者注記］『私たちの時代(ノストラ・エターテ)（*Nostra Aetate*）』の原文は，“Declaration on the Relation of the Church to Non-Christian Religions: Nostra Aetate,” proclaimed by His Holiness Pope Paul VI on October 28, 1965, https://www.vatican.va/archive/hist_councils/ii_vatican_council/documents/vat-ii_decl_19651028_nostra-aetate_en.html, accessed on April 11, 2023 参照。ユダヤ教との宗教関係はその第 4 項で言及されている。以下を参照。木鎌耕一郎「Nostra aetate 第 4 項 50 周年を記念した教皇庁文書　解説と翻訳」『研究紀要』（神戸松蔭女子学院大学）No. 2，2021 年 3 月。（https://shoin.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=2307&item_no=1&attribute_ id=22&file_no=1，accessed on April 15, 2023.）

（69）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a Štátna rada o židovskej otázke (1939-1945). Dokumenty*［スロバキアのホロコースト　第 2 巻 スロバキア共和国の大統領，政府，国会，国務院 ─ユダヤ人問題について（1939 年～1945 年）─および関連資料］, Bratislava 2003, S. 104.

（70）より詳しくは以下を参照。KAMENEC, Ivan, *Po stopách tragédie*［悲劇の軌跡］, S.13.

（71）*New York Times*, 6.11.1938.

ヤ・ボルシェヴィズムを奉ずる者」に対する闘いへの呼びかけを怠ることはなかった[72]。

もう一つの重要なレベルの反ユダヤ主義は，戦間期には早くもフリンカ・スロバキア人民党が使用していた経済レベルの反ユダヤ主義[73]である。フリンカ・スロバキア人民党は支持を取り付けようとして，ユダヤ人資産をスロバキア人に分配すると宣言していた。中央経済局（Ústredný hospodársky úrad: ÚHÚ）の統計によれば，1941年1月1日現在，ユダヤ人が占有していた経済分野のシェアは次のとおりである。

> ユダヤ人企業は1万2300社である（営業許可件数はもっと多い）。ユダヤ人就業者は1万3000人である。抵当権が設定されていないユダヤ人財産の価額は3150億スロバキア・コルナ，抵当権が設定されていないユダヤ人住宅の価額は9億5000万スロバキア・コルナ，ユダヤ人企業資産の価額は5億3000万スロバキア・コルナであった。また，普通預金の預入総額は3億5000万スロバキア・コルナであった。これらの総額はスロバキアの国富の約38％である[74]。

ユダヤ人にこれだけの財産があるのは，スロバキアのユダヤ人コミュニティがそれまでに歴史的発展を遂げていたからである。ユダヤ人財産の「アーリア化」が狙ったのは，まさにこれである。支配政党のフリンカ・スロバキア人民党は，このようなユダヤ人コミュニティの経済状況に目を付け，経済レベルの反ユダヤ主義に立ったプロパガンダや政治活動によってユダヤ人コミュニティを攻撃した。

反ユダヤ政策を実行したときのイデオロギーの根拠となったのは，ユダヤ人がスロバキアの国と国民にとっては不倶戴天の敵であるという命題である[75]。このような国民がスロバキアに誕生・存続したのは，最終的には二つの「要因」（第1に自前の反ユダヤ主義第2にユダヤ人，チェコ人，共産主義者を十把一絡げにした敵視，この二つ）が「合体」したからである。

国家の首脳中の首脳がスロバキアのユダヤ人コミュニティを評価するときも，このような立場をとっていた。それぞれのレベルの反ユダヤ主義の中には，ユダヤ人即敵というイメージが充填されていた。国会議員のアレクサンデル・マッハ[76]は，早くも1939年2月のスロバキア議会で，次のように断言していた。

（72）FABRICIUS, Miroslav - HRADSKÁ, Katarína (Hg.), *Jozef Tiso. Prejavy a články. Zv. II. (1938-1944)*［ヨゼフ・ティソ 演説と掲載記事 第2巻］, Bratislava 2007, S. 127; Vgl. bspw. NIŽŇANSKÝ, Eduard - LÔNČÍKOVÁ, Michala, Politická rovina antisemitizmu v karikatúrach Ľudových novín 1941–1942［『国民新聞』紙（1942年～1942年）のカリカチュアに見る政治レベルの反ユダヤ主義］, in: NIŽŇANSKÝ, Eduard - LÔNČÍKOVÁ, Michala (Hg.), *Antisemitizmus a propaganda*［反ユダヤ主義とプロパガンダ］, Bratislava 2014, S. 106–124.

（73）「社会経済的（sozio-ökonomisch）レベルの反ユダヤ主義」とも言う。

（74）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 154–155.

（75）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*, S. 6.

（76）アレクサンデル・マッハ（Alexander Mach）（1902年～1980年）。1922年からフリンカ・スロバキア人民党の幹部党員，1926–1939年，フリンカ・スロバキア人民党機関紙『スロバキアの人々（*Slovák*）』の編集者，後に主筆。1938年10月20日，政治宣伝局長（Úrad propagandy），1940年3月14日，フリンカ警護団（Hinková garda: HG）総司令官。1940年～1945年，内務大臣兼副首相（1944年まで）。戦後，禁固30年判決，1968年，恩赦。詳しくは以下を参照。MACH, Alexander, *Z ďalekých ciest*［遠い旅から］, Martin 2008; VNUK, František, *Maí svoj ćtát znamená život. Politická biografia Alexandra Macha*［国家を持つことは生きるということ　── アレクサンデル・マッハの伝記 ──］, Bratislave 1991.

……ユダヤ人は，我が国民の最大の敵であり不幸の一つである。このことを疑う者はいない。……[77]。

ユダヤ人への敵視と一体化したフリンカ・スロバキア人民党の反ユダヤ主義は，スロバキア固有の反ユダヤ政策を準備し実行に移すときの「意図（Intention）」[78] の基底にあったが，それはフリンカ・スロバキア人民党の「穏健派」（ヨゼフ・ティソ）と急進派（ヴォイテフ・トゥソ[79]，アレクサンデル・マッハなど）の両方に共通している。私見によれば，スロバキアの首脳が支持した反ユダヤ・イデオロギーとそれに基づく政策の実行との間には因果関係がある。スロバキア第一共和国が建国されて以降，政府の反ユダヤ政策が次々と道具化され，制度化されているからである[80]。「ユダヤ人」に関する 1939 年の定義，ユダヤ人財産の登録，ユダヤ人事業所の「アーリア化」と清算，そしてユダヤ人マークの着用を経て，ナチスの強制収容所への強制移送に至る過程はそのことを物語っている。

穏健派の考え方は，次のような 1939 年 1

(77) NIŽŇANSKÝ, Eduard, *Holokaust na Slovensku 1. Obdobie autonómie (6. 10. 1938-14. 3. 1939). Dokumenty* [スロバキアのホロコースト　第 1 巻 自治政府時代（1938 年 10 月 6 日～1939 年 3 月 14 日）および関連文書], Bratislava 2001, S. 116-117.

(78) 意図主義（Intentionalismus）については，以下を参照。GRIFFIN, Roger, *Faschismus. Eine Einführung in die vergleichende Faschismusforschung*, Stuttgart 2020; KERSHAW, Ian, *Der NS-Staat*, Hamburg 1989; KÜHNL, Reinhard, *Faschismustheorien*, Heilbronn 2014; MASON, Timothy, Intention and Explanation: A Current Controversy about the interpretation of National Socialism, in: HIRSCHFELD, Gerhard - KETTENACKER, Lothar (Hg.), *Der „Führerstaat". Mythos und Realität. Studien zur Struktur und Politik der Dritten Reiches*, Stuttgart 1981, S. 23-41; NIŽŇANSKÝ, Eduard, *Interpretácie faćismu historiografiou SRN (1945-1990)* [ドイツ連邦共和国の史料によるファシズムの解釈（1945 年～1990 年）], Nitra 1995, S. 119-137; SYRING, Enrico, Intentionalisten und Strukturalisten. Von einem noch immer ausstehenden Dialog, in: BACKEC, Uwe - JESSE, Eckhard - ZITELMANN, Rainer (Hg.), *Die Schatten der Vergangenheit. Impulse zur Historisierung des Nationalsozialismus*. Frankfurt am Main 1992, S. 169-194; WÖRSCHING, Mathias, *Faschismustheorien. Überblick und Einführung*, Stuttgart 2020.
［訳者注記］　ホロコースト研究における意図主義（Intentionalismus）とは，ホロコーストをヒトラーの構想（意図）の実現と見る考え方である。これに対して，機能主義（Funktionalismus）という考え方がある。これは，客観的主観的状況によって様々な役割（機能）を果たすナチス官僚の現場の判断によってホロコーストが実行されたと見る。二つの言説については, BERENBAUM, Michael, *The World Must Know*, United States Holocaust Memorial Museum, 1993 の訳書（『ホロコースト全史』（石川順子，高橋宏訳）創元社，1996 年）に寄せた芝健介「日本語版監修者序文」（2 頁以下）参照。

(79) ヴォイテフ・トゥカ（Vojtech Tuka）(1880 年～1946 年)。フリンカ・スロバキア人民党員。チェコスロバキア共和国時代にはフリンカ・スロバキア人民党選出の国会議員。1929 年，ホルティのハンガリーに与する独立運動家として反政府活動を行い，15 年の禁固刑を宣告されるが，1938 年恩赦。1939 年 3 月 14 日，スロバキア副首相，1939 年 4 月 18 日，内務大臣，1940 年 7 月 29 日～9 月 4 日，外務大臣，1939 年 10 月 27 日～1944 年 9 月 4 日，首相。スロバキア国家社会主義（Slowakischer Nationalsozialismus）を提唱し，第三帝国との無条件の協力を支持。1942 年のスロバキア・ユダヤ人に対するドイツの絶滅収容所への強制移送の主犯とされ，戦後死刑執行。

(80) スロバキアにおける反ユダヤ主義政治史と反ユダヤ主義法制史に関しては，以下を参照。HUBENÁK, Ladislav, *Rasové zákonodárstvo na Slovensku (1939-1945)* [スロバキアにおける人種法制（1939 年～1945 年）], Bratislava 2003; NIŽŇANSKÝ, Eduard *et al.*, *Holokaust v Bratislave, hlavnom meste Slovenskej republiky 1939-45* [スロバキア共和国の首都ブラチスラバにおけるホロコースト（1939 年～1945 年）], Bratislava 2013, (CD-ROM); ZAVACKÁ, Katarína, Fašizmus v práve na Slovensku [スロバキアの法におけるファシズム], in: *Studia historica Nitriensia* [ニトリエンシア歴史研究], Bd. IV, Nitra 1995, S. 115-128; *ditto*, Protižidovské zákonodarstvo slovenského štátu [スロバキア国における反ユダヤ法制], in: *Tragédia slovenských Židov* [スロバキア・ユダヤ人の悲劇], S. 59-76.

月のティソの次の発言に現れている。

> ユダヤ人問題は，スロバキア・ユダヤ人の影響力がスロバキアの総人口に占める割合と同じ程度にしか与えないようにすることによって解決されるであろう。経済と産業の分野で完全に自己主張できるように教育されたスロバキア人は，これまでユダヤ人が占有していた一切の地位を漸次引き継ぐことになるだろう[81]。

ティソの考え方は，スロバキアの社会，経済，職業，文化の各生活場面へのユダヤ人の参入割合を約4%に制限する（総人口に占めるユダヤ人の人数に比例させる）という「人員制限原理（Prinzip des Numerus clausus）」に基づいている。1938年のスロバキアの自治宣言から1940年7月のアドルフ・ヒトラーとのザルツブルク会談までは，穏健派はこのような考えの反ユダヤ主義政策を認めさせることができた[82]。

しかし，ザルツブルク会談の後で急進派が政権を握ると，ユダヤ人問題の「解決」は度を超えるようになった。「穏健派」はそれには反対しなかった。急進派のアレクサンデル・マッハは，早くも1939年に次のように主張している。

> 金，宝石，富を持つユダヤ人に対しては，どこでも秩序ある対応がなされてきた。我々もユダヤ人に対しては同じことをすることにしよう。……働かざる者，食うべからず，である。ユダヤ人とグルになって盗みを働いた者は，その盗品を取り上げられるであろう。あらゆるユダヤ人問題に対する現実的な解決策は，これだ[83]。

急進派が反ユダヤ政策を実行したのは，特にザルツブルク会談［1940年7月］の後である。その度外れた反ユダヤ主義の行き着く所は，ユダヤ人経営の清算と「アーリア化」，あるいは（医師，薬剤師，獣医師などの）専門的職業従事者の就業禁止による，ユダヤ人コミュニティの全般的窮乏化であった。この政策は，1942年の強制移送でピークに達した。

2. ホロコーストの諸段階

（1）準備段階：1938年10月6日～1939年3月14日（自治政府時代）

この時代のスロバキアでは，「ユダヤ人問題の解決」について，①保守の穏健派（首相のヨゼフ・ティソ，1939年初代大統領）と②ファシスト過激派（後の首相ヴォイテフ・トゥカ，フリンカ警固団総司令官アレクサンデル・マッハ）の二派が形成されていた。ヨゼフ・ティソたちの穏健派は，経済生活に占めるユダヤ人の割合を4%（総人口に占める割合とほぼ同じ）に抑えようとした。他方，後に首相に就任するヴォイテフ・トゥカやフリンカ警固団総司令官アレクサンデル・マッハらの急進派は，ナチス・ドイツを手本にして「ユダヤ人問題」に対する迅速な解決を望

（81）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 26–7.

（82）Näher dazu LIPTÁK, Ľubomír, Príprava a priebeh salzburských rokovaní v roku 1940 medzi predstaviteľmi Nemecka a slovenského štátu［1940年におけるドイツ代表とスロバキア代表とのザルツブルク会談の準備と経過］, in: *Historický časopis*［歴史学雑誌］, 1965, Nr. 3, S. 329–364; NIŽŇANSKÝ, Eduard *et al.*, *Slovakisch-deutsche Beziehungen 1938-1941 in Dokumenten I. Vom München bis zum Krieg gegen die UdSSR*, Prešov 2009, S. 885–890.

（83）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 27.

んだ。

1939 年 1 月 23 日，自治政府が設置した「シドル[84] 委員会」[85] はユダヤ人を定義して，政令によるユダヤ法の制定に備えた。手際よく，早くも 1939 年 4 月 18 日にはユダヤ人を定義した政令がスロバキア政府によって施行された。強制移送の最初の波は，自治政府の時代に寄せてきた。1938 年 11 月のユダヤ人強制移送は，第一次ウィーン裁定に対してスロバキア政府が即応した結果である。裁定受諾の数週間後に自治政府が樹立され，フリンカ・スロバキア人民党が組閣した政府は［領土の割譲という］外交上の失敗を甘受せざるを得ず，これまでの成果と言われてきたものが疑問視されるようになった。

ティソ一派は，ウィーン裁定で敗北したことに対する「スケープゴート（Sündenbock）」を必要としてそれを探し求め，領土の割譲をユダヤ人のせいにした。政界の支配層は，自分たちが［ミュンヘン会談のときと同様に］またしても外国支配の犠牲になったのではないかと危惧するようになった。こうして排外主義が強まり，極端な解決策が求められるようになった。1938 年 11 月，スロバキア自治政府は，第一次ウィーン裁定に基づいてハンガリーに割譲される領土にユダヤ人約 7500 人を強制移送することにした。フリンカ警固団と義勇親衛隊（Freiwillige Schutzstaffel: FS）（ドイツ党の準軍事組織で，隊員はスロバキアのマイノリティであるドイツ人から募集）は，この状況に乗じてユダヤ人を襲撃・略奪した。中立地帯（ノーマンズランド）[86]（Niemandsland）（スロバキアとハンガリーの国境地帯）のミロスラヴォフ（Miloslavov）［ブラチスラバ近郊］とヴェルキー・キール（Veľký Kýr）［ニトラ近郊］の 2ヶ所に収容所が設けられ，12 月末まで 700 人のユダヤ人がそこで「生活」することになった。

これにはハンガリーが拒否したために，スロバキア政府から見ると強制移送は失敗し，ユダヤ人はスロバキアに戻さざるを得なかった[87]。

ここで 1938 年 11 月以降に時計の針を戻して，そのときの強制移送について述べることにしよう。政府やマスコミが煽ったために，ユダヤ人は復讐や略奪の的になり，例えばケジュマロク県（Kreis Kežmarok）では集団虐殺（ポグロム）（Pogrom）に発展した。狂信とハルマゲドン信仰（Fanatismus und Endzeitglaube）が，特にフリンカ警護団の出動を決定づけた。彼らは昼となく夜となく，「使い物にならないユダヤ人」（男性，女性，子ども，高齢者など）を掻き集め，区別なくトラックに「詰め込んで」ハンガリーに割譲した旧領土へと強制移送した。最も残酷だったのは，ケジュマロクとニトラ（Nitra）からの強制移送のときで，そこでは「義勇兵（Legionäre）」だけでなく，暴徒と化したマイノリティのドイツ人も動員されていた。

スロバキアの国としての行政機関が関与せず，組織化と計画立案に寄与しなければ，大

(84) カロル・シドル（Karol Sidor）（1901 年～1953 年）。フリンカ・スロバキア人民党員。自治政府時代にチェコスロバキア政府の副首相としてプラハで活動。1939 年の 3 月危機では，ドイツが圧力をかけてスロバキアの独立を宣言させようとしたが，スロバキア自治政府の首相としてそれを拒否。1939 年 3 月 14 日，スロバキア国の独立宣言の後，ドイツの主導によりスロバキアの政界から外された。1939 年 7 月～終戦，バチカン駐在スロバキア大使。

(85) 委員会メンバーは以下のとおり。パヴェル・テプランスキー（Pavel Teplánsky）（自治政府財務大臣），ミクラーシュ・プルジンスキー（Mikuláš Pružinský）（自治政府経済大臣），フェルディナンド・デュルチャンスキー（Ferdinand Ďurčanský）（自治政府交通大臣），ユリウス・ヴィルシック（Julius Virsik）（弁護士）。

(86)「摩擦を避けるため，撤退部隊と接収部隊の間に幅 3㌔の中立地帯を確保するものとする。」例えば以下を参照。*Frankfurter Zeitung* vom 6. 11. 1938.

量移送はほとんど不可能であったであろう。決定的な事柄は中央官庁が当たり，警察本部，内務省，経済省は国の機関と緊密に連携した。強制移送を調整したのは，「スロバキア・ユダヤ人問題解決センター（die „Zentrale für die Lösung des Jüdischen Problems in der Slowakei“）」という名称の新しい行政機関である。地方の行政事務所と警察機関は，ブラチスラバから発出された政令を言われるままに実行した。

強制移送の政治的責任は，もっぱらヨゼフ・ティソにある。当時は強制移送を所管する政府機関がなかったために，ティソがみずから決済したからである。1938年11月の強制移送は，まだ有効であったチェコスロバキア憲法に違反していた。ヨゼフ・ティソとスロバキア政府だけでなく，後に選出された議員もまた，強制移送が憲法違反であるとの認識はしていた。そのときからほぼ2年が経過した1940年6月5日，スロバキア議会は憲法と同等の効力を持つ法律を可決して，特にこのときの強制移送を遡及して合法とした[88]。1938年11月の中立地帯（ノーマンズランド）へのユダヤ人の強制移送は上述したとおりであったにもかかわらず，1939年2月9日にヨゼフ・ティソは，「スロバキアでは，ユダヤ人問題は公正かつ社会的で人道的な方法によって解決されるだろう。」[89] と断言した。

（2）第1段階：1939年3月14日～1940年8月

1939年4月に，本人の信仰告白に基づきユダヤ人が初めて次のように定義された。

（1）以下の者は，性別および国籍に関わりなく，ユダヤ人である。

1. 現在ユダヤ教徒であるか，もしくは1918年10月30日以降にキリスト教に改宗したが，過去にユダヤ教徒であった者。
2. 現在ユダヤ教を信仰していないか，あるいは過去にユダヤ教を信仰していなかった者で，少なくとも親の一人がユダヤ教徒である者の子。
3. 本項第1号または第2号に掲げる者の子。ただし，1918年10月30日以前にキリスト教に改宗した者を除く。
4. この政令の施行の日以降に，本項第1号乃至第3号の者と婚姻した者，および婚姻中の者。
5. この政令の施行の日以降に，本項第1号乃至第3号の者と同棲している

（87）Siehe näher: BODENSIECK, Hans, Das Dritte Reich und die Lage der Juden in der Tschecho-Slowakei nach München, in: *Vierteljahreshefte für Zeitgeschichte*, 1961, roč. 9, S. 249–261; FRANKL, Michal, Země nikoho 1938. Deportace za hranice občanství［ノーマンズランド　1938年 ── 市民権無視の強制移送 ──］, in: *Forum Historiae*［歴史フォーラム］, Vol. 13, No. 1, 2019, S. 92–115; KAMENEC, Ivan, Židovská otázka a spôsoby jej riešenia v čase autonómie Slovenska［スロバキア自治政府時代におけるユダヤ人問題とその解決］, in: *Nové Obzory*［新地平線］, Vol. 10, 1968, S.155–180; NIŽŇANSKÝ, Eduard, Die Deportationen der Juden in der Zeit der autonomen Slowakei im November 1938, in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung*, Bd. 7, 1998, S. 20 – 45; NIŽŇANSKÝ, Eduard. Die jüdische Gemeinde in der Slowakei 1938/39, in: *Jahrbuch 2000 - Dokumentationsarchiv des österreichischen Widerstandes*, Wien: DOEW, 2000, S. 133–166; NIŽŇANSKÝ, Eduard, *Židovská komunita na Slovensku medzi československou parlamentnou demokraciou a slovenským štátom v stredoeurópskom kontexte*［チェコスロバキアの議会制民主主義とスロバキア国の狭間にあるスロバキア・ユダヤ人コミュニティ ── 中欧の文脈の中で ──］, Prešov 1999; NIŽŇANSKÝ, Eduard (ed.), *Židovská komunita na Slovensku. Obdobie autonómie. Porovnanie s vtedajšími udalosiami v Rakúsku*［自治政府時代におけるスロバキア・ユダヤ人コミュニティ ── オーストリアとの比較研究 ──］, Bratislava, 2000.

（88）*Slovenský zákonník 1940*［1940年版スロバキア法令集　1940年］, S. 226.

（89）*Slovák*, 10. 2. 1939.

者，およびその婚外婚により生まれた子。

(2) 特別の考慮すべき事由がある場合には，政府が認めた例外を適用する[90]。

1939 年 4 月 28 日，外国人記者を前にした講演で首相ティソ［大統領就任は 1939 年 10 月 26 日］は，自由主義・マルクス主義に対する攻撃と反ユダヤ主義とを合体させる方法を知っていると証明して見せた。スロバキア・ユダヤ人について次のように述べている。

> もう一つの前提条件は，我が国の国民だけでなく，我が国における正当な居住権を持つ人々が市民生活の主要分野に参入することです。国民生活からユダヤ人を確実に排除してはじめて，このような社会的・経済的秩序が実現します。スロバキアでもユダヤ人は常に不穏分子であり，マルクス主義思想と自由主義思想の主たる担い手であったからに他なりません。すでに行政の全体が隅々までユダヤ人の穢(けが)れを浄化し，弁護士と医師[91]に占めるユダヤ人の割合を最小限に抑え，その医療行為をユダヤ人の患者だけに限定しました[92]。ビジネスや工業においても，同様のことが少しずつ実行に移されることになります。我が国における脱ユダヤ化闘争（der Kampf um die Entjudung）に対して内外からどのような抵抗があろうとも，我々は躊躇することはないでしょう。

この演説の中でティソは，毅然として次のように宣言した。

> スロバキア国は，すべての国民に平等な権利と福利を保証します。我々は外国籍の居留民に対しても，国民としての完全な自由を保証します[93]。

反ユダヤ政策は，それに固有の論理を持っている。政府としては，「ユダヤ人なる者」をあのように定義しなければ，徐々にユダヤ人を市民生活から排除してゆくことはできなかったであろう。ユダヤ人が定義された直後に，最初の反ユダヤ主義的な政令や法律が施行され，それに基づいてユダヤ人は社会と経済の分野から排除され，政治的・市民的権利を次々と剥奪されたのである（ユダヤ人の公務員[94]，医師[95]，薬剤師[96]，ジャーナリスト[97]，弁護

(90) 1939 年政令第 63 号（「『ユダヤ人』の定義，および若干の自由業におけるユダヤ人の人数制限に関する政令」）。*Slovenský zákonník 1939*［1939 年版スロバキア法令集］.

(91) ユダヤ人医師に対する措置の根拠は，1939 年政令第 184 号（「医療行為におけるユダヤ人の人数の規制に関する政令」（1939 年 7 月 25 日）である。ティソが演説した 4 月には，この政令はまだ施行されていなかった。

(92) ティソが話しているのは，演説の後になって日の目を見た措置のことである。以下を参照。1939 年政令第 63 号（「ユダヤ人概念の定義と若干の自由業におけるユダヤ人の人数制限に関する政令」（1939 年 4 月 18 日）），1939 年政令第 74 号（「公務からのユダヤ人の排除に関する政令」（1939 年 4 月 24 日））。

(93) Fabricius, Miroslav - Hradská, Katarína (Hg.), *Jozef Tiso. Prejavy a články. Zv. II. (1938-1944)*［ヨゼフ・ティソ 演説と掲載記事 第 2 巻］, S. 114f.

(94) 1939 年政令第 74 号（「公務からのユダヤ人の排除に関する政令」），*Slovenský zákonník 1939*［1939 年版スロバキア法令集］.

(95) 1939 年政令第 184 号（「医療行為におけるユダヤ人の人数制限に関する政令」），*Slovenský zákonník 1939*［1939 年版スロバキア法令集］; 1939 年政令第 289 号（「1939 年政令第 184 号（「医療行為におけるユダヤ人の人数制限に関する政令」）の施行に関する内務省政令」），*Slovenský zákonník 1939*［1939 年版スロバキア法令集］.

(96) 1939 年政令第 145 号（「ユダヤ人薬剤師の権利剥奪，および薬局のユダヤ人従業員の人数制限に関する政令」），Slovenský zákonník 1939［1939 年版スロバキア法令集］; 内務省通達第 192-210,

士[98]などの就業禁止や人員制限（ヌメルス・クラウスス）など）[99]。

①アーリア化の始まり[100]

スロバキア（特にスロバキア西部）では，中産階級のユダヤ人が多かった。20世紀初頭まで，スロバキア人の90%が貧農であった（ハンガリーの相続法では，家族のすべての子が被相続人となっていたため，土地はますます細分化された）。ユダヤ人の所得はスロバキアの全国民所得の38%を占めていて（資産額は22億5000万スロバキア・コルナ），1万2000の商店と会社を所有していた（その多くは家族全員が就業する小規模の家族経営）。ほとんどの村に小さなユダヤ人商店があり，どの町の中央広場にもユダヤ人の自宅があった。急進派，「穏健派」を問わず，フリンカ・スロバキア人民党の政治家はいつも社会・経済レベルの反ユダヤ主義を論拠として（「スロバキア経済はユダヤ人に乗っ取られた。スロバキア人を酒に溺れさせたのはユダヤ人だ。」など），反ユダヤ政策の後ろ楯が必要なときに，「ユダヤ人カード」[訳注1]を切った。

239, 260, 272, 273, 286, 289号（「ユダヤ人薬局の管理監の任命に関する内務省通達」），*Slovenský zákonník 1939*［1939年版スロバキア法令集］.

（97）1939年政令第63号（「ユダヤ人概念の定義，および自由業におけるユダヤ人の人数制限に関する政令」），*Slovenský zákonník 1939*［1939年版スロバキア法令集］.

（98）1939年政令第63号（「ユダヤ人概念の定義，および自由業におけるユダヤ人の人数制限に関する政令」），*Slovenský zákonník 1939*［1939年版スロバキア法令集］.

（99）Dokument 24［第24文書］［以下，Dokument xxと記す（xxは文書番号）。］
［訳者注記］「解題」で述べるように，この訳文の底本を収録した著作（Eduard Nižňanský und Katarína Psicová, *Antisemitizmus a holokaust na Slovensku v dokumentoch nemeckej proveniencie 1938 - 1945/ Antisemitismus und Holocaust in der Slowakei in Dokumenten deutscher Provenienz von 1938 bis 1945*, Múzeum Slovenského národného povstania: Banská Bystrica, 2021, SS. 80ff.）には，1938年～1945年に作成された関連文書（史料）が，番号を付して掲載されている。Dokument 24は，その中の24番目の文書である。

（100）ユダヤ人の財産に対するスロバキア共和国による侵害については，ユダヤ人財産の類型別反ユダヤ立法が定める「規制」でよく理解することができる。

（a）農業財産（1940年法律第46号（「農地改革に関する法律」），1940年法律第45号（「農地改革，およびユダヤ人所有地のアーリア化を実施する国土庁に関する法律」）

（b）ユダヤ人の企業・事業（1940年法律第113号，1940年政令第303号など）

（c）ユダヤ人所有の家屋資産（1941年通達第238号，1941年1月），これによりユダヤ人所有の家屋が国有化。

（d）ユダヤ人の銀行預金口座（1940年政令第271号，同第272号，1941年政令第186号，同第199号など）

（e）ユダヤ人の動産（税務当局が強制移送された者の資産を競売にかけた1942年から関連政令が公布されるまでに通達された，ユダヤ人の財産権の侵害に関する長大な政令の一覧表参照），株式など，その他の財産。

また，医師，薬剤師，弁護士などの就業制限も重要である。これによって，ユダヤ人の生計の道が妨害されてしまったからである。

このために最初に，「ユダヤ人」を定義する必要があった（当初は1939年政令第63号によったが，後に1941年政令第198号［ユダヤ法］によった）。その上で，ユダヤ人の財産を登録しなければならなかった（特に1939年政令第149号と1940年政令第203号による）。さらに，政府はユダヤ人財産を所管する専門機関を設立した。1940年の年頭以降，首相府経済局（Hospodárska úradovňa predsedníctva vlády: HÚPV）がそれに当たり，同年9月からは中央経済局（Ústredný hospodársky úrad: ÚHÚ）と国土庁（Štátny pozemkový úrad: ŠPÚ）が担当した。

上述の「政令の一覧表」については，以下を参照。NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, Bratislava 2003, S. 311-326.正確な文言は，『スロバキア法令集（*Slovenský zákonník*）』（各年版），『官報（*Úradné noviny*）』（各年版）を参照。

［訳注1］ ここに「ユダヤ人カード」とは，例えば

②ユダヤ人企業の国選管財人（Regierungstreuhänder）と管理代行者（kommissarische Verwalter）

振り返ってみると，ユダヤ人企業の国選管財人と管理代行者に関する政令の制定は，アーリア化の準備と見ることができる。アーリア化関連の政令が初めて公布されたのは，ハンガリーに割譲された領土にユダヤ人の一部を「追放（Abschiebung）」しようとした直後の 1938 年 11 月のことである。チェコスロバキア国籍を有する者の店舗や商業施設は，州知事（Landesamtspräsidium）[101] が公布する政令により接収され，その他のすべての経営は「信頼できるしかるべき代理人に委任し，その者が店舗や商業施設を清算する」ことになった。

スロバキア国の建国に伴って，経済面での反ユダヤ措置も新局面を迎えた。1940 年 3 月 15 日，製造業と商業についての国選管財人の任命に関する政令（1939 年政令第 19 号）が公布されたが，その数ヶ月後の 1939 年 6 月 20 日には，工業と手工業についての国選管財人と管理代行者に関する政令（1939 年政令第 137 号）が公布された。これらの政令の目的は，国選管財人や管理代行者を任命して，企業をその管理下に置き引き続き経営を確保することであった。国選管財人の業務は，事業を管理してそのオーナーに問題点を指摘し，当該企業に対して国への責務を果たさせることであったが，国選管財人への企業からの金銭支払，もしくは企業への金銭要求は許されなかった。従業員 50 人以上の企業の国選管財人は経済省が任命し，その他は郡事務所（Bezirksamt）が決定した。国選管財人は，1938 年の売上高が 100 万スロバキア・コルナ以上の工場，または前年売上高が 50 万スロバキア・コルナ以上の企業に対してのみ，任命された。管理代行者の任務は，1939 年政令第 137 号によって詳細に規定された。国選管財人とは異なり，管理代行者の権限は，事業を維持するために必要なあらゆる活動に及んだ[102]。

この政令は全企業に有効であり，ユダヤ系企業だけを対象としていたわけではないことを付け加えておかなければならない。国選管財人の地位が収入面でとても魅力的であったことは，特に重要である。1939 年 7 月 27 日の 1939 年経済省省令第 175 号によって，給与は，それぞれの企業の年間売上高と従業員数に応じて，500 スロバキア・コルナ～1200 スロバキア・コルナに定められていた[103]。ユダヤ人財産をアーリア化する問題は，スロバキア第一共和国の大統領，政府，議会，国務院が取り組んだ最重要課題の一つであった。「ユダヤ人企業およびユダヤ人従業員に関す

利権が絡むときに相手に「ユダヤ人の友人だ」とか「ユダヤ人と同じだ」とかと非難して，有利に事を進めるために使われる（カードゲームにおける万能のジョーカーのような）決まり文句に対する比喩的な表現である。単に「カード」と言われることもある。

（101）チェコスロバキア時代（1928 年～1939 年）の行政機構では，州庁（das Landesamt）が最高の地方行政機関であった。1939 年に，州（Land）は大管区（Gau）に置き換わった。

（102）1939 年政令第 19 号，および同 137 号，*Slovenský zákonník 1939*［1939 年版スロバキア法令集］）.

（103）1939 年政令第 175 号（*Slovenský zákonník 1939*［1939 年版スロバキア法令集］）。売上高が 100 万スロバキア・コルナまでの商業および手工業における国選管財人の給与月額は 500 スロバキア・コルナ，売上高が 100 万スロバキア・コルナ以上の場合は 800 スロバキア・コルナである。工業では，月額給与が 800 スロバキア・コルナか 1000 スロバキア・コルナかを決定するのは，従業員数が 50 人未満かそれ以上かであった。子会社を持つ会社の国選管財人が受け取ることのできる月額給与の上限は 1200 スロバキア・コルナである。これらの給与に加え，国選管財人には，事業主と合意して事業に必要な出張をする場合，その費用（その他の報酬を含む）を請求することができた。

る法律」に対する政府の提案趣意書には，次のように書かれている（1939年であることは確かだが，提出の詳細な日付は不詳）。

> スロバキアの経済活動がキリスト教徒の手に渡ることを望む全国からの願いは，日を追って強くなり，政府からの声明も頻繁に出されている。スロバキアの経済活動に与えているユダヤ人の影響力を現状では完全に取り除くことはできないが，少なくとも経済的に価値のある物件を現在所有しているユダヤ人の手から奪い去るとともに，彼らが果たしている機能を徐々に引き継ぐように努力してゆかなければならない。アーリア化はしなければならない。ここにアーリア化とは，経済における衡平性を欠いたユダヤ人の人数を減少させるという意味である[104]。

国会の予算委員会で経済大臣ゲイザ・メドリツキー[105]（Gejza Medrický）は「アーリア化」（ユダヤ人所有の企業および土地に関する法律）に関して次のように発言した。

> ……経済戦争を引き起こす事実上の障害を克服するには，我々みずからが妨害しないようにしなければならないことは言うまでもなく，経済生活に言われなく立ち入ろうとする輩（やから）を退場させるのが望ましい。そうすれば，それ（無許可の輩――引用者）が外国分子（ユダヤ人――同）や外国資本（ユダヤ資本――同）に支配されることはありません。なにしろ今日ではもうすでに，アーリア化の完全に合法的な履行を可能にする10本の法令があります。ユダヤ人が所有する企業と企業に雇用されるユダヤ人従業員に関する包括的な法案が，まもなく国会に提出されることになっています。新しい農地改革でも，ユダヤ人の土地所有を閉め出そうとしています。こう述べるのは，アーリア化も前進していることを知ってもらいたいからです。……アーリア化と新企業設立は，起業家精神を持つキリスト教徒を，万難を排して迎え入れて行わなければなりません。スロバキアでは1939年3月14日から11月中旬までの間に，2000件以上の新規事業免許がキリスト教徒に与えられました。その一方で，ユダヤ人の営業許可が取り消され，その数はこの7ヶ月で211件に及びます[106]。

このように，経済大臣メドリツキーはアーリア化と反ユダヤ的法律の制定をはっきりと支持した。一見して分かるように，彼の態度は経済レベルの反ユダヤ主義を表している。この種の反ユダヤ主義を道具とする過程で，政府と議会は1940年法律第113号（「第一次アーリア化法」）を通した。政府と議会は，言わば「手に手を取って」動いたのである。原則的な異論を唱えた政党は一つもなかった[107]。

（104）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2. Prezident, vláda, Snem SR a Štátna rada o židovskej otázke (1939 - 1945)*, Bratislava 2003, S. 32–37.

（105）ゲイザ・メドリツキー（Gejza Medrický）（1901年～1989年）。フリンカ・スロバキア人民党員。元ジャーナリスト（日刊新聞『スロバキアの人々（*Slovak*）』と雑誌『農家（*Roľnik*）』）。1938年，スロバキア自治政府議員，1939年～1944年，経済大臣。

（106）*Haderech*［雑誌］, 21.12.1939, S. 1.

（107）これについては以下を参照。Tesnopisecká správa z 27. zasadnutia Snemu SR 29.2.1940［スロバキア共和国国民議会第27回会議速記録（1940年2月29日）］, Vgl. NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 42–68; Tesnopisecká správa

なお，この法案はスロバキア共和国国会の一回目の投票では反対に合って採択されなかった。それは，アーリア化基金の創設のことでティソをはじめとして，ヴォイテフ・トゥカとメドリツキーも声を上げたからである[108]。スロバキアには自由になる資金がほとんどないことを認識していたティソは，「アーリア系スロバキア人（Slováci-árijci）」がアーリア化の担い手になるとき［に資金を融通するため］の基金の創設を提案したが，資金不足のため日の目を見なかった。一般的に言えば，第 1 段階の「アーリア化」は 1939 年から 1940 年にかけて段階的に進められた。スロバキア共和国の建国から 1940 年の秋までに「穏健派」によって実施されたこの「アーリア化」は，ユダヤ人財産の「スロバキア化（国有化）」あるいは「キリスト教徒化」という考えから生まれた[109]。

国家社会主義の国ドイツから派遣された［ブラチスラバ駐在ドイツ］公使ハンス・ベルナルト（Hans Bernard）がベルリンに送った 1940 年 3 月 15 日付のレポートは，これととてもよく似ていて，次のように書かれている。

> スロバキア政府は，脱ユダヤ作戦の全体をもっぱらスロバキア化のための作戦として育て上げようとしている。したがって，第三帝国としてはこの作戦の遂行に当たっては，イデオロギー的にも経済的にもこれまで以上にドイツの利益が確保されるよう主張せざるを得ない。……[110]

しかし，スロバキアの政治家たちは［「アーリア化」を徹底すれば］どうなるかをよく分かっていたから，経済が回らないようにはしたくなかった。そのために，ユダヤ人が所有する企業の強制買上げならびに元のユダヤ人オーナーとアーリア人との協力関係は当分の間維持してゆくことにした。その当時は「漸進的アーリア化」と言われた，この第一段階目のアーリア化は，上に述べた 1940 年法律第 113 号の裁決とリンクしていたが，現実的な理由から，政府は工場を持つ大規模なユダヤ人企業への介入を望まず，（ナチス・ドイ

---

z 33. zasadnutia Snemu SR 25.4.1940［スロバキア共和国国民議会第 33 回会議速記録（1940 年 4 月 25 日）］, Vgl. NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第 2 巻］, S. 74–80.

（108）首相マルティン・ソコル（Martin Sokol）に宛てたヨゼフ・ティソ，ヴォイテフ・トゥカ，ゲイザ・メドリツキー（Gejza Medrický）の書簡（1940 年 3 月 19 日付）は，ユダヤ人企業とそこに雇用されるユダヤ人従業員に関する審議中の法案への反論である。NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*, S. 69–70.

（109）HALLON, Ľudovít - HLAVINKA, Ján - NIŽŇANSKÝ, Eduard, Pozícia Ústredného hospodárskeho úradu v politickom, hospodárskom a spoločenskom živote Slovenska v rokoch 1940–1942［1940 年～1942 年におけるスロバキアの政治，経済，社会生活における中央経済局の位置］, in: NIŽŇANSKÝ, Eduard - HLAVINKA, Ján (Hg), *Arizácie*［アーリア化 Arisierungen］, S. 11–65; HLAVINKA, Ján, Sklamanie „umiernených“ ľudákov: prvý arizačný zákon a jeho výsledky［「穏健派」の失望 ── 第一次アーリア化法とその結果 ──］, Ján Hlavinka, in: *Historik a deiny: v česko-slovenskom storočí osudových dátumov: jubileum Ivana Kamenca*［歴史学者と歴史 ── チェコ・スロバキアの運命の世紀 ── イヴァン・カメネツ生誕 80 周年記念］, Bratislava: Historický ústav SAV［スロバキア科学アカデミー歴史研究所］, 2018, S. 87–102; NIŽŇANSKÝ, Eduard, Arizácie a problémy majetku Židov na Slovensku v hláseniach predstaviteľov nacistického Nemecka (1939–1943)［ナチス・ドイツ担当者の報告書に見るスロバキアにおけるアーリア化とユダヤ人財産の問題（1939 年～1943 年）］, in: *Arizácie*［アーリア化］, Bratislava 2010, S. 142–150; KLAMKOVÁ, Hana, Slovakizácia židovského majetku: proces zainteresovania slovenskej spoločnosti na tzv. židovskej otázke［ユダヤ人財産のスロバキア化 ── いわゆるユダヤ人問題へのスロバキア社会の関与について ──］, in: *Arizácie*［アーリア化］, S. 113–141.

（110）Siehe Dokumente 38 und 40.

ツに買収されない限りは）ユダヤ大資本との一時的な協力という戦術のほうを選んだ。この段階では，アーリア化を指揮したのは経済省（その中の「アーリア化担当部門」）であり，大管区庁（政府と地方行政機関）が管掌した。しかし，この段階でも，首相トゥカの周辺にいた急進派勢力の主導で，首相府経済局（Hospodárska úradovňa predsedníctva vlády: HÚPV）が創設されるようになると，「二重支配」と言われるものが現われた。この部署は組織上首相府の一部であった。急進派で野心家のアウグスティン・モラーヴェク[111]が首相府経済局長に就任した。モラーヴェクは，アーリア化が私腹を肥やす機会だと捉え，みずから数件のユダヤ人企業のアーリア化に関与した。しかし，首相府経済局はまだ十分な法的権限を持っていなかったため，「アーリア化」の第1段階では副次的な役割を果たしたに過ぎなかった[112]。

イヴァン・カメネツによれば，1940年法律第113号が有効であった約3ヶ月の間にユダヤ人企業は229が清算され，そのうち50がアーリア化された[113]。

1940年法律第46号が施行されると，ユダヤ人が所有する土地のアーリア化も始まった。この段階でスロバキア・ユダヤ人の迫害をリードしたのは，どちらかと言うと保守的で穏健な勢力であった。

③アーリア化と大統領ヨゼフ・ティソ

ティソは，1940年8月9日，アーリア化の問題に関するフリンカ・スロバキア人民党事務局会議で次のように述べた。

> ……ユダヤ人問題について述べたいと思います。ユダヤ人は私に数多くの手紙を寄せて，私たちがやっていることはキリスト教の教義に適うものかどうかと尋ねてきたからです。このことから，ユダヤ人は私にキリスト教のことを教えたいと思っているのではないかと考えるに至りました。しかし，それは議論するに足りません。議論すべきは，私がユダヤ人のために国民を破滅させないようにするにはどうすべきかということなのです。ユダヤ人がどれだけいようとも，私にとって国民はユダヤ人以上の存在です。ユダヤ人のせいで国民が生存の危機に瀕するかもしれないと思うとき，私はキリスト者としてまず自分に対して，次に皆さんに対してこう言いたい。まったく不正はありません。買い上げただけです。個人が行うことについては，その人みずからが責任を負っています。国家が行うこと，党が行うことについては，すべてが正義の原則に従っていますので，私た

（111）アウグスティン・モラーヴェク（Augustín Morávek）（1901年～？）。1940年，首相府経済局（Hospodarska uradovňa predsednictva vlady: HÚPV），1940年～1942年，中央経済局（Ústredný hospodársky úrad: ÚHÚ）の局長としてスロバキアのアーリア化を組織した。モラーヴェクの人となりについては以下を参照。MIČEV, Stanislav, *Augustín Morávek. Od arizácií k deportáciám*［アウグスティン・モラーヴェク―アーリア化から強制移送へ―］, Banská Bystrica 2010.

（112）HALLON, Ľudovít, Arizácia na Slovensku 1939-1945［スロバキアにおけるアーリア化（1939年～1945年）］, in: *Acta Oeconomica Pragensia*, Vol. 15, 2007, Nr. 7, S. 148-160; HLAVINKA, Ján, Arizačný proces ako súčasť „riešenia židovskej otázky“ na Slovensku［スロバキアにおける「ユダヤ人問題」の一解決策としてのアーリア化］, in: *Acta Judaica Slovaca*, Vol. 14, 2008, S. 21-38; HLAVINKA, Ján - FIAMOVÁ, Martina, Arizácia židovského majetku［ユダヤ人財産のアーリア化］, in: FIAMOVÁ, Martina - HLAVINKA, Ján - SCHVARC, Michal *et al.* (Hg.), *Slovenský čtát 1939-1945. Predstavy a realita*［スロバキア国（1939年～1945年）―そのイメージと現実―］, Bratislava 2014, S. 255-272.

（113）KAMENEC, Ivan, *Po stopách tragédie*［悲劇の軌跡］, S. 69.

ちはその原則に則って，私たちの良心の責任においてそうしているだけなのです。そして，かつて盗まれたスロバキア人の財産が，今日はスロバキア人の手に戻る，それは当然のことなのです……[114]。

ティソの演説からは，経済レベルの反ユダヤ主義が透けて見える。アーリア化の推進者として登場したティソは，アーリア化によるユダヤ人コミュニティからの強奪とそれによるユダヤ人の貧困化，そしてユダヤ人経営の清算をスロバキア・ナショナリズムで何とか正当化した。さらに，ティソは，ユダヤ人を犯罪者に仕立て上げて，元はと言えばユダヤ人がスロバキア人から財産を盗んだのだから，スロバキア人がそれを取り戻して何が悪い，と主張した。筆者から見ると，ティソの登場が重要であるのは，キリスト教（カトリック）の立場に立つティソが，アーリア化は悪いことではないと断定しているためである。こうして，政治（あるいはナショナリズムの）レベルの反ユダヤ主義と宗教レベルの反ユダヤ主義とを一体化させる者としてティソが登場した。ティソという一人の人物の中に政治家と聖職者とが同居していたのだから，これは論理的と言えよう。

ティソは，アーリア化の担い手（Arisierer）の問題に言及し，次のように認めた。

アーリア化はしなければならないのに，その担い手がいないのです。……アーリア化が予定されている 2 万 5000 件に対し，その担い手として登録したのは 5000 人しかいません[115]。……国家公務員もアーリア化の担い手になれるようにしなければなりません。例えば，政府高官がホテル，製鉄，製紙，石炭などの事業をアーリア化するための担い手になったとしても，落ちぶれたことにはなりません。社会的な面目を失うこともありません。工場で作ったモノを大八車に載せて路上をみずから運ばなければならないと言っているのではありません。それはそれで恥ずべきことではありませんが，事業の経営者となることで強固な中産階級が生まれれば，それは国家の大黒柱となります。国家公務員がアーリア化の担い手になるというのは，ブラチスラバに住んでいる大臣級の人たちだけではなく，一人ひとりの地方公務員の話でもあるのです[116]。

このときティソは，アーリア化の過程で発生する汚職[117]，縁故主義，国家支援によるユダヤ人財産の組織的強奪など一切を善しとした。アーリア化を進めた結果がこれであった。政見演説の中でティソは，「アーリア化」の成果を得々として自慢した。1941 年 6 月，スロバキア・リーグ（Slovenská liga）［サッカー］の大会に当たり，ティソがアメリカ在住のスロバキア人に宛てたメッセージはこうである。

……ユダヤ人が経営するすべての酒場が閉鎖されました。今年の 2 月 1 日以降だけでも，4700 のユダヤ人企業が清算さ

(114) Fabricius, Miroslav - Hradská, Katarína (Hg.), *Jozef Tiso II*［ヨゼフ・ティソ　第 2 巻］, S. 251.

(115) 実際には，全ユダヤ人企業約 1 万 2000 件のうち，アーリア化されたのは約 2000 件に過ぎなかった。

(116) Fabricius, Miroslav - Hradská, Katarína (Hg.), *Jozef Tiso II*［ヨゼフ・ティソ　第 2 巻］, S. 252.

(117) Näher dazu Hlavinka, Ján, „Kapitál má slúžiť národu... : korupcia v arizácii podnikového majetku na Slovensku［「資本は国家に奉仕するはずのもの……―スロバキアの経営のアーリア化における汚職」］“, in: *Korupcia*［汚職］, Bratislava: Historický ústav SAV［スロバキア科学アカデミー歴史研究所］, VEDA, 2015, S. 374–421.

れました。それに代わって，我が同胞が営業を始めました。先月ひと月でも，350のユダヤ人企業がアーリア化され，今年に入ってからは，ユダヤ人企業に1550人の管理代行者が任命されました。以上に申し上げたことのすべては，あらゆる分野でスロバキア人が本領を発揮している証拠です[118]。

反ユダヤ主義的な法律の制定にも直接介入したティソは，拒否権を行使して国会に差し戻し，「アーリア化法」（1940年法律第113号）の修正を求めた。大統領の主たる反対理由は，「基金を設立して企業買収を可能とし，すでに買収した企業の秩序ある運営を可能にするための財政支援を行うこと」を求めたからである[119]。

しかし，ティソは，法整備や国家のあり方が全体として反ユダヤ主義の方向に突き進むという大きな問題に携わっていただけではなかった。今日明らかになっている記録文書によれば，ティソは一つひとつの「アーリア化」の進捗状態にも関心を持った，と言うか個別の「アーリア化」にも進んで口を出した。その事例は数多くある。例えば，デヴィーンスカ・ノヴァ・ヴェス（テーベン＝ノイドルフとも）［ブラチスラバの郊外］（Devínska Nová Ves（Theben-Neudorf）出身のŠ. ギエチ（Š.Gieci）が申請したアーリア化がそうであった。現残している文書には，次のように書かれている。

貴殿には大統領の命により，不同意の当該契約に同意するよう要請する。本件に関して大統領府はその旨承知している[120]。

ティソは，カトリック司教ヤーン・ヴォイタシュシャーク（Ján Vojtaššák）[121]によるバード・バルドフツェ村（Bad Baldovce）［プレショフの西約50キロメートル］でのアーリア化を後押した。「スピチスカ（スピシュスカ）・カピテュラ（Spićská Kapitula, Spišská Kapitula）の司教館，バード・バルドフツェ[122]のアーリア化の申請」という件名を付けて国土庁長官に宛てた書簡には，次のように書かれている。

大統領府は，1942年2月12日付の依頼文書（1942年依頼第130号）を送付して迅速な処置をお願いしたことを念のため申し上げます。

このようにして多くの市民の目には，アーリア化を承認する十分な正当性がティソの個人的な権威だけによって与えられるものと映るようになった。市民はもはやユダヤ人迫害を悪いことだとは考えなくなってしまった。ユダヤ人への迫害に対して大統領であり司祭でもあるティソが最終的に「お墨付きを与えた」からである。

ティソは，1939年10月末までの首相在任中に多数の反ユダヤ主義的な政令を承認したので，そのことには直接的な政治責任がある。

（118）Fabricius, Miroslav - Hradská, Katarína (Hg.), *Jozef Tiso II*［ヨゼフ・ティソ　第2巻］, S. 368.

（119）Nižňanský, Eduard - Kamenec, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 69–70.

（120）Slovenský národný archív Bratislava (SNA)［スロバキア国立文書館（SNA）］, Fond Kancelária prezidenta republiky［スロバキア共和国大統領府関係］, Karton 97, 106/41.

（121）ヤーン・ヴォイタシュシャーク（Ján Vojtaššák）（1877年～1965年）。ローマ・カトリックのスピシュ教区司教。スロバキア共和国国務院議員。

（122）正しくは，ベトラノフチェ［コシチェの北西約90キロメートル］（Betlanovce）。SNA, fond Štátny pozemkový úrad［国土庁関係］, kartón 5, 84/42-os. Näher dazu Hlavinka, Ján - Kamenec, Ivan, *The Burden of the Past: Catholic Bishop Ján Vojtaććák*（ママ）and the Regime, in: *Slovakia (1938-1945)*. Bratislava 2014.［国土庁に宛てた文書であることから，農地をアーリア化しようとしたことが分かる。］

反ユダヤ主義の手段化の手初めが「ユダヤ人」概念を定義する政令であり(123)，その次は様々なユダヤ人の専門的職業従事者（ジャーナリスト，公証人，弁護士，薬剤師，医師など）の就業を規制する政令の制定であった。第一次アーリア化法にはティソの署名が見られる(124)。[訳注2]

(3) 第 2 段階：1940 年 9 月～1942 年 10 月

ドイツ帝国は 1939 年 9 月 1 日の軍事作戦でポーランドに侵攻し，1940 年春には「西側」に戦端を開いた[訳注3]。その勝利の後，ヒトラーは南東ヨーロッパの地政学的な状況を「解決」しようとして，1940 年 7 月にルーマニア，ブルガリア，ハンガリー，スロバキアの代表を［個別に］ザルツブルクに「招待」し，「さらなる協力」を促した(125)［ザルツブルク会談］。保護条約に基づくナチス・ドイツへの政治面での協力要請は，誰が主導権を握っているかをスロバキアの政治家に思い知らせることになった。外務大臣フェルディナンド・デュルチャンスキー（Ferdinand Ďurčanský）のようにスロバキアの政治家の中には，下野させられた者もいる。ドイツからは顧問官がスロバキアに派遣された(126)。ナチス・ドイツを後ろ楯にした急進派が，スロバキアの政界でいくつかの有力ポストに直った。このことは「ユダヤ人問題の解決」にも影響を及ぼすことになった。

政治レベルの反ユダヤ主義が滲(にじ)み出た大統領ティソの政見演説は，反ボルシェヴィズムと一体化した激しいものであった。ティソは，共産主義を攻撃する返す刀で，イギリスで機能していた西欧民主主義を「金権政治(プルトクラシー)」と決めつけて非難した。このようにティソの演説では批判の内容が変ったが，それはナチス・ドイツやアドルフ・ヒトラーのレトリックに調子を合わせたからであろう。1940 年 9 月，ブラチスラバで開催された感謝祭で，ティソは次のように述べている。

> 国家社会主義の精神から迸(ほとばし)る水は，古くさい国際主義者，ユダヤ・ボルシェヴィキ，マルクス主義者を浄化する。……開戦のときアドルフ・ヒトラー総統は，この戦争は帝国主義戦争ではなく，

---

(123) 1939 年政令第 63 号。

(124) Zur Arisierung vgl. z.B: DREYFUS, Jean-Marc - NIŽŇANSKÝ, Eduard, Jews and Non-Jews in the Aryanization Process: Comparison of France and the Slovak State, 1939–1945, in: *Facing the Catastrophe: Jews and Non-Jews in Europe during World War II*, Hg. von Beate KOSMALA und Georgi VERBEECK, Oxford 2011, S. 13–39; KUBATOVÁ, Hanna, *Nepokradeš! Nálady a postoje slovenské společnosti k židovské otázce, 1938-1945*［盗んではならない――ユダヤ人問題へのスロバキア社会の感情と態度（1938 年～1945 年）――］, Praha 2013; KAMENEC, Ivan, Hlavné rysy arizačného procesu na Slovensku［スロバキアにおけるアーリア化の主要特徴］, in: *Terezínské studie a dokumenty*［テレジーンシュタット研究・資料］, 2003, S. 289–300.

［訳注 2］　第 1 段階でスロバキア政府の首脳陣は，ティソが残留したものの穏健派から急進派へと入替ることになった。それを決定づけたザルツブルク会談（1940 年 7 月）については次項参照。

［訳注 3］　ポーランド侵攻は 1939 年 9 月 1 日，西側（ノルウェー，デンマーク，オランダ，ベルギー，ルクセンブルク，フランス，イギリス）への侵攻は 1940 年 4 月～5 月（ただしイギリスに対しては空中戦とミサイル攻撃）。

(125) Siehe LIPTÁK, Ľubomír, Prípravy a priebeh salzburských rokovaní roku 1940 medzi predstaviteľmi Nemecka a slovenského štátu［ドイツ代表とスロバキア代表とのザルツブルク会談（1940 年）の準備と経過, in: *Historický časopis*［歴史学雑誌］, Jahrgang XIII, Nr. 3, 1965, S. 329–364.

(126) SUŠKO, Ladislav, Systém poradcov v nacistickom ovládaní Slovenska v rokoch 1939–1941［1939 年から 1941 年のナチスによるスロバキア支配における顧問官制度］, in: *Historické ćtúdie*［歴史研究］, Jahrgang XXIII, Bratislava 1979, S. 5–23; TÖNSMEYER, Tatjana, *Das Dritte Reich und die Slowakei 1939-1945. Politischer Alltag zwischen Kooperation und Eigensinn*, Paderborn 2003.

社会戦争であって，金権政治（ブルトクラシー）に対する闘いでありマルクス主義に対する闘争でもあると言った。この戦争には大義があり，すべての資本主義とすべてのボルシェヴィズムを丸ごと破滅する[127]。

1940年9月，ドイツからユダヤ人問題「顧問官」ディーター・ヴィスリチェニー（Dieter Wisliceny）などがスロバキアに到着した[128]。ヴィスリチェニーの構想は，8万9000人のユダヤ人市民を集住させて意図的に「問題」を作り出し，その問題を解決するには収容した者を「移住」させるという実に単純なものであった[129]。

1940年から1941年にかけて，300以上の政令や通達が発出され，ユダヤ人の経済的，社会的，市民的な諸権利が一つずつ剥奪された。その種の法的措置を決定づけた法令は，1941年9月の「ユダヤ法（Judenkodex）」（1941年政令第198号）である。この政令は270条からなり，スロバキア共和国時代に制定された法規の中で最も条文が多く，スロバキア憲法（1939年法律第185号）もそれには及ばなかった。それは，人種差別に基づく「ユダヤ人問題の解決」を定めた政令であり，ヨーロッパで最も苛斂を極めたユダヤ法の一つであった[130]。［以下でそのユダヤ人概念を定義した第1条と第2条を引用する。］

（概念規定）第1条　（1）この政令により以下の者は，性別に関係なく，ユダヤ人と見なす。

（a）3人以上の祖父母が人種的にユダヤ人である者

（b）2人の祖父母を人種的なユダヤ人とする混血ユダヤ人であり，次のいずれかである者

1. 1939年4月20日現在，ユダヤ教徒である者，もしくはその日以降にユダヤ教徒になった者
2. 1939年4月20日以降にユダヤ人と結婚した者
3. 1939年4月20日以降にユダヤ人と結婚した者の子
4. ユダヤ人との婚外性交により，1940年4月20日以降に非嫡出子として出生した者

第2条　（1）この政令により，以下の者は混血ユダヤ人とする。

（a）第1条（1）（b）に該当しない場合，2人の祖父母が第1条に定める人種的にユダヤ人である子

（b）祖父母の1人が人種的にユダヤ人である子

人種差別のユダヤ法（1941年政令第198号）を採択するときに，スロバキア共和国大統領ヨゼフ・ティソはまったく反対することなく，1941年9月14日に，バーノフチェ・ナド・ベブラヴォウ［トレンチンの南東約30キロメートル］（Bánovce nad Bebravou）で開催された「カトリックの集い」という団体[131]の会合で，次のように述べた。

（127）FABRICIUS, Miroslav - HRADSKÁ, Katarína (Hg.), *Jozef Tiso II*［ヨゼフ・ティソ　第2巻］, S. 267.

（128）より詳しくは，以下を参照。HRADSKÁ, Katarína, *Prípad Wisliceny. Nacistickí poradcovia a židovská otázka na Slovensku*［ヴィスリチェニー裁判 ── ナチス顧問団とスロバキアのユダヤ人問題 ──］, Bratislava 1999. ディーター・ヴィスリチェニーは1948年にブラチスラバの国民法廷で死刑判決後，執行。

（129）SNA, Bratislava, Fond Nationalgerichtshof［国民法廷関係］, Dr. A. Vašek, Tnľud 17/46. Aussage D. Wislicenys.

（130）1941年政令第198号。*Slovenský zákonník 1941*［1941年版スロバキア法令集］.

（131）ここに「カトリックの集い（Katholischer Kreise）」はカトリック信者の組織名。

ことユダヤ人に関して言えば，傍若無人の輩(やから)には最も厳しい処分で当たらなければなりません。ユダヤ人はわが国民の士気を挫(くじ)き，唆(そそのか)し，恐怖心を煽(あお)りました。前線からの知らせが遅れていることにつけ込んで，純朴な国民の恐怖心を煽り，悪事を企みました。私たちの新生国家が新しい関係を取り結ぼうとしているのに，ユダヤ人はそれを望んではいないのです。ユダヤ人はユダヤのやり方を棄てようとはしません。ユダヤ人に対する最も厳しい措置は当然の報いとしか言いようがありません。彼らはまっとうに働かなければならなりません[132]。

①「革命期」のアーリア化と中央経済局

ザルツブルク会談が終了した 1940 年夏に急進派が政権を握ると，状況は一変した。憲法（1940 年法律第 210 号）が成立したことにより，政府には，1 年の間，「(a) スロバキアの経済と社会の各分野からユダヤ人を排除し，(b) ユダヤ人財産をキリスト教徒の所有に転換させるために必要とされる」措置を執ることが承認された[133]。

形式的に言うと，この憲法（1940 年法律第 210 号）は授権法（Ermächtigungsgesetz）であって，これがあるからこそ，政府は思いどおりの反ユダヤ政策を 1 年の間実行することができた。とは言え，執られた反ユダヤ政策に対する政治責任が大統領と議会にはない，ということはありえない[134]。

アーリア化の第 2 段階における反ユダヤ措置としては政令の制定があるだけであって，その政令を手段化してアーリア化は新段階に突入した。権力を握ったのは急進派である。（アーリア化と清算によって）ユダヤ人財産を接収するとき，急進派はそれが国民経済にどのような影響を与えるかを一切考慮しなかったが，今やマジョリティの生活にも悪影響を与えるようになった（ユダヤ人による納税額の減少，様々な商取引が被った損失，ユダヤ人の住宅ローンの返済問題など）。急進派は，スロバキアの経済と社会から，何としてでもユダヤ人を排除しようとした。しかし，アーリア化をすればすべてのスロバキア人が得をするというスロバキア国の主立った政治家たちの主張は，あっという間に馬脚を現すことになった。ユダヤ人の事業所や経営約 1 万 2500 のうち，アーリア化されたのは約 2000 にすぎず，ごく限られたアーリア化の担い手だけが懐を潤したに過ぎなかった。他の資産についても似たようなものであって，アーリア化には，袖の下，縁故主義，党や政界からの介入がつきものであったことは言うまでもない（政界の頂点に君臨したヨゼフ・ティソも介入した）。1940 年 9 月，1940 年政令第 222 号に基づき，政府はアーリア化行政の専門機関として中央経済局（Ústredný hospodársky úrad: ÚHÚ）を創設し[135]，前述した憲法（1940 年法律第 210 号）が定める法的

（132）Fabricius, Miroslav - Hradská, Katarína (Hg.), *Jozef Tiso II*［ヨゼフ・ティソ　第 2 巻］, S. 393. この演説は，1941 年政令第 198 号（人種理論に基づいてユダヤ人を定義した「ユダヤ法」）が採択された後に行われた。

（133）1940 年法律第 210 号。*Slovenský zákonník 1940*［1940 年版スロバキア法令集］.

（134）Nižňanský, Eduard - Kamenec, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第 2 巻］, S. 85–102.

（135）Hlavinka, Ján, Vznik Ústredného hospodárskeho úradu a určenie jeho kompetencií do leta 1942［中央経済局の設立とその権限（1942 年夏まで）］, in: Sokolovič, Peter (Hg.), *Od Salzburgu do vypuknutia Povstania. Slovenská republika 1939-1945 očami mladých historikov VIII*［ザルツブルクから蜂起勃発まで ── 若き歴史学者が見たスロバキア共和国（1939 年～1945 年）── 第 8 巻］, Bratislava 2009, S. 63–92; Nižňanský, Eduard - Hallon, Ľudovít - Hlavinka, Ján, *Ústredný hospodársky úrad (Holokaust na Slovensku)*［中央経済局（スロバキアのホロコースト）］, Bratislava 2010, (CD-ROM).

権限の大部分がそこに移行された。中央経済局の局長には，それまで首相府で経済局長を務めていたアウグスティン・モラーヴェク（Augustín Morávek）が就任した。政府はこの権限委譲によって，アーリア化に対する政治責任から逃れ，新設機関に責任を転嫁しようとした（しかし，それはできない相談であった）。1940年法律第210号が定める「別に定める規程に従い，（a）スロバキアの経済と社会の各分野からユダヤ人を排除し，（b）ユダヤ人財産をキリスト教徒の所有に移転するために必要とされる一切を実行すること」という中央経済局の基本的な目的は，1940年政令第222号で曖昧さを残すことなく明確に定められていた[136]。

1940年政令第222号第1条では，中央経済局と他の政府機関との関係が実質的に定められていた。中央経済局は排他的に首相に直属した。換言すれば，中央経済局とその局長モラーヴェクは，それぞれ省と大臣に相当した。「ユダヤ人問題」と中央経済局との関係を分析してみると，この中央経済局は「ユダヤ問題」に関してはどの省庁よりも所管する範囲が広範囲に及んでいたことが分かる。中央経済局は経済問題だけでなく，「アーリア化」とユダヤ人の処遇（労働許可証明書の発行，スロバキア内の特定市域における居住禁止）を所管し，施行中の反ユダヤ諸法令が定める事項も所管していた。中央経済局の権限を定めた政令（1940年政令第222号）第2条第2項は，「アーリア化」における中央経済局の一切の権限が，経済省（misterstvo hospodárstva: MH）から移譲されることを謳っている。（委譲された権限は，1940年政令第113号および1940年政令第197号（経済省が定める商業と工業を営む企業の国選管財人と管理代行者に関する政令）で定められた。）原理的に言えば，「アーリア化問題」に関して経済省は中央経済局に従属した。このパワーバランスは（政令や法律によって）正式に定められてはおらず，日常的な権力行使の中でできあがっていったのである。ユダヤ人財産の「アーリア化」で中央経済局が介入しなかった唯一の分野は土地所有であり，これは国土庁（Štátny pozemkový úrad: ŠPÚ）が所管した。国家機関，省庁などの機構において中央経済局の権限が及ぶ範囲は1940年政令第222号第4条で定められている。この第4条によれば，中央経済局が発出するすべての決定（政令，通達）は最終決定（変更不可能）であり，これに違反した場合は処罰されると定められている。「ユダヤ人」の定義が1939年政令第63号に明記された後には，スロバキア国にはユダヤ人の総財産目録を作成する義務が生じた。これにより，ユダヤ人財産が明らかになり，国はアーリア化の準備とその実行が可能になった。

早くも1940年9月には，1940年政令第203号に基づいて財産が登録された[137]。ユダヤ人財産の登録を主導したのは，アウグスティン・モラーヴェクであった。

1940年政令第303号（「第二次アーリア化法」）により，中央経済局の地位はさらに強化され，ユダヤ人の工場経営についても中央経済局は物事を決定できるようになるとともに，どの分野のユダヤ人企業に対してもその存続か廃業かを決定できるようになった。このことは，金融分野でも変わらなかった。ここではその事例として，ユダヤ人所有の封鎖預金口座と貯蓄預金口座に関する政令（1940年政令第271号），ユダヤ人の預金と口座からの引出制限に関する政令（1940年政令272

（136）1940年政令第222号，*Slovenský zákonník 1940*［1940年版スロバキア法令集］, S. 359.［脚注133参照。］

（137）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 102-103.

号)，ユダヤ人の預金口座への現金預入義務に関する政令（1940 年政令第 293 号）を挙げておこう。仕組みとしては，財務省が中央経済局と協議の上，封鎖預金口座に預け入れたユダヤ人顧客の資金を引き継ぐ商業銀行を選定することになった。口座間の資金の動きはすべて財務省と中央経済局に報告しなければならなかった。ユダヤ人の顧客が自由にできる（！）現金資産は厳密に押さえられ，それは漸次スロバキア国立銀行（Slovenská národná banka: SNB)，スロバキア自治体住宅貸付銀行（Slovenská komunálna a hypotečná banka)，郵便貯金（Poštová sporiteľna）に移された。こうして，国はユダヤ人の金融資産を保有し，ユダヤ人対策（例えば，1942 年の強制移送）の費用を賄(まかな)うシステムができあがったのである[138]。中央経済局とスロバキア国立銀行との関係は 1940 年政令第 304 号によって定められ，ユダヤ人資産の自由処分は制約を受けた。例えば，500 スロバキア・コルナを超える資金の移動には中央経済局の許可が必要とされるほか，特別な場合にはスロバキア国立銀行の許可も要した。また，スロバキア国立銀行は，ユダヤ人がすでに所有していた外貨，あるいは外国（もしくはユダヤ人センター（Ústredňa Židov: ÚŽ)）から送金された外貨（例えばアメリカ・ドル）の為替レートに介入した[139]。

中央経済局と他の機関との間には緊張があったことも多い。1940 年秋，「アーリア化の進捗状況」を監督・監査するために，中央監査信託協会（Ústredná revízna a dôvernická spoločnosí）が設立された。そこの従業員として，ユダヤ人企業の清算人，管理代行者，国選管財人が任命された。中央監査信託協会は，アーリア化されたユダヤ人企業の清算価額または当該企業の現在価額を確定したり，その債務整理を管理したりするときの支援に当たった。アーリア化の場合，その担い手が国に金銭を支払うが，そのとき支払うべき金額を評価する根拠となるユダヤ人企業の清算価額の決定は，経済的な観点から非常に重要である。モラーヴェクは中央経済局長として，アーリア化のスピードアップに努めた。しかし，モラーヴェクと中央経済局はアーリア化の担い手に譲歩したために，ユダヤ人財産の評価額がますます引き下げられ，その結果としてユダヤ人財産の売却額は当初の予想より相当少なくなった。1941 年 8 月にトゥカに宛てたモラーヴェクの書簡には，特にユダヤ人財産に対する支払額の評価と支払の管理で中央監査信託協会が厳密すぎるために，要らざる遅れを被(こうむ)ったことが書かれている。すでに述べたが，これは現実的に言えば，1942 年の夏になっても（！）アーリア化された企業の相当部分では清算価額が確定していなかったことを意味する[140]。換言すれば，

（138）HALLON, Ľudovít, The Role of the Commercial Banks in Aryanizations in Slovakia 1939–1945, in: *Historický časopis*［歴史学雑誌］, Vol. 56, 2006, Supplement, S. 75–92.

（139）これについては以下を参照。HALLON, Ľudovít, Arizácia a komerčné banky v poslednom období existencie Slovenskej republiky［スロバキア共和国の最終局面におけるアーリア化と金融機関］, in: *Perzekúcie na Slovensku v rokoch 1938-1945*［スロバキアにおける迫害（1938 年～1945 年)］, Bd. V, Banská Bystrica 2006, S. 158–169.

（140）清算価額が決定したのは 1888 社のうち，わずかに 288 社であった。Näher dazu KAMENEC, Ivan, *Po stopách tragédie*［悲劇の軌跡］, S. 111–112; Vgl. auch NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第 2 巻］, S. 262–274 (Referát nového predsedu Ľ. Paškoviča 12.5.1943 o činnosti ÚHÚ a arizáciách［新局長　ルドヴィート・パシュコヴィッチ（Ľudovít Paškovič）の中央経済局とそのアーリア化について（1943 年 5 月 12 日)］). ［以下も参照。“Ústredný hospodársky úrad,” European Holocaust Research Infrastructure: EHRI, https: //portal. ehri-project.eu/units/sk-003250-3780, accessed on Dec. 12, 2023.］

アーリア化した企業の代価をアーリア化の担い手は一銭も支払っておらず，しかし売上金だけはちゃっかりと我が物にした会社の口座に流れていた。スロバキア国は，「アーリア化」によって懐に入ると目論んでいた「血まみれのお金」を手にすることはできなかったことになる。前に述べた中央監査信託協会の報告書には，不正を訴えるメモや苦情が書かれている。しかし，モラーヴェクはトゥカの子飼いであったため，［その職を離れる］1942年7月までは彼に対して誰も何もできなかった(141)。「アーリア化」は，フリンカ・スロバキア人民党とフリンカ警護団（おそらくはドイツ党と義勇親衛隊（ドイツ党の準軍事組織）も）が知古の関係や党内の人脈を利用して私腹を肥やす手段になった。これらの組織は個別的にアーリア化の担い手候補に対して推薦状を与えたのである(142)。国富の相当部分は「国家保証の強奪」によって得られたと言うことができよう。スロバキア国の建国前に喧伝された「すべてのスロバキア人にユダヤ人財産を」というプロパガンダは，フリンカ・スロバキア人民党とフリンカ警固団によるクリエンテリスムス（Klientelismus）［訳注4］と縁故情実主義（フェッテルンヴィルトシャフト）（Vetternwirtschaft）の中で消えてしまった。なお，中央経済局は，1940年法律第113号で規制されていたユダヤ人の雇用にも介入した。その後，ユダヤ人の雇用に関しては1940年政令第256号(143)および1940年政令第305号(144)が公布された。労働許可証を交付する法的権限を持っていたのは，中央経済局である。大企業から小売業・手工業に至るまで，企業は中央経済局に対して「そこに雇用される」ユダヤ人従業員の労働許可証を申請しなければならなかった。この申請書は，「非ユダヤ人」企業のオーナー（アーリア化企業の所有者，もしくはユダヤ人会計士を雇用し「アーリア人が経営する」企業の所有者など）が基本的に6ヵ月ごとに改めて提出しなければならなかった。モラーヴェクは1942年3月にこの経過を次のように解説している。

……ユダヤ人企業の目覚ましいまでの清算を可能にしたのは，ユダヤ人への労

（141）1942年7月になると，ルドヴィート・パシュコヴィッチ（Ľudovít Paškovič）を局長とする中央経済局は，経済省の下部機関になった。この時点ではユダヤ人企業の清算とアーリア化がほぼ終了していた。このために，この機構改革はもはや実質的な意味はなかった。その後，アウグスティン・モラーヴェクはハンガリーへの出国（とう）を申請し，第二次世界大戦後は「その行方は杳として不明」であった。

（142）アーリア化に関するフリンカ・スロバキア人民党とドイツ党の対立については，SCHVARC, Michal, Arizácia židovských podnikov ako predmet sporu medzi Deutsche Partei a slovenskými štátnymi orgánmi na príklade vybraných dokumentov［ドイツ党とスロバキア国当局との間での争点となったユダヤ人企業のアーリア化について］, in: NIŽŇANSKÝ, Eduard - HLAVINKA, Ján (eds.), *Arizácie v regiónoch Slovenska*［スロバキアにおけるアーリア化］, Bratislava 2010, pp.172–195. Dokumente 78, 79を参照。Vgl. https://userwikis.fu-berlin.de/dashboard.action

［訳注4］　クリエンテリスムス（Klientelismus）。ある者が他者の利益になるものを供与・提供して高いインスタンス（動機付け）を与え，その見返りに忠誠，支持，服従などを求める人心操縦。両者の利害関係の外にいる者は対象外とされる。Vgl. SPLITT, Julia, „Klientelismus“, Userwikis der Freien Universität Berlin, https://userwikis.fu-berl in.de/display/sozkultanthro/Klientelismus#:~:text=Klientelismus.%20Laut%20dem%20Politiklexikon%20der%20Bundeszentrale%20f%C3%BCr%20politische,rangh%C3%B6heren%20und%20niedriger%20gestellten%20Personen%20oder%20Organisationen.%20I, accessed on April 18, 2023.

（143）1940年政令第256号（1940年10月11日施行），*Slovenský zákonník* 1940［1940年版スロバキア法令集］, S. 406–407.

（144）1940年政令第305号（1940年11月30日施行），*Slovenský zákonník* 1940［1940年版スロバキア法令集］, S. 477–478.

働許可の不交付である。6ヶ月間に 6000 件を上回る労働許可が取り消された。ユダヤ人企業の清算によって失職したアーリア人従業員は労働許可を取り消されたが，ユダヤ人が雇用されていた別の企業にその代わりとして直ちに雇用された(145)。

労働許可証（「イエローカード」）は，それを保有する者だけでなく，その家族をも 1942 年の強制移送から守ることができた。アーリア化の過程で，中央経済局と他の機関（特に，フリンカ・スロバキア人民党本部事務局(146) とフリンカ警護団総司令部(147)）との間には，次第に幅広い公式・非公式の関係が醸成された。スロバキアに居住していた東方ドイツ人（Volksdeutsche）[訳注5] の利益を代表するドイツ党と［その準軍事組織である］義勇親衛隊も同様であって，その関係者がユダヤ人企業（だけでなく，例えばユダヤ人が所有する不動産）の「アーリア化」を申請するときには高評価を与えていた。このために，地方と中央の間に「利害対立」が生まれた。国の行政機関と立法機関も「非公式ながら」承認プロセスに介入したからである。「アーリア化」に大統領ティソが介入したことはすでに述べたが，大統領府は，特に不首尾に終わった「アーリア化申請人」からの苦情だけでなく，管理代行者（これらはアーリア化の担い手になることができるが，そうである必要はない）からの苦情も含めて，多くの不許可事例を調査するように中央経済局に通達した。管理代行者は「お目付」料としてユダヤ人オーナーから金銭を貰っていたが，そもそも企業の中ではまったく仕事がなく(148)，ユダヤ人オーナーを監視するために企業に「派遣」されただけであった。

国会議員，省庁，国務院，国家権力の中央機関だけでなく，（大管区や郡（Gau und Bezirk）の）地方官庁からの介入もあった。だが，特にねじ込んできたのは首相府と首相のトゥカであり，その結果，企業（会社や事業所）の「アーリア化」認可手続きには，介入，汚職，縁故主義のからくりが潜むことになった。また，介入が衝突しあうこともしばしばあった。こうしてユダヤ人企業のアーリア化と清算は，キリスト教の価値観に基づくと主張するスロバキア国の徳性を泥沼状態にしてしまった。このような状態に陥ったの

（145）SNA, Fond Úrad predsedníctva vlády［首相府関係］, Kart. 242, ohne Nummer, Protokoll der Sitzung des Staatsrates［Štátna rada］1940–1943［国務院議事録（1940 年～1943 年）］.

（146）アーリア化を巡ってフリンカ・スロバキア人民党本部事務局がモラーヴェクと交渉するときには，ヨゼフ・コソリーン（Dr. Jozef Kosorín），G. ドルシツ（Dr. G. Doršic），Š. ミクラ（Š. Mikula）が担当した。

（147）フリンカ警固団指令官 O. クバラ（O. Kubala）は，アーリア化についての交渉のために，中央経済局（ÚHÚ）に対して L. ガータ（L. Gáťa）（フリンカ警固団司令部）を社会委員会委員に任命させた。

［訳注 5］ ナチスの時代にドイツとオーストリアの国境外（特に東欧）に居住していた外国籍のドイツ人。「民族上のドイツ人」「民族ドイツ人」とも。これに対して本国に居住するドイツ人を Reichsdeutsche（本国ドイツ人）と言う。

（148）より詳しくは例えば以下を参照。KÖNÖZSYOVÁ, Lucia, Príprava na arizačný proces vo forme nariadení o vládnych dôveníkoch v podnikoch ako prejav hospodárskeho antisemitizmu: Židovská komunita v Nitre［企業の国選管財人に関する規制となって表出した経済的反ユダヤ・アーリア化の準備過程――ニトラのユダヤ人コミュニティ――］, in: *Studia historica Nitriensia*［ニトリエンシア歴史研究］, Bd. XI, Nitra 2003, S. 165–181; NIŽŇANSKÝ, Eduard - HLAVINKA, Ján (eds.), *Arizácie v regiónoch Slovenska*［スロバキアにおけるアーリア化］, Bratislava: STIMUL, 2010; SLNEKOVÁ, Veronika, Arizácia židovských podnikov v Trnava ako súčasť tzv. Riešenia židovskej otázky v rokoch 1938–1945［1938 年～1945 年における「ユダヤ人問題の解決」の一部としてのユダヤ人企業のアーリア化］, in: *Studia historica Nitriensia*, Bd. IX, Nitra 2001, S. 165–202.

は，最終的な決定権が中央経済局の幹部職員とモラーヴェクに握られ，意思決定権が集中していたことによる。1942年3月，モラーヴェクは国務院の会議でアーリア化と清算について次のように説明した。

> ……1941年2月1日以降の清算企業は全国で9900社に達した。大管区別清算企業数は以下のとおりである。ブラチスラバ大管区（Bratislaver Gau）2001社，ニトラ大管区（Neutraer G.）1121社，トレンチン大管区（Trentschiner G.）1610社，タトラ大管区（Tatraer G.）1317社，シャリシュ＝ツェンプリン大管区（Scharisch-Zemplínzer G.）3180社，グラン大管区（Graner G.）644社，以上合計9935社。……清算企業の大管区別の年間売上高は以下のとおりである。ブラチスラバ大管区3億3100万スロバキア・コルナ，ニトラ大管区1億3500万スロバキア・コルナ，トレンチン大管区2億3500万スロバキア・コルナ，タトラ大管区1億5100万スロバキア・コルナ，シャリシュ＝ツェンプリン大管区2億4900万スロバキア・コルナ，グラン大管区8300万スロバキア・コルナ。清算企業の年間売上高合計は，11億8100万スロバキア・コルナである。厳密に言うと，ユダヤ人企業のアーリア化が開始されたのは，ユダヤ人企業の大部分が清算されて，ユダヤ人の競争力が脆弱化した1941年8月のことである。そのころ国全体でアーリア化された企業は2100社に上る……[149]。

イヴァン・カメネツは，アーリア化された企業数に関する様々なデータを正確に割り出して，アーリア化の問題について次のように指摘している。

> ……1942年3月末までに，スロバキアでは1888社のユダヤ人企業・事業がアーリア化され，（1937年から1939年の平均値で算出した）年間売上高は14億6500万スロバキア・コルナである。大管区別のアーリア化企業数は以下のとおりである（単位は社）。ブラチスラバ大管区461，……，ニトラ大管区269，……，グラン大管区179，……，トレンチン大管区391，グラン大管区212，……，シャリシュ＝ツェンプリン大管区376……。ただし，中央経済局は，アーリア化の担い手が具体的に何をいくらで払下げを受けたかを把握していなかったため，この情報は留保を付けるべきである。

これに続けてカメネツは次のように述べている。

> ……中央経済局次長Ľ. パシュコヴィッチ（Ľ. Paškovič）[150]は，アーリア化された財産の移転件数を2223件としたが，これらの移転は通常の経済原則にも法的原則にも従っていなかったと指摘している。（モラーヴェクが中央経済局の局長職を退任した――引用者）1942年7月までに，アーリア化されたユダヤ人財産の清算価額が決定したのは，わずかに288件しかなく，しかも極端に過小

（149）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 157-158.

（150）より詳しくは，以下を参照。Referát Ľ. Paškoviča o činnosti ÚHÚ a arizáciách 12.5.1943［中央経済局の活動とアーリア化に関するルドヴィート・パシュコヴィッチ（Ľudovít Paškovič）のレポート（1943年5月12日）］, SNA, Fond S, Kart. 99/2.

に評価されている。第一波の強制移送のとき，モラーヴェクは，アーリア化法には非の打ち所がなく，スロバキアの国民に利する国家社会主義の偉大な勝利の証(あかし)であると宣言した。しかし，アーリア化のはっきりした成果はひとつも（！）挙げられていなかった[151]。

概して「アーリア化」は国が期待したような利益をもたらすことはなかった。カメネツによれば，1942 年 7 月 1 日までに中央経済局が「アーリア化の担い手」から受け取ったのは，わずかに 2500 万スロバキア・コルナだけであった。アーリア化の担い手が 1942 年 7 月から 1944 年 7 月までにさらに支払うことになっていたのは，2 億スロバキア・コルナであり，そのうちの 6000 万スロバキア・コルナは債権者への支払金であった[152]。

②農地アーリア化事業の所管官庁としての国土庁と農業財産管理基金

スロバキアの領土からユダヤ人数万人の強制移送が始まった 1942 年に，国土庁（Štátny pozemkový úrad: ŠPÚ）に組織上の重要な変化が生じた。移送された者の中には地主と小作農が多数いたために，農地の耕作は深刻な状況に陥ったからであった[153]。始めのころは，全権を委任された地方の公証人が事業年度末まで小規模な農家経営を賃貸して，この状況を切り抜けた。しかし，これは一時しのぎにすぎず，ユダヤ人農業経営の確実な管理に関する法律（1942 年法律第 108 号）に基づいて，1942 年 6 月，国土庁の中に農業資産管理基金（Fond pre správu poľnohospodárskych majetkov: FSPM）が設置された。その目的は，農地改革（土地の割当）が手つかずのままであったユダヤ人所有の土地を管理することである。以前の地主や小作農は強制移送されたものの，新しい地主や小作農がまだ決まっていないユダヤ人の農地があって，それを管理しようとした。国にとっては，農地が未耕作のまま放置されたり，家畜が世話されないままであったりしては困るからである。強制移送により，国土庁は所管業務をほとんど実行できなくなったため，所管業務を［農業資産管理基金と］手分けして実行せざるを得なくなり，農地の再配分は国土庁が担当することになったが，すでに元の地主も小作農も強制移送されて，新しい所有関係や賃貸関係が未整理の農地の管理については，農業資産管理基金が担当することになった。とは言え，農業資産管理基金はユダヤ人所有者の法定承継人になったわけではなく，国が所有し，国土庁が経営する農地の管理者に過ぎなかった。また，農業資産管理基金が旧所有者の債務を承継することはなく，委託された財産（元のユダヤ人所有者から没収されたが，新しい地主・小作農がまだ決まっていない農地）の適切な管理を保証するのみであった[154]。農業資産管理基金は，1941 年政令第 198 号第 150 条に基づいて国が収用した農業関連の不動産を，所定の手数料を徴収して管理した。また，経済省は，無償で分配された農場を 1942 年法律第 108 号に基づいて管理した。その際，経済大臣は自ら管理するか，暫定的に貸与することができた。農用以外の旧ユダヤ人財産は中央経済

（151）KAMENEC, Ivan, *Po stopách tragédie*［悲劇の軌跡］, S. 112–113.

（152）*Ebenda*, S. 217.

（153）強制移送にあたっては，ドイツ顧問官ハンス・ハムシャ（Hans Hamscha）とエーリヒ・ゲーベルト（Erich Gebert）からも解決策が提案された。Siehe Dokumente 143, 145, 176, 221.

（154）さらに詳しくは以下を参照。FIAMOVÁ, Martina, Slovenská zem patrí do slovenských rúk［スロバキアの土地はスロバキアのもの］, in: *Arizácia pozemkového vlastníctva židovského obyvateÉstva na Slovensku v rokoch 1939-1945*［スロバキアにおけるユダヤ人の土地所有（1939 年～1945 年）］, Bratislava, 2015, S. 37–41, 58–65.

局が管理し，森林資産は経済省のしかるべき部局に委ねられた。農業資産管理基金は国土庁からの借入金で賄われ，余剰金が出ればスロバキアからのユダヤ人の強制移送費に充当されることになった。1942年末には，農業資産管理基金は88ヶ所の地方事務所を持っていた[155]。この地方事務所の数は時間の経過とともに変動し，1943年には69ヶ所になった[156]。

農業資産管理基金地方事務所の農場管理人は各行政区の農地を管理し，必要に応じて手工業者，農業労働者，技能労働者（いずれもユダヤ人）を雇用した。上級庁に当たる農業資産管理基金の承認を得て，地方事務所の管轄農地に貼りついた農民としてユダヤ人を任命することもあったが，地方事務所の担当者に専門的知見が不足している場合には，元のユダヤ人所有者が国有化農場の顧問として残ることも珍しくなかった。農業資産管理基金は，土地改革の実施やユダヤ人財産の「アーリア化」で重要な役割を果たすことはなかった（アーリア化の役割を担ったのは，ワーキング・グループを擁する国土庁である）。しかし，農業資産管理基金は，第二次世界大戦中のスロバキアのユダヤ人コミュニティの歴史では例外的地位にあった機関である。スロバキア第一共和国の時代に農業資産管理基金の責任者フランティシェク・ボシュニャーク（František Bošňák）[157] の尽力によって，1944年までに，人種的迫害を受けた何百人もの人々が残酷でし放題の支配体制から保護されたからである。歴史学者のマルティナ・フィアモヴァは次のように指摘している。

> 強制移送の間にも，ボシュニャークは農業資産管理基金の本部だけで約50人のユダヤ人を雇い入れ，さらに地方事務所では約550人のユダヤ人を雇用し，その家族と合わせて約2000人を保護した[158]。

国土庁はユダヤ人の農業用不動産のアーリア化に決定的な形で関与した。その一方で，ボシュニャークは，農業資産管理基金［による雇用］で1942年の強制移送から数百人のユダヤ人（主として農民）を保護できた。ただし1944年～1945年の強制移送のときには，保護の手は及ばなかった。

③アーリア化におけるスロバキア人（マジョリティ）とユダヤ人（マイノリティ）の関係

アーリア化は，ユダヤ人家族が住んでいたどんなに小さな町や村であろうともマジョリティが目にできる日常茶飯事であり，それについては何も知らないということは，ほとんどありえない。反ユダヤ政策の結果，スロバキアのユダヤ人コミュニティは次第に社会的

（155）農業資産管理基金の作業部会E(26)（die Arbeitsgruppe E (26)）。ニトラ県とホロホヴェツ県には，最多の地方行政機関（örtliche Verwaltungen）があった。

（156）1943年現在，地方行政機関は250ヶ所の経済単位（面積は30㌶～300㌶）を管理していた。同じ頃，農業資産管理基金は約3万3000㌶の土地を管理していたが，そのうち約2万5000㌶が自前の管理，1800㌶は委託管理，6000㌶が賃貸であった。詳しくは以下を参照。FIAMOVÁ, Martina, *Štátny pozemkový úrad*［国土庁］, S. 3–16.

（157）フランティシェク・ボシュニャーク（František Bošňák）（1894年～1968年）。フリンカ・スロバキア人民党党員，スロバキア国会議員（Abgeordneten im Slowakischen Landtag）。1942年，農業資産管理基金理事長。より詳しくは，以下を参照。FIAMOVÁ, Martina, Odvážny poslanec slovenského snemu. Pomoc Františka Bošňáka prenasledovaným židovským spoluobčanom v období Slovenskej republiky 1939–1945［スロバキア議会の勇気ある議員―1939年～1945年におけるスロバキア共和国で迫害された同胞ユダヤ人を助けたフランティシェク・ボシュニャーク］, in: DUCHOŇOVÁ, Diana - HANULA, Matej *et al.*, *Človek modernej doby*［現代に生きる人］, Bratislava 2020, S. 153–171.

（158）より詳しくは，以下を参照。FIAMOVÁ, Martina, *Štátny pozemkový úrad*［国土庁］, S. 10–16.

に孤立させられていった。就業禁止，アーリア化，ユダヤ人企業の清算によって，ユダヤ人の貧困化は社会的な広がりを見せた。スロバキアにおけるユダヤ人の疎外は人間性の滅失を意味する。ユダヤ人は人間として認められていたのであろうか。はたまた，スロバキア人とは次元が異なる世界に住む，排除すべき敵と見られていたのであろうか。

歴史学者ラウル・ヒルバーグによる「犠牲者（ユダヤ人）— 敵（国家社会主義者）— 物言わぬマジョリティ」という図式[159]は，ヨーロッパ・ホロコーストの分析でマジョリティとマイノリティ（ユダヤ人）との関係を記述するときに長らく影響を及ぼしてきた。ホロコースト研究では，研究領域を［マイノリティに限定することなく］マジョリティにまで拡大すべきであろう。特に，ホロコーストの社会環境に関する問題ならびに現場にいてユダヤ人攻撃の先頭に立つ者（中央行政機関と地方自治体の現地行政機関にいてホロコーストを実行する者）に関する問題という二つにも焦点を当てるべきである（これによって他国と比較することができるようになる）[160]。アーリア化という場合，それはアーリア化の担い手に関する問題（例えばユダヤ人財産を承継したスロバキア人による上方への階層移動に関する問題）でもある。アーリア化と強制移送がもたらした社会的帰結をしっかりと認識し，それを着実に分析することが不可欠である。ステップ・バイ・ステップの手順を踏むことによって，「物言わぬマジョリティ（die schweigende Mehrheit）」の行動をより詳細に理解することができる。このように優れて一般的な考え方から出発して，マジョリティをその根本からいっそう詳細に分析する必要がある[161]。ホロコーストの社会環境を分析するときには，マジョリティの全体だけでなく，ホロコーストの過程で生じた，マジョリティの一部の者の社会階層（資産状況）の変化［上方移動］を観察する必要もある。ユダヤ人は，特に「アーリア化」と就業禁止によって経済や職業の分野だけでなく社会的生活からも排除され，遂に 1942 年には強制収容所に移送されたが，そのときにマジョリティのどのような人々がユダヤ人コミュニティの後釜に座ったかを正確に把捉しなければならない。スロバキアでは，この過程は中産階級の「形成」として現象した。ユダヤ人には経済的・社会的ステータスがあっただけでなく，専門的職業（自由業）に就いていたことから，典型的な中産階級をなしていた。従来，マジョリティにとってユダヤ人は，職業の面でも教育の面でも後塵を拝さざるを得なかったライバルであったが，第二次世界大戦中にスロバキア共和国の国家機関が手がけた「社会改造（Social Engineering）」（例えば「アーリア化」関連の法律や政令）を後ろ楯にして，スロバキアには（様々な国籍の［新たな］）中産階級が「出現」したの

（159）この図式は，主としてヒルバーグの影響を受けている。例えば，以下を参照。HILBERG, Raul, *Pachatelé, oběti, diváci. Židovská katastrofa 1933-1945*［加害者，被害者，傍観者 ── ユダヤ人の大惨事（1933 年～1945 年）── ］, Praha: Argo, 2002; *dittto*, *Die Vernichtung der europäischen Juden*, Vol. 3, Frankfurt am Main 1994.（ラウル・ヒルバーグ『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』（全 2 巻）（望田幸男，原田一美，井上茂子訳），柏書房，1997 年。）

（160）Vgl. bspw. NIŽŇANSKÝ, Eduard, *Holokaust na Slovensku 4*［スロバキアのホロコースト　第 4 巻］, S. 6–17.

（161）Vgl. bspw. JANČÍK, Drahomír - KUBŮ, Eduard - ŠOUSA, Jiří, „Arizace“ a sociální změna v českých zemích 1938–45. Akvizice židovského majetku-instrument sociálního vzestupu nového vlastníka［1938 年～45 年のチェコにおける「アーリア化」と社会変化—新しい所有者の社会的上昇手段によるユダヤ人財産の取得］, in: NIŽŇANSKÝ, Eduard - HLAVINKA, Ján (eds.), *Arizácie*［アーリア化］, Bratislava: Stimul, 2010, S. 81–112.

である。政治的に言えば，この「新」中産階級は，スロバキアの国家体制の中というよりは，国家政党としてのフリンカ・スロバキア人民党（とその位階制度（ヒエラルキー））の中にいた仲間であった。国家は，アーリア化の担い手が忠実な市民であることを「当然のこととして」期待していたし，国難に際しては国の支えになるだろうとも期待していた。国家保証によるユダヤ人財産の強奪は，スロバキア現体制の黙認，もしくは公然たる支持の根拠となった。アーリア化の担い手は，フリンカ・スロバキア人民党の党員もしくはその準軍事組織であるフリンカ警固団のメンバーであった（アーリア化の担い手の中にはドイツ党あるいはその準軍事組織の義勇親衛隊のメンバーもいた）。地元の政治エリートとの血縁関係とかアーリア化の担い手とかの政治力が悪用されたことが数多くあり，多くの場合にはそれを実証することができる。とは言うものの，今のところアーリア化の担い手（より一般的に言えば，ユダヤ人財産との関わりで財政面などからホロコーストに加担した人々）の垂直移動（立身出世（gesellschaftlichen Aufstieg））[162]に言及した研究はまだ公にはなっていない。歴史学者はマジョリティの社会行動そのものを分析するべきである（その行動がなされた時点で（あるいは後付けによって）当の行動をとったことに対する言い訳は，分析の対象とすべきではない）。また，歴史学者は様々な動機も究明すべきである。この［アーリア化の担い手になるという］行動を分析すれば，「アーリア化申請書」（動産や不動産に関する申請書。スロバキアにはこのような要求書が何千通も保管されている。）に署名した個人（マジョリティの中の一人）が，（全体主義体制の中にいて）自由意思から一定の資産を獲得したいと思っていたこと，あるいは国家によるユダヤ人コミュニティの資産強奪に参加しようとする意思があったことが明らかになるはずである。アーリア化に加担した当の本人は，そうすることでいっそう体制に接近し，ある意味で片棒を担ぐ共犯者になったことを自覚しなければならなかった（そう自覚すべきであり，そう自覚できたであろう）。そして，スロバキア共和国の体制が懐を潤してくれるならば，その瞬間にこの体制は，自分に対して国への支援（あるいは少なくとも共同正犯であるがゆえの沈黙）を要請できるということを，アーリア化の担い手は覚悟しなければならなかった。アーリア化の担い手による具体的な行動は，このように（望ましくないことではあったが）「政治的」側面も持っていた。他方で社会学的観点からすれば，「アーリア化」は，垂直的な社会移動の実現可能性を意味するものであったと理解することができよう。換言すれば，「アーリア化」（もしくは清算）の前に帰属していた社会階層よりもさらに上の階層へとアーリア化の担い手を引き上げることを可能にするのが，アーリア化であったと言えよう[163]。

ユダヤ人から接収したラジオの払下げに関する「普通の人」（A. モルヴァイという名の傷痍軍人）による1943年2月10日の申請は，好ましくない「アーリア化」の典型例である（モルヴァイはスヴァーティ・ベニャディクの出身（ドイツ語の地名はサンクト・ベネディクト。1960年以降はフロンスキー・ベニャディクに改名［ニトラの東約42キロメートル］））。

（162）アーリア化の担い手による社会階層の変位，社会低層から高層への上昇の謂。

（163）ホロコーストに関するスロバキア語の文献では，この問題に言及しているものはわずかにすぎないが，チェコ語の文献としては以下を参照。JANČÍK, Drahomír - KUBŮ, Eduard, *Arizace “ a arizátoři. Drobný a střední židovský majetek v úvěrech Kreditanstalt der Deutschen (1939-1945)* [「アーリア化」とアーリア化の担い手 —— 中小ユダヤ人財産に対するドイツ信用金庫の融資（1939年～1945年）——].

地元の公証人役場によるノヴァ・バニャ（ドイツ語の地名はケーニヒスベルク）［ニトラとバンスカ・ビストリッツァの中間，ニトラの東約 53キロメートル］の郡事務所への回答は，「……［モルヴァイの］他に申請者はなく，ユダヤ人から接収したラジオはすでに学校，憲兵隊などの団体に払い下げられていた。……」という内容であり，申請者に有利な取扱を勧告している(164)。この例から分かることは，一般大衆がユダヤ人財産の略奪にみずから進んで加担しただけでなく，すでに潤っていた学校や官庁などが一般大衆に影響を与えていたに違いないということである(165)。

ユダヤ人の動産でボロ儲けをしたのは，1942 年の強制移送のとき，もしくはその後である。強制移送される者は約 50キログラムの荷物しか携行が許されなかった。そのために，大量のユダヤ人の動産（家具・家財道具など）を「我が物」にできた税務当局は，これらの動産を競売にかけた(166)。1942 年以降に郡管理監（複数）（Bezirkshauptmänner）から送られた報告書には，「我が物」にしたユダヤ人財産に対するマジョリティの反応例が数多く記載されている。マジョリティの好ましくない ふるまい としては，ユダヤ人財産が盗難にあったという事例がある。ユダヤ人から奪いとった財産が盗まれるのではないかと心配した郡管理監の報告もある。スロバキアのマジョリティがとった行動の証拠として，郡管理監による報告書からいくつかを引用することにしよう。

・プリエヴィザ（プリヴィッツ）［ノヴァーキーの北東約 10キロメートル］(Prievidza(Priwitz))の郡管理監による報告：……この地方では，ユダヤ人問題を解決しようとするあまり，住民が不当な貪欲さを示す傾向にあり，中には衝動に駆られて，人の道をはずしてしまう者もいることを申し添える。そのためにユダヤ人所有の家財の買いあさりが手際よく禁止されることになった。……

(164) Štátny archív Banská Bystrica［バンスカ・ビストリッツァ国立文書館］, Filiale Kremnica, Fond OÚ Nová Baňa, Kart. 31, 281/43 prez.

(165) 以下の叙述は，ノヴァ・バニャにおけるこのような事例を巡る問題を「評価」するためである。
郡事務所が配布したラジオ 29 台のうち，11 台（41.3%）はフリンカ警護団の地方組織に，6 台（20.6%）が国民学校（教会経営の学校を含む），さらに数台がフリンカ・スロバキア人民党事務局，ドイツ党，公証人役場（ノヴァ・バニャとヤルノヴィツァ（Jarnovica（Scharnowitz）（シャルノヴィツ）［バンスカ・ビストリッツァの南西約 58キロメートル］に配布された。ジャルノヴィツァの労働局，孤児院，矯正施設にもラジオが配布された（10.3%）。私物として渡されたラジオは，ヴィーネ・ユダヤ人労働収容所の司令官 J. ギンドル（J. Gindl）とノヴァ・バニャで旅館を経営していたシュテファン・マルティン（Štefan Martin）だけである。これは，「アーリア化された動産」の小さな例ではあるが，わざわざここに挙げたのは，ラジオのように「たいしたものではない」物品であっても，アーリア化においては社会的に重要であったことを示すためである。これは明らかに「現場」にいた侵略者の野心を満たしたが（フリンカ警固団（HG），フリンカ・スロバキア人民党（HSĽS），ドイツ党（DP）は，ラジオの半分以上を入手している。），獲物の残りは学校(20.6%)や公共団体(10.3%)の手にも渡った。その一方で，このことは略奪した物品に対する彼らの直接的な関心が何であったかをはっきりさせてくれる。ある物品を必要とするしかるべき部署に，その物品が配分されたことを示そうと努めたことが窺えるからである（申請書を分析すれば，アーリア化の担い手の動機（時としては，金持ち・物持ちになろうとすることに対する言い訳）をもっともらしく見せかけようとしていることが分かる）。

(166) 税務当局が保管している帳簿はごく一部に過ぎず，競売の日付は分かっても，競売の具体的な経過がほとんど分からない。そのために，どれだけのスロバキア人が競売で恩恵を受けたかは推定できない。例えばニトラ県には，1942 年 6 月の競売を準備したときの文書が残されている。Štátny archív v Nitre［ニトラ国立文書館］, Nitra Branch, Fond Obecný notársky úrad Nitra［ニトラ公証人役場関係］, Kart. 6, 280/1942.

・ノヴェ・メスト・ナド・ヴァーホム（ノイシュタット・アン・デル・ヴァーク）［ノヴァーキーの西約70キロメートル］（Nové Mesto nad Váhom（Neustadt an der Waag））の郡管理監による報告：……ユダヤ人の動産を……できるだけ早く売却することが喫緊の課題である。元の持ち主のユダヤ人がすでに移送され，その動産の保管場所が不足しているために，施錠はしたが人目の届かない住宅に放置されているからである。これらの様々な調度品の保管場所に困っているということは別としても，これらのユダヤ人所有の家具の強盗や窃盗が後を絶たない。……

・トレンチンの郡管理監による報告：……国家が接収したユダヤ人資産はできるだけ早く売却する必要がある。せっかく資産を接収したのに，それを監視する者がいないために，簡単に窃盗されるかもしれない。トレンチンには保管庫がないからである。

・ジリナ国家警察局長による報告：……接収したユダヤ人の動産は，適切な保管庫がないために，物々交換，破壊，略奪によって，かなりの損失を被りかねないので，できるだけ早く処分することが……必要である。結局のところ，接収した不動産には十分な監視の目が届かず，灯火管制は犯罪を目論んでいる者におやりなさいと言っているようなものだ。……

・レヴーカ（Revúca，グロースラウシェンバッハ（Großrauschenbach））［ノヴァーキーの東約150キロメートル］の郡管理監による報告：……ユダヤ人動産を接収してはみたものの，ユダヤ人がおそらく隠していたと思われる貴重品の数は少ない。これは注目すべきである[167]。

もう一つの好ましくない事例は，ズヴォレン[168]（アルツォール）でアーリア化された薬局（店名は「救世主のための薬局（Lekáreň u Spasiteľa）」）に関するものである（この薬局は戦後も営業を続けている）。郡事務所の記録を見ても，この薬局の詳細は分からない。官報でもこの薬局の清算に関しては簡潔な注記があるだけである。戦後に作成された文書には，アーリア化の担い手が変更されたとある。戦後になってから任命された担い手は，国家資格を持った薬局管理士であった。元の所有者家族が全滅したために，薬局を確実に我が物とするべくこの薬局管理士は執拗なまでに奮闘した。商工会議所（Povereníctvo priemyslu a obchodu: PPO）が戦後に作成した文書によれば，第二次世界大戦前に20万［スロバキア・コルナ］を融資したタトラ銀行が，戦後になってから［この薬局の］元のオーナー［アーリア化の担い手］にその返済を要求している。しかし，1941年にこの薬局が「アーリア化」（または清算）されたときには，この銀行はその旨を伝えておらず，アーリア化したときの元の担い手は戦後になってからそのようなことを言い出されて困惑した。これらの文書類の中には，ズヴォレン税務署が，

（167）SNA, Fond Národný súd［国民法廷関係］, Dr. Starinský, 49/45-31.同様の指示は，1942年4月2日付の国家保安本部（Ústredňa štátnej bezpečnosti: ÚŠB）が発信した郡管理官宛の書簡にも書かれている（Štátny archív Banská Bystrica, pobočka Kremnica［バンスカ・ビストリツァ国立文書館クレムニツァ分館］, Fond OÚ Nová Baňa, Kart. 27, 326/42 prez.）1942年4月13日付のK. ザブレツキー（K. Zábrecký）による報告書には，トルナヴァとセレッジで盗難があったと記されている（SNA, fond Ministerstvo vnútra［内務省（以下，MVと略記）関係］, Kart. 232, 2208/42）。

（168）ズヴォレンのユダヤ人は非常に少ない。1930年のユダヤ人は622人である（ズヴォレンの人口1万1214人の5.5%）。以下を参照。Židovské náboženské obce na Slovensku［スロバキアのユダヤ教団体］, S. 261, NIŽŇANSKÝ, Eduard, *Dejiny židovskej komunity vo Zvolene*［ズヴォレン・ユダヤ人コミュニティの歴史］, Banská Bystrica 2016.

元のオーナーに対して税金の未納分（1942 年分と 1943 年分）を請求したが，当然ながら支払への同意は得られなかったという記録もある。戦後に作成された文書の中からは，アーリア化の担い手が次第に変化したことを見て取ることができる。薬局管理士による 1945 年の認可申請ではアーリア化の担い手は自分であると言っているのに，その後の書簡では，新規の免許を受けて強制されてあの薬局を引き継いだだけであって，断じてアーリア化の担い手ではないと言っている。証明のしようがないが，スロバキア国民蜂起のときには，医薬品を提供して蜂起軍を支援したと言い，それを功績として挙げるアーリア化の担い手もいる。彼らの中に変化があったことは言うまでもない。戦後になってから政治的な地位を獲得し，そのおかげで手中に収めた財産を我が物にしようと躍起になったのに，それには口をつぐんでいる者もいた。このようなことは言うまでもないことである。しかし，この出来事がマジョリティに与えた社会的影響は重要である。アーリア化による経済的損失の実額は，戦後になってようやく明らかになった。銀行は融資の返済を求めることなく，また税務当局は戦時中に滞納した税金を計算していなかったのである。このような事例からは，財務・税務当局などの分野へと研究を広げなければならないことが分かる[169]。また，「アーリア化」がマジョリティにもたらした甚大な財政と税の損失についての記録もある[170]。元の持ち主が戻ってきたときのアーリア化の担い手の反応については，間違いなく類型化することができる。ユダヤ人コミュニティとマジョリティとの間にすでに存在していた溝は，戦後になってもまだ残っていた。トポルチャニー（Topoľčany）［ニトラの北約 32キロメートル］におけるポグロム[訳注6]の例が示すように，マジョリティが感ずる脅威（アーリア化した財産が［奪われて］失われるかもしれないという恐れ）は，ポグロムを招く可能性があった[171]。

元のオーナーのユダヤ人は移送免除が欲しかったのに，アーリア化の担い手がその手助けをせず，1942 年に早々と強制移送されたというような好ましくない事例もあった。以下に引用するように，ルドヴィット・ミストリーク＝オンドレヨフ[172]がアーリア化したステイネル家の古書店の事例がこれであった[173]。

（169）スロバキア国立文書館（Slovenský národný archív: SNA）には，スロバキア国の時代からの納税記録はない。大部分の旧地方公文書館では，租税に関しては非常に荒削りの記録しか保存されていないか，あるいはまったく存在していない。しかし，金融機関の調査では状況が異なり，結果が期待できる。

（170）Lekáreň u Spasiteľa-Zvolen［ズヴォレンの救世主薬局］. SNA, Fond Povereníctvo zdravotníctva-reštitúcie［SNA，保健福祉委員会基金］, Kart. 222; Nižňanský, Eduard (Hg.), *Holokaust na Slovensku 7. Vzíah slovenskej majority a židovskej minority (náčrt problému)*［スロバキアにおけるホロコースト　第 7 巻　スロバキアのマジョリティとユダヤ人（マイノリティ）の関係（問題の概要）］, Bratislava 2005, S. 84–86.

［訳注 6］　戦後になって強制収容所から生還したユダヤ人が財産の返還請求を行い，それを快く思わなかったスロバキア国民の間で反ユダヤ主義が再燃した。そのような折から，トポルチャニーで子どもたちに予防接種をしていたユダヤ人医師が非ユダヤ人の子どもたちを殺害しようとしていると噂され，ユダヤ人への暴行事件へと発展した（1945 年 9 月 24 日）。これを「トポルチャニーのポグロム」と言う。

（171）Näher dazu Kamenec, Ivan, Protižidovský pogrom v Topoľčanoch v septembri 1945［1945 年 9 月の反ユダヤ・トポルチャニー・ポグロム］, in: *Studia Historica Nitriensia*［ニストリエンシア歴史研究］, Bd. VIII, Nitra 2000, S. 85–100.

（172）ルドヴィット・ミストリーク＝オンドレヨフ（Ľudovít Mistrík-Ondrejov）（1901 年～1962 年）。スロバキアの作家。［ペンネーム：ルド・オンドレヨフ（Ľudo Ondrejov）；本名：ルドヴィット・ミストリーク（Ľudovít Mistrík）］

（173）Hlavinka, Ján, „So Židom som nevyjednával.“

ブラチスラバ市ヴェントゥールスカ通り22番地の私の書店で不要なユダヤ人は以下のとおり。マックス・ステイネル，ヨゼフ・ステイネル，レギーナ・レーベンスフェルドヴァ，ジグムント・ステイネル，ヴィリアム・ステイネル。これらのユダヤ人が逮捕・連行されても，営業には何の支障もなく，スロバキア国が経済的な損失を被ることはない。私が，トゥルツ・スヴェーティ・マーティン（Turč Svätý Martin（1950年以降の地名はマルティン（Martin））出身のアーリア人ヴィリアム・ファーブリィの代わりを務めるからである。事業に必要な者は，マックス・ヴィマー，セチリア・ゲルボヴァ，そして暫定的に（約一ヶ月間）レオポルド・メンドリンガーである。……[174]

このように，「アーリア化」は1942年の強制移送とリンクしている。申立が連名で行われたこともあり，トルナヴァの商店主49人が，アーリア化した店舗からユダヤ人を排除したい旨の申請書に連署し，それをフリンカ・スロバキア人民党郡事務局経由でアレクサンデル・マッハに宛てて送っている[175]。ユダヤ人から事業を奪取するときのクリエンテリスムス［訳注3参照］と縁故主義は，ズヴォレン市でも見ることができる。V. ヴィットマン（V. Wittmann）の店舗をアーリア化したのは，フリンカ・スロバキア人民党の幹部でズヴォレン市の元政府委員の妹M. ペトコヴァ（旧姓リコッティ）（M. Peťková, geb. Ricotti）[176]である。このケースは非常に興味深い。1942年10月12日に内務大臣の個人秘書が中央経済局長アウグスティン・モラーヴェック（A. Morávek）に宛てた書簡には，次のように書かれている。

……ズヴォレンでは，リゴッティ氏[177]の妹で裕福な未亡人が，皮革製品店をアーリア化した。大臣によれば，［この未亡人によるアーリア化は］日刊新聞『スロバキアの人々』［フリンカ・スロバキア人民党機関紙］の紙上で非難され，フリンカ・スロバキア人民党本部事務局

K arizáciám spisovateľa Ľudovíta Mistríka-Ondrejova［「私はユダヤ人と交渉していない」—作家ルドヴィット・ミストリーク＝オンドレヨフの逮捕について—］, in: *Historický časopis*［歴史学雑誌］, Vol. 67, No. 3, 2019, S. 501–519; TRANČÍK, Martin, *Medzi starým a novým. (História kníhkupeckej rodiny Steinerovcov v Bratislave)*［古いものと新しいものの間で—ステイネル書店（ブラチスラバ）の歴史—］, Bratislava 1997.

（174）NIŽŇANSKÝ, Eduard (Hg.), *Holokaust na Slovensku 7*［スロバキアのホロコースト　第7巻］, S. 52.

（175）SNA, Fond MV［内務省］, Kart. 205, 569/1942.

（176）M. ペトコヴァ（旧姓リコッティオヴァ）（M. Peťková, geb. Ricottiová）［脚注177によると，Rigottiと誤記されている。］の回想録（未公開）には次のようにある。

私は，息子に商取引のキャリアを積ませるために，アーリア化された商店を継承しようとした。加えて，スロバキア自治政府時代の昔から，ルダーク（ここではスロバキア人民党の謂。1925年以降はフリンカ・スロバキア人民党と同義 —— 引用者）を支持していた家系の出身であることも述べておかなければならない。私には20年前からフリンカ・スロバキア人民党の組織活動に参加していた3人の兄弟がいるが，旧チェコスロバキア政府の時代には，彼らは信条とした自治政府のルダークであったために度々迫害された。兄弟の一人ヤーン・リコッティ（Ján Ricotti）はフリンカ・スロバキア人民党ズヴォレン地区副会長であり，ズヴォレン市政府委員であった。ヤーンはスロバキア自治政府の側に立っていたために，1939年3月蜂起のときには投獄されたこともある。ヤーンは1926年～1929年にはフリンカ・スロバキア人民党の幹部党員であった。

（177）引用文では，ミスプリのままになっている。書き手は，Ricottiではなく誤ってRigottiと書いている。

の勧告に基づいて［別人によって］アーリア化された。ところが，大統領の要請を受けた大臣はそのアーリア化全体を取り消し，この皮革製品店のアーリア化はリゴッティ家に有利になるように進められ，アーリア化の除外対象となっていたロドブラナ（フリンカ警護団の前身）の団員がアーリア化した。……

実際，1941 年 9 月 14 日付の日刊紙『スロバキアの人々』は，「アーリア化とその結果（Arizácia a jej dôsledky）」という記事の中でこのことを次のように述べている。

……党と警護団［フリンカ・スロバキア人民党とその準軍事組織フリンカ警護団］の推薦を受けた中央スロバキアの靴屋が，ユダヤ人企業のアーリア化を申請した。しかし，この認可書を受け取ったのは，申請した靴屋よりも規模の大きな会社のある取締役の未亡人である。この夫人は「有力な名士」の妹であったために，いとも簡単に党と警護団の目をくぐり抜けた。党もフリンカ警護団のいずれもが，この古くからのルダーク［フリンカ・スロバキア人民党の党員・党友］，警護団，ロドブラナと関わりのある申請者のために何度も介入したのではあるが，それにもかかわらず，かの裕福な未亡人が選ばれて公認の企業管理者の地位に就いた。

ズヴォレンのフリンカ・スロバキア人民党郡事務局（1941 年 5 月 26 日），同党中央事務局本部（1941 年 3 月 21 日），フリンカ警護団郡指令部（1941 年 2 月 26 日）からの推薦を受けた「アーリア化の申請者」（上記）は，靴職人 J. スラツキー（J. Sliacky）であった。いずれの推薦も事業の承継を巡る申請人ペトコヴァ（Peťková）との「闘い」では勝負にならなかった[178]。

スロバキア人によるユダヤ人資産の隠匿は，ユダヤ人市民にたいする援助の一例である。もっとも，それが裏切られたり発覚したりするとその資産は国に帰属し，スロバキア人は罰金を支払わなければならなかった。戦後になってからユダヤ人が証明しない限り，マジョリティが無私の行為をなしたと「判断」することは難しい。

マラツカ（Malatzka）［ブラチスラバの北約 35キロメートル］の郡管理監は次のように報告している。

……ユダヤ人動産の移転を多数調査した結果，アーリア人が訴追されて，摘発物資を憲兵隊が押収し国有化した[179]。

このような事例は当時の新聞にも掲載され，ユダヤ人を攻撃するプロパガンダだけでなく，スロバキアの「助っ人」（「白系ユダヤ人」（die weißen Juden））への攻撃にも利用された。そのような事例のいくつかが，フリンカ警護団の日刊紙『警護団員（*Gardista*）』の「性懲りのない奴ら，ユダヤ人財産をくすねる輩（Naši sa ešte vždy nepoučili. Potrestaní prechovávači židovského majetku）」という記事の中で，次のように述べられている。

ジリナ出身のユダヤ人ルードヴィート・ゴールドステイン（Ľudovít Goldstein）は，毛皮のコート 1 着，毛皮の襟巻き 4 点，上等なテンの毛皮 1 点を，当局による接収を逃れるために煙突掃除を業とする助っ人のヨゼフ・アダミツァ（Jozef Adamica）宅に隠匿した。そのため，ジ

(178) NIŽŇANSKÝ, Eduard (Hg.), *Holokaust na Slovensku 7*［スロバキアのホロコースト　第 7 巻］, S. 62–63.

(179) SNA, Fond Národný súd［国民法廷関係］, Dr. Starinský, 49/45–31.

リナ国家警察当局は，ゴールドステインに禁固14日（または罰金500スロバキア・コルナ），および罰金1000スロバキア・コルナ（未納の場合は禁固10日）を課した。アダミツァは，ユダヤ人所有物隠匿罪で500スロバキア・コルナの罰金を科せられ，未納の場合は禁固5日に処せられる。……[180]

ユダヤ人のために立ち上がって，マジョリティがユダヤ人経営の「アーリア化」や清算に抗議したのは，ごくわずかな場合しかなく，現在までの調査によれば，以下の時計店の事例だけというのが実相である。ズヴォレン在住のヴォイテフ・シュトロムフ（Vojtech Štromf）が経営する時計店の清算に反対して，ズヴォレン市民104人が嘆願書に署名した。それには次のように書かれている。

……私たちはみな，どんな時計でも前述の人物［ヴォイテフ・シュトロムフ］に修理してもらいましたが，この人はとても良心的で，修理代も新品の時計も最低価格にしてくれました。そのような人が突然営業許可を取り消され仕事ができなくなりますと，ズヴォレン市とその周辺地域には，キリスト教徒の時計修理工はおりませんので，時計修理のために別の町まで行かなければならず，時間の損失と大変な物入りとなってしまいます。ユダヤ人であるかの人は我々キリスト教徒に対してもスロバキア国に対しても罪を犯したことはなく，それどころかユダヤ人でありながらキリスト教徒に対して正直で誠実に振る舞い，詐術を弄したことはなく，請求額はつねに最低でした。……

しかし，この嘆願書にもかかわらず，この時計店は清算され，時計工は1942年6月8日にズヴォレンからルブリンに強制移送された[181]。

医師，薬剤師，獣医師，エンジニアなどは，国家が「社会的」に必要であると判断して強制移送の対象から除外された[182]。以上とは別の「アーリア化」に好ましい向き合い方をした事例がある。キリスト教徒の親族によって企業を「アーリア化」して，その企業を家族のために存続させようとしたやり方がある。ズヴォレンの卸売業者エルネスト・スピッツ（Ernest Spitz）は，進んでその資産を「アーリア化」されるようにして，義理の息子にしてキリスト教徒のベーラ・マントゥアーノ（Béla Mantuáno）に事業を承継させた[183]。「第一次アーリア化法」（1940年法律第113号）が制定される以前に，所有者のエルネスト・スピッツは「ズヴォレン雑貨・乾物卸売商グラナー商会（ポロニエ地域）」の経営権の51％をベーラ・マントゥアーノに譲渡した。このために，1940年に首相府は，アーリア化が見かけ上ではないかを調査した[184]。エルンスト・スピッツは義理の息子［ベーラ・マントゥアーノ］の会社で「手伝い要員」として働いていたため，一家は1942年

（180）*Gardista*［フリンカ警固団の日刊機関紙『警護団員』］, 21.6.1942, S. 4.

（181）SNA, Fond ÚHÚ, Karton 48, 4973/41.

（182）詳しくは以下を参照。SULÁČEK, Jozef, *Biele plášte*［白衣の人］, Bratislava 2005. この著書は，スロバキア共和国のユダヤ人医師とその運命に捧げられた。

（183）Näher dazu NIŽŇANSKÝ, Eduard, Vražedná solidarila. Príbeh B. Mantuána a jeho židovských príbuzných vo Zvolene［死の連帯 ── B. マントゥアーノとズヴォレンのユダヤ人親族の物語 ──］, in: POLLÁK, Miroslav (ed.), *Solidarita*［連帯］, Levoča 2019, S.136–162.

（184）Štátny archív Banská Bystrica, Filiale Zvolen, Fond Okresný úrad Zvolen［国立公文書館バンスカ・ビストリッツァ，ズヴォレン支所，ズヴォレン郡関係］, Kart. 67, 771/40; SNA, Fond ÚHÚ［中央経済局関係］, Kart. 252, 56599/41.

の強制移送を免れ，ベーラ・マントゥアーノは見かけ上の「アーリア化」によって，ユダヤ人親族を救うことができた。しかし，この家族は 1944 年～1945 年に悲劇を迎えた。スロバキア国民蜂起の鎮圧後，革命国民委員会のメンバーであったベーラ・マントゥアーノは，ユダヤ人の親族とともにズヴォレンのユダヤ人墓地で第 14 特別部隊（Einsatzkommando 14）［特別分遣隊（アインザッツグルッペ）H 部隊の主力部隊］によって殺害された(185)。

この他の好ましい事例としては，マジョリティの一部が「見かけ上」のアーリア化を率先して実行し，ユダヤ人企業を救済しただけでなく，それによってユダヤ人家族を 1942 年の強制移送から救ったことがある(186)。このようなケースは，戦後ユダヤ人財産の返還請求を受けた「アーリア化の担い手」が当初の合意通りに返還したことを記録する文書がなければ分からないことが多い。ここでもズヴォレンの例を挙げると，元のユダヤ人所有者であるヴィゴヴチス家（Vigovcis）と「見かけ上のアーリア化の担い手」であった A. フィラデルフィ（A. Filadelfi）との間で返還契約が締結され，それに基づいて 1946 年 8 月にユダヤ人の元の持ち主に財産が戻された事例がある(187)。以上の事例は，マジョリティに属していた人々が「アーリア化」の過程でとった行動を大ざっぱにプラスとマイナスに分けたにすぎない。私見ではあるが，コミュニティを都市別・業種別に研究すれば，ホロコーストの社会的帰結は最良の形で記述されるようになり，その社会分析によって広範囲に及ぶ変化の結末を最も良く理解できると考えられる。このようにしてコミュニティごとにその相異を記述できるならば，国家レベルでの類型化も可能になるであろう。

以下では，あくまでも例示としてではあるが，スロバキアの若干の地域における「アーリア化」と清算の結果に言及する。トポルチャニー（ユダヤ人 2192 人（全町民 8731 人の 25.1%）(188)）では，2059 の企業のうち 605（29%）がユダヤ人の所有であった。最多業種はフリーランスの 470 人（43%）であり，また，ユダヤ人経営の手工業 115（15%），そして 20（11%）が国家資格を必要とする業態として登録されていた。ユダヤ人企業の店舗は郡庁所在地であるトポルチャニーの中心部（「市場広場（Marktplatz）」）にあり，そのためにトポルチャニーの市域だけでなくその地域全体の経済生活に対しても決定的な役割を果たすことができた(189)。トポルチャニーのユダヤ人

（185）ベーラ・マントゥアーノ（Béla Mantuáno），1904 年 10 月 6 日ズヴォレン生まれ，1944 年 11 月 16 日収監，同日射殺（*Kronika mesta Zvolen - zápis o exhumácií masových hrobov vo Zvolene*［ズヴォレン市史―ズヴォレンにおける集団墓地の発掘に関する報告］）。発掘日は 1945 年 3 月 29 日～30 日。ズヴォレン市ユダヤ人墓地内 6ヶ所の集団墓地から殺害死体 136 体発見，身元確認は 93 体のみ。以下を参照。Štátny archív Banská Bystrica, Fond Okresný ľudový súd Zvolen［バンスカ・ビストリッツァ国立文書館，ズヴォレン地方国民法廷］, Kart. 7, T ľud 60/46 Robert Wich.

（186）アーリア化の担い手がユダヤ人従業員（例えば，手伝いとして雇った元のオーナー）を会社に残そうとすれば，6ヶ月ごとにその従業員の労働許可証を申請しなければならなかった。この許可証があれば，元のユダヤ人経営者を（場合によってはその家族をも）1942 年の強制移送から守ることができた。

（187）SNA, fond PPO-rešt., Kart. 45, VII-735.

（188）*Židovské náboženské obce na Slovensku*［スロバキアのユダヤ教団体］, S. 207.

（189）Näher dazu JAMRICHOVÁ, Andrea, Židovská komunita v Topoľčanoch v období autonómie Slovenska［スロバキア自治政府時代のトポチャニーにおけるユダヤ人コミュニティ］, in: *Židovská komunita na Slovensku. Obdobie autonómie Slovenska. Porovnanie s vtedajćími udalosíami v Rakúsku*［スロバキア自治政府時代のユダヤ人コミュニティ―オーストリアとの比較―］, Bratislava 2000, S. 9-40; JAMES, Andrea, Zmeny v postavení židovskej komunity v okrese Topoľčany spôsobené riešením židovskej otázky počas obdobia Slovenského

コミュニティを研究している作家のアンドレア・ヤメス（Andrea James）は，アーリア化の特徴を次のように述べている。

> アーリア化された企業を所有できたのは，国民の中のごく少数であった。フリンカ・スロバキア人民党やフリンカ警護団のしかるべきメンバーや幹部とか国家公務員の場合にはその妻や親族などがアーリア化によって所有者になった。全員がフリンカ・スロバキア人民党から推薦を受けていたが，フリンカ警護団からの推薦を受けたのが7件あって，そのすべてはスロバキア人であった[190]。アーリア化の担い手の社会的地位に関する記録は完全には残されていない。現在までの研究で言えることは，彼らが，小規模経営者（46人）とユダヤ人企業の従業員（2人）であったこと，そしてアーリア化によって商売を始めたり自分の商売を拡大したりしたことである。これ以外の事例では……アーリア化の担い手は，自治体職員（4人），トポルチャニーの上位自治団体の管理監（3人），フリンカ警固団幹部の妻（3人，職業は教師か高官）である。カトリック聖職者がアーリア化した企業の共同所有者となった事例が1件ある[191]。

マルティン・マツコ（Martin Macko）はバンスカ・シュティアヴニツァ（シェムニッツ）地区（Banská Štiavnica（Schemnitz））のユダヤ人コミュニティの現地調査を実施した[192]。同地区の1938年現在の人口は2万2654人であり，そのうち363人（1.6%）がユダヤ教を信仰していると回答していた。その大部分（334人）はバンスカ・シュティアヴニツァの市部に住んでいた。引用文献に掲げたマツコの研究[193]によると，バンスカ・シュティアヴニツァでは，21のユダヤ人企業が完全にアーリア化された（工場2，商店14（最多は雑貨店6），卸売業3，トラック運送業1，露店1）。12の企業が按分されて（共同で）アーリア化された。（以上の33のうち27はバンスカ・シュティアヴニツァの市部にあった。）そして，一部だけがアーリア化されたのは，工場2，商店8（そのうち雑貨店とアパレル店各3，卸売業2）である。さらにマツコはアーリア化の担い手の特徴を説明するとともに，バンスカ・シュティアヴニツァ地区の公文書館に保存されている資料に基づいて，企業清算（「アーリア化」）が，1942年に強制移送されたユダヤ人の運命に

štátu a ich sociálny dopad［スロバキア国におけるユダヤ人問題の解決によるトポチャニー地区のユダヤ人コミュニティの地位の変化とその社会的影響］, in: *Česko-slovenská historická ročenka*［チェコとスロバキアの歴史年鑑］, 2001.

（190）SNA, Fond Ústredie štátnej bezpečnosti［国家安全保障本部関係］, 609-65-2.

（191）詳しくは以下を参照。James, S. 123-132によると，トポルチャニー（Topoľčany）のホテルとカフェをアーリア化したŠ.ホンチク（Š. Hončík）は，ルドヴィート・グラーゼルとエレメール・グラーゼル（Ľudovít u. Elemér Glásel）両名の釈放を阻止すべく，1942年4月27日，セレッジ（Sereď）収容所の司令官ヴォザール（Vozár）に次のような書簡を送った。

> ……貴職が私の要求を明らかにしないことを……信じています。……さもないと，私はトポルチャニーのユダヤ人だけでなく，白系ユダヤ人からもいっそう迫害されてしまいます。……（SNA, Fond MV［内務省関係］, Kart. 237, 5454/1.）

（192）Macko, Mart, in: Postoje majoritného obyvateľstva k židovskej komunite počas 2. svetovej vojny na príklade okresu Banská Štiavnica［第二次世界大戦中のユダヤ人コミュニティに対するマジョリティの態度 ── バンスカ・シュティアヴニツァ地区を例として ──］, in: Žiak, Miloš - Snopko, Ladislav - Nižňanský, Eduard (Hg.), *Park ućľachtilých duší 2*［聖なる魂の公園　第2集］, Bratislava 2008, S. 110-127.

（193）*Ebenda*, S. 116.

どのような影響を及ぼしたかを説明しようとした。マツコはこの現地調査によって，ユダヤ人コミュニティの貧困化とその後に実施された 1942 年の強制移送との因果関係を解明し，次のように述べている。

> アーリア化の担い手は政治的な手腕とコネで選ばれたが，営業経験に乏しいことが多く，そのために元のオーナーのユダヤ人を安価な労働力としてその企業に残して，実際に経営を続けさせることが多かった。［経験豊かな］ユダヤ人を会社に残そうとしたアーリア化の担い手たちは，ユダヤ人のために様々な許可や免除を取得して，逆説的な言い方になるがユダヤ人を保護したのである。1942 年に強制移送された元ユダヤ人経営者の人数を，企業の接収形態別に分類・比較してみると，このことがよく分かる。清算企業のオーナー 68 人のうち 59 人（86. 8%）が強制移送され，アーリア化された企業のオーナーは，20 人のうち 13 人（65. 0%）が強制移送された。しかし，部分的にアーリア化された企業のオーナーでは，17 人のうち 5 人（29. 4%）だけが強制移送されたのであった[(194)]。

したがって，アーリア化に関しては，ホロコーストの社会環境の分析を通じて，次のような二つの問いを検討する必要がある。第一は，ユダヤ人コミュニティが抱えた問題に対するマジョリティの無関心を引き起こした社会的背景とはどのようなものかという問いである。第二は，マジョリティが雇用や経営の承継（ルンペン・プロレタリアートの場合には不動産の取得）を通じてユダヤ人コミュニティの貧困化に手を貸したのはどうしてかという問いである。これについて言うならば，スロバキアという国が「物言わぬマジョリティ」を買収した，と言うか犯罪の片棒を担がせて沈黙させたからである。その一方で，ユダヤ人コミュニティで一斉に起こった財産に対する基本権の侵害は，国有化の始まりと見ることができる。こうしてマジョリティは，特定グループの国民（戦時下のスロバキア共和国ではユダヤ人，そして 1948 年以降になると中産階級）から財産を奪取することに慣れていったわけである。（第二次世界大戦直後には，産業と銀行の国有化は，市民にとってほとんど聞いたことがない迂遠な存在であった。）他方で，マジョリティは，例えば店舗や経営など，その置かれた環境で所有関係の変化を肌で感ずることができた。したがって，マジョリティは 1942 年には，ユダヤ人を幇助すればイラヴァ収容所に投獄すると脅され，1944 年にドイツ軍が進駐してからはユダヤ人に隠れ家（かくれが）を提供したとして処刑されたことは確かではあるが，マジョリティの受動性は，国民へのプロパガンダや恐怖だけから生まれたわけではなかったのである。社会的な地位の上でも職業の面でも，以前はユダヤ人が占めていた場所でその後釜に座った知識人に始まり，競争相手を迅速に排除できたアーリア化の担い手や企業の清算人，さらには強制移送後に行われた動産の競売によって利益を得たルンペン・プロレタリアートに至るまで，実に多くの人々を政府は簡単にユダヤ人コミュニティに対する犯罪へと巻き込んだのである。「物言わぬマジョリティ」とは，その政策の結果であった。こうしてマジョリティがバラバラになり，（特定の社会的・政治的集団による）あるべき集団的反応は表出しなくなった。スロバキア共和国の時代における［ユダヤ人の］支援が個別的にしか見られなかったのは，このせいである。ユダヤ人の企業，経営，資産のアーリア化と清算の問題を分析するときには，その全般的な結果がユダヤ人の貧困化であったことを忘れ

(194) *Ebenda*, S. 116-117.

てはならない。自前の反ユダヤ政策はユダヤ人コミュニティを貧困化させたが，スロバキア共和国はこの「お荷物」をいとも容易に進んで片付けた。ユダヤ人をそのようにしたのは，スロバキア国の立法機関と行政機関である。スロバキアの反ユダヤ主義は，1941年秋には国家社会主義による組織的なホロコーストを招き寄せ，その結果，1942年にはユダヤ人を強制移送させることになったからである[195]。

最後に，このテーマに関して1943年7月12日付のスロバキア経済省へのドイツ人顧問官の報告書から引用しておこう。

> （1）ユダヤ人資産のリストアップ，保全，評価。当初，資産は一般に40億～50億と考えられていたが，ほとんどが「雲散霧消」していた。機会を捉えては，財務省は国庫の資産状況が債務過剰に陥っていると指摘していたことを特記しておく。動産は一般に比べれば，とんでもない格安価格で売却されているが，その他の資産（特にアーリア化された経営）に関する記録は存在せず，しかも承継した借方と貸方［資産と負債］の総合管理だけでなく，借方［資産］についての実際の価額評価についても本格的な総合管理は行われていなかった。数十億もの価値があるユダヤ人資産に対する責任は途轍もなく重い。最も厳しく，最も執拗に一切の財産関係を究明し，資産の浪費に責任を負うすべての人物，すべての担当部署に対して，実際にその責任を問う日が来ないはずはないと思料する[196]。

1943年に，スロバキア国会議員のオイゲン・フィルコルン（Eugen Filkorn）は，アーリア化についてこれと同様の意見を述べている。

> 「窃盗されたユダヤ人の財物についてどんな手が打たれたのか。」と質問した彼（フィルコルン ——引用者）は，さらにユダヤ人財産を動かしたのは誰かと問い，そのユダヤ人財産の所在について厳密な調査を下院の財務委員会[197]（Finanzausschuß des Abgeordnetenhauses）に動議として提出した。そして，この問題が国家安全保障本部（Ústredňa štátnej bezpečnosti: ÚŠB）［1940年1月1日に設置された防諜を主要任務とする警察機能をもつ部局］の手で解明されようとしたとき，フィルコルンは，当の国家安全保障本部が主犯であると非難し，新たな主務官庁による調査を要求した。その任務に当たるために，管理総局（das Oberste Kontrollamt）が設置された。3ヶ月後に財務委員会で管理総局に弁明を求めたフィルコルンは，調査に着手するのに十分な人員が配置されていないと告げられて，大いに失望した。管理総局は新組織の編制と時間的猶予を要求し，しかるべき後に報告書を提出したいと述べたが，フィルコルンは，「新しい人材を配置する新しい部局を設置しても，また腐敗するだけなので認められない。」と述べた。これに対して戦争省（Kriegsministerium）[198]にユダヤ人問題

（195）例えば以下を参照。NIŽŇANSKÝ, Eduard (Hg.), *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie 1942*［スロバキアのホロコースト　第6巻　1942年強制移送］, Bratislava 2005.

（196）Politisches Archiv des Auswärtiges Amtes (PAAA) Berl, in: Fond Gesandtschaft Pressburg［ドイツ連邦共和国外務省政治文書館（ベルリン），プレスブルク［ブラチスラバ］駐在公使館関係］, Karton 200, ohne Nummer. Siehe auch Dokument 270.

（197）正しくは，スロバキア共和国国会財務委員会（Finanzausschuss des Landtages der Slowakischen Republik.）。

（198）スロバキアでは，通常この省は国防省（Nationalverteidigungsministerium）であり，戦争省という用語は使われなかった。

の検討を継承させるとする動議が出された。これに対して，そのために採用した官吏たちが新たな金ヅルを得ることは明らかであるとして，フィルコルンはこのようなおせっかいを端(はな)から拒否した。

フィルコルンは次のように述べた。

> またしてもグッド・アイディアが水疱に帰し，堂々巡りのあげく，数ヶ月前の振り出しに戻ってしまった。この問題を秩序立てて解決することは，未来に託すしかない方法がない。

こうして，フィルコルンは，スロバキア政府と人民党[199]のいずれもが，この腐敗した組織を正すことはできず，外部からの浄化が望ましいことを悟った。……[200]

この発言は，腐敗とユダヤ人財産による不当利益がどこまで進んでいるかを裏付けている。国会議員でありカトリックの司祭であったフィルコルンでさえ，国家機関がユダヤ人財産を巡る問題を解決できるとは思ってもいなかったのである。

首相のティソがアーリア化を支持していたことは，ここで改めて指摘しておく必要がある。この問題について 1942 年にティソは，次のように述べた。

> ユダヤ人は畑で働くのではなくて，銀行や高位の席に着いており，国民所得を我が物にしている。ユダヤ人が国民所得の 38%を領有していることははっきりしている。300 万人のスロバキア人が 62%の国民所得を得ているのに対して，全人口の 5%に過ぎないユダヤ人が国民所得の 38%を我が物にしている[201]。

ティソは，1947 年 3 月 17 日と 18 日の 2 日間に亘って国民法廷でユダヤ人問題について供述した。ユダヤ人に対する迫害についての陳述は 4 頁にも満たないが[202]，その中でティソはきわめて明確に次のように述べている。

> ……私はユダヤ人問題の解決に賛同しました。ただ賛同しただけではなく，スロバキアの政治家である私はユダヤ人が経済生活で果たす役割をも認識した上で，そうしました。そのことはすでに申し述べましたが，ユダヤ人は経済分野で過剰なシェアを占有していただけでなく，スロバキアの国民所得に占めるシェアも適切さを欠いていました。秩序を取り戻さなければなりません。平和と満足の基礎となる正義は，秩序を求めるからです[203]。

戦後になってもティソは，ユダヤ人問題の解決には人数制限(ヌメルス・クラウスス)の原則が正しいと信じきっていた。それと同時に，ティソはナショナリズムとかスロバキアの国益保護という観点からユダヤ市民に介入しようとした。ところが，汚職や縁故主義を基にしたユダヤ系企業のアーリア化と清算が，フリンカ・スロバキア人民党やフリンカ警固団（あるいはドイツ党とその準軍事組織である義勇親衛隊）とは切っても切れないほどに政治的に結びついた結果として，スロバキア社会にどのような道徳的崩壊がもたらされたかということにつ

(199) 正しくは，フリンカ・スロバキア人民党。

(200) BArch, Fond R 70 Slowakei/251, S. 127-128. Siehe Dokumente 245, 246.

(201) *Slovák* [スロバキアの人々], 18. 8. 1942, S. 4.

(202) 演説原稿は全体で 116 頁に及ぶ。Siehe FABRICIUS, Miroslav - HRADSKÁ, Katarína, *Jozef Tiso. Prejavy a články (1944 - 1945)* [ヨゼフ・ティソ ── 演説と掲載記事（1944 年～1945 年）──], Bratislava 2010, S. 99-217.

(203) *Ebenda*, S. 209.

いては，ティソは後年になっても（あのときから時間が経っていたにもかかわらず）分かろうともしなかった。

ティソは次のように自己弁護している。

> 我々は誰からも奪っていない。誰の財産も奪っていない。我々は全てを買い占めたわけでもない。……我々の行動が残忍で非人間的であったとか，人種差別的憎悪に支配されていたことはない。我々は，スロバキア国民に財産を取り返してやろうと努力しただけである。言うなれば，それは，本来スロバキア国民に帰属していたはずのものなのである[204]。

1940年にティソは，次のように公言していた。

> 以前に盗まれた財産をスロバキア人の手に取り戻しても，所有権の侵害にはならないのは当然である[205]。

［戦後も］考え方が変わらないティソは，アーリア化が何をもたらしたかをまったく理解しようとしなかった。ユダヤ人が自分の口座にある預金を払い戻すことさえ許されなかったという事実，そしてアーリア化された企業，家屋，集合住宅の代価がユダヤ人にまったく払われなかったという事実，これらが何を意味するかも理解しようとしなかったのである。預金は拘束され，ユダヤ人は自由に引き出すこともできなかった。公判前の書面による証言の中で，ティソは，企業のアーリア化・清算の結果としてのユダヤ人の貧困化とその後の強制収容所への移送との間には因果関係があることを見抜きながら，驚くべきことに，公判ではこの因果関係については口を閉ざしている。

④アーリア化と1942年のユダヤ人強制移送

ユダヤ人の企業，経営，事業所の清算とアーリア化は，スロバキア・ユダヤ人を根こそぎ貧困化させた。それは，1940年政令第113号（「第一次アーリア化法」）が制定され，次いで1940年政令第303号（「第二次アーリア化法」）が制定されてからのことであるが，その論理的帰結として，スロバキアからユダヤ人が強制移送されるようになった。一連の法改正は，スロバキアにおける強制移送にとって必要な「前提条件」なのである。

ゲーツ・アリー[206]やマーティン・ディーン[207]とは意見を異にするが，筆者は，「アーリア化」によるスロバキア・ユダヤ人の貧困化ならびにユダヤ人企業（ユダヤ人財産）の清算と，その後のスロバキアからの強制移送とは因果の連鎖で結ばれていると考えている。貧困化したユダヤ人が大量に発生したために国は急遽ユダヤ人の生活の面倒をみたり，就労機会を創出したりしなければならなくなった。ところが，スロバキアの国土にゲットー[208]や大規模な労働収容所[209]を建

（204）*Ebenda*, S. 211.

（205）*Ebenda*, S. 211.

（206）ALY, Götz, *Hitlers Volksstaat. Raub, Rassenkrieg und nationaler Sozialismus*, Frankfurt am Main 2005, S. 54–66.

（207）DEAN, Martin, *Robbing the Jews: Confiscation of Jewish Property in the Holocaust, 1933-1945*, Cambridge 2008, S. 378–396.

（208）1940年の時点で，ヴォイテフ・トゥカは1万人規模のユダヤ人ゲットーの建設を提案し，その費用はユダヤ人に負担させることにした。Vgl. NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 82

（209）1941年と1942年にノヴァーキー（Nováky），セレッジ（Sereď），ヴィーネ（Vyhne）にユダヤ人労働収容所が設置された。ユダヤ人労働センター（židovské pracovné strediská）も何ヶ所か設置された。

設するための財政的余裕はなかった。国は大量のユダヤ人貧困層を養うために，ユダヤ人財産をアーリア化・清算して収入を確保する必要があった。遅くとも 1941 年秋までには，スロバキアにおけるユダヤ人問題は社会問題になっていた。この状態を招いた責任はユダヤ人(210) にあるのではない。大統領など，スロバキア第一共和国の行政機関と立法機関の中枢にいた者が負うべきものである。

このような仕組みは，アレクサンデル・マッハの文書が明らかにしている。1942 年 4 月 1 日に内務省は，ユダヤ人強制労働施設の設立およびそれを維持するための基金（Fond pre zriaďovanie a udržovanie podnikov pracovnej povinnosti Židov）に関する政府提出法案の提案理由書を作成した。そこには，ユダヤ人貧困世帯 1 万 6000 世帯への救恤費の総額は年間 1 億 6000 万スロバキア・コルナと見積もられている（1 世帯当たり 1 万スロバキア・コルナ）[訳注7]。ユダヤ人①8 万 8951 人（1941 年政令第 198 号によれば，8 万 9053 人）（約②2 万 2000 世帯）のうち，③3 万 2527 人（36. 3％＝［③3 万 2527 人÷①8 万 8951 人］）は元からの有業者であり，そして有職者でないが④財産収入で生活するユダヤ人が 4000 人いた（有業者［③］と財産収入による生活者［④］の合計［⑤3 万 6527 人＝③3 万 2527 人＋④4000 人］は，全世帯員［①8 万 8951 人］の 41％［＝⑤÷①］）。企業や事業所のアーリア化・清算，あるいは労働許可証の不交付などの反ユダヤ的措置の結果，⑥2 万 2267 人が有業者でなくなり，そして（④［財産収入で生活する］4000 人のうち）⑦2500 人が新たに財産収入で生活することができなくなった（収入の道が途絶えたユダヤ人の合計は⑧2 万 4767 人［⑥＋⑦］。これは当初の有業者③3 万 2527 人の 76. 1％に該当する）。上述の提案趣意書によると，そのうちの約三分の二は戸籍筆頭者（世帯主）であった［したがって，世帯数は⑧2 万 4767×（2/3）＝⑨約 1 万 6000 世帯］。提案理由書の結論によれば，基本的に⑨約 1 万 6000 世帯（すなわち，当初の 2 万 2000 世帯の 72. 7％［総世帯人員⑩約 6 万 4000 人］）が生計を立てる可能性を失ったまま放置された。（約 6 万 4000 人のユダヤ人が生活の道を断たれた［世帯当たりの平均世帯人員数は 4 人である］。）この⑩約 6 万 4000 人を，⑪［1942 年に］強制移送された約 5 万 8000 人，および⑫ユダヤ人労働収容所，ユダヤ人労働センター，もしくは第 6 労働大隊のユダヤ人約 4500 人を加えた人数［⑬約 6 万 2500 人＝⑪約 5 万 8000 人＋⑫約 4500 人］と並べてみれば，［⑩約 6 万 4000 人≒⑬約 6 万 2500 人となり，］政府は強制移送によって，ユダヤ人問題やその食料などの社会問題を首尾よく「解決」に成功したことが分かる(211)。

これまで述べてきた「貧困化から強制移送へ」という路線は，1946 年のニュルンベル

(210) ユダヤ人センター（Ústredňa Židov: ÚŽ）は 1940 年 9 月に国が創設した組織で，すべてのユダヤ人がここに登録することになった。資格再取得支援（1941 年だけで約 1 万人のユダヤ人青年がこのコースを受講した。）と貧困ユダヤ人への給食のための公共炊事場を提供し支援しようとした。例えば，NIŽŇANSKÝ, Eduard - BAKA, Igor - KAMENEC, Ivan (eds.), *Holokaust na Slovensku 5. Židovská pracovné tábory a stredíská na Slovensku 1938 - 1944. Dokumenty*［スロバキアにおけるホロコースト　第 5 巻　スロバキアのユダヤ人労働収容所と労働センター（1938 年～1944 年）および資料］, Zvolen 2004, S. 102–108, 116–117; Siehe bspw. SNA, Fond ÚHÚ［中央経済局関係］, Kart. 145 (Správy ÚŽ z roku 1941 Ústrednému hospodárskemu úradu［ユダヤ人センター（ÚŽ）発中央経済局（ÚHÚ）宛報告書（1941 年以降）］).

［訳注 7］　本文を理解するために，以下，数字には番号と下線部を付した。

(211) NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアにおけるホロコースト　第 2 巻］, S. 181–182.

ク裁判におけるドイツ人顧問官ディーター・ヴィスリチェニー[212]の次のような証言からも，確認される。

> ……ユダヤ人から店舗や資産を取り上げてしまえば，彼らには出口を見いだしてやらなければならないことは必定だからである。この出口とは大規模な再定住のことかもしれない[213]。

今日，この問題について分かっていることは，例えば少なくともヴォイテフ・トゥカのように，政府首脳の中には1940年にはすでにユダヤ人の貧困化問題［の強制移送による解決］を認識していた者もいたということである。1941年にはユダヤ人の強制労働が何度か話題に上がっている[214]。イヴァン・カメネツはその著書『悲劇の軌跡』（1991年）の中で，興味深い1941年文書を引用している。そこには，ヴィスリチェニーとエーリヒ・ゲーベルト（Erich Gebert）（中央経済局付顧問官）の二人と折衝した中央経済局長モラーヴェクがトゥカに対して次のように報告したと書かれている。

> 少なくとも一定数のユダヤ人を［ポーランド］総督府とかドイツに（何らかの労働のために）収容すれば，今日の微妙な状況は緩和されるであろう[215]。

ここではスロバキアによる自前の反ユダヤ主義が十分に表出していることを強調しておかなければならない。このことからも反ユダヤ政策の結果に対する政治責任は（大統領のティソを含む）行政機関と立法機関にあると言うことができる。ところが1941年の秋になると，スロバキアの反ユダヤ主義政策は，ナチス・ドイツのホロコーストと交わることになった。この二つが交差した結果が，スロバキアからのユダヤ人の強制移送であった。（自分でビジネスを管理したくない（できない）「アーリア化の担い手」の「手伝い」の職にありつけた一部は例外として）貧困にあえぐユダヤ人は，マジョリティから見れば社会的には興味のない存在だった。ユダヤ人のために身を挺する人はいなかった。私見ではあるが，スロバキア・ユダヤ人の強制移送は，スロバキア政府の反ユダヤ政策による論理的帰結であった。

⑤スロバキアからのユダヤ人の強制移送

1941年7月，スロバキアの視察団[216]は，ディーター・ヴィスチェニーとアルベルト・シュマゴン（Albert Smagon）（中央労働局付顧問官）を伴って，アッパー・シレジアのソスノヴィエツ（Sosnowiec）にある労働収容所を訪問し，ユダヤ人の生きるための環境，

（212）Näher dazu HRADSKÁ, Katarína, *Prípad Wisliceny. Nacistickí poradcovia a židovská otázka na Slovensku*［ヴィスリチェニー裁判―ナチス顧問団とスロバキアのユダヤ人問題―］, Bratislava 1999.顧問官については以下を参照。SUŠKO, Ladislav, Systém poradcov v nacistickom ovládaní Slovenska v rokoch 1939–1941［1939年～1941年のナチスによるスロバキア支配における顧問官制度］, in: *Historicke étudie*［歴史研究］, Bd. XXIII, 1979, S. 5–23; TÖNSMEYER, Tatjana, *Das Dritte Reich und die Slowakei 1939-1945*, Paderborn 2003.

（213）SNA, Fond Národný súd［国民法廷関係］, Dr. A. Vašek, Tnľud 17/46–43.

（214）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 82.

（215）KAMENEC, Ivan, *Po stopách tragédie*［悲劇の軌跡］, S. 155.

（216）視察団のメンバーは以下のとおり。中央経済局長アウグスティン・モラーヴェク，内務省事務局長イジドール・コソ（Izidor Koso），内務省第14局長ゲイザ・コンカ，内務省職員ユーリウス・ペチュフ（Július Pečúch），イラヴァ強制収容所長Š. クルフニャーク（Š. Krchňák）。

ではなくて死の収容所について心象を得ることができた[217]。

スロバキア・ユダヤ人強制移送の大波は，早くも 1941 年に押し寄せてきた。強制移送に関して言うと，これまでに刊行された研究文献の中には，その年の 10 月のティソによる総統本部への訪問を重視しているものがあり，トゥカによる［強制移送の］合意（1941 年 12 月 2 日）は，総統を訪問した結果と解釈されている[218]。この合意に基づいてスロバキア政府は，ドイツ帝国の領土内に居住するドイツ・ユダヤ人と一緒にスロバキア・ユダヤ人を再定住させることにしたと言われている[219]。しかし，この解釈は簡略化に過ぎるのではないか。10 月のトゥカ，マッハ，ティソによるヒトラー訪問とは関係なく，1941 年 11 月にドイツは，衛星国（スロバキアだけでなく，ルーマニアとクロアチアを含む。）に意見を求め，（それぞれの自国籍の）ユダヤ人をナチス・ドイツの領土から強制収容所に連行するべきかどうかを照会した[220]。三ヶ国とも連行に同意したが[221]，スロバキアが関心を抱いていたのはもっぱらユダヤ人財産だけであり，自国民であるユダヤ人の財産を声高に要求した[222]。

すでに述べたように，1941 年 12 月 2 日，スロバキアの首相トゥカは，ドイツ・ユダヤ人と共にドイツ帝国（ボヘミア・モラビア保護領と「オストマルク」（旧オーストリア）を含む。）に居住するスロバキア・ユダヤ人を東方へ追放することを了とする旨を伝えた[223]。したがって，スロバキア国内に居住するユダヤ人のことも話題にしたかったドイツ側の意向は理解可能である。ドイツ帝国は，スロバキアからの強制移送の準備に問題があるとは考えていなかった。その証拠に，1941 年 1 月のヴァンゼー会議の議事録には次のようにある。

> スロバキアとクロアチアでは，この問題はもはや困難なことではない。この点に関する最も本質的な核心部分はすでに解決されているからである[224]。

（217）Siehe Dokument 92.

（218）Siehe Dokumente 115, 116.

（219）SNA, Fond MZV, Karton 594, ohne Nummer; siehe Karton 183, 80.254/42.

（220）Siehe Dokumente 111, 114.

（221）1941 年 11 月 13 日付マンフレト・フォン・キリンガー（Manfred von Killinger）（ブカレスト）発ベルリン宛の電報は以下のとおり。

> アントネスク氏は私に，ルーマニア政府としては，ルーマニア・ユダヤ人をドイツ・ユダヤ人とともに東方のゲットーに強制移送することを帝国政府に委任すると説明した。ルーマニア政府は，ルーマニア・ユダヤ人をルーマニアに帰還させようとは考えていない。（Yad Vashem Archiv, Jerusalem（以下，YVA と略記），Fond R 1 „Auswärtiges Amt“［「外事局」R1 関係］, inland II g 52/5 (Microfilm JM 2215).）

1941 年 11 月 20 日付ジークフリート・カシェ（Siegfried Kasche）（アグラム＝ザグレブ（Agram-Zagreb）駐在）発ベルリン宛電報は以下のとおり。

> クロアチア政府は，ドイツに居住するクロアチア・ユダヤ人に関する高配に感謝する。当該ユダヤ人にたいするドイツから東方への追放にも感謝の意を表す。（YVA, fond R 1 „Auswärtiges Amt“, inland II g 52/5 (Microfilm JM 2215). Siehe Dokument 116 - Telegramm Ludin am 4. 12. 1941 nach Berlin.)

（222）Siehe Dokument 115.

（223）Siehe Dokumente 115, 116.

（224）Roseman, Mark, *Die Wannsee-Konferenz. Wie die NS-Bürokratie den Holocaust organisierte*, München-Berlin 2002, S. 178 には次のように書かれている。

> スロバキアおよびクロアチアにおいては，当該案件はもはや困難なものではない。両国においては，この件に関する重要な核心的問題はすでに解決されているからである。［ヴァンゼー会議記念館編，山根徹也，清水雅大訳『ホロコーストの歴史 ── ヴァンゼー会議とナチス・ドイツのユダヤ人絶滅政策 ──』春風社，2015 年，155 頁。］

スロバキアからの強制移送が，1942年1月と2月に実際にどのように準備されたかをここで再現することは，ほとんど不可能である。そのことに関する史料が皆無に近いからである。この状況を知るには，主として戦後に聴取された証言を使うことになるが，それらはしばしば矛盾していたり，あまり信用できなかったりする。スロバキア側の政治家はドイツ側に責任を押しつけようとしたが，ドイツ側の例えばハンス・エラルト・ルディン（Hanns Elard Ludin）［ブラチスラバ駐在ドイツ公使］やディーター・ヴィスリチェニー［ユダヤ人問題専門顧問官］はそうではないと主張している。強制移送を仕掛けたのは誰かという問題は等閑視することができない。スロバキア側がユダヤ人の強制移送を提案したのか，それともスロバキア側はドイツ側の提案に積極的に応じただけなのか。その答えは，後に2万人のユダヤ人青年男女が「労働要員」として，あるいは家族ぐるみで強制移送されたときのことを検討すれば，判明するであろう。

ドイツ側の文献によれば，1942年8月にドイツ外務省次官マルティン・ルター[225]は，ドイツ帝国からユダヤ人（スロバキアその他の国籍のユダヤ人）を［東方へ］強制移送したために，労働力が逼迫したと述べている。このためにドイツ側はスロバキア政府に対して，ユダヤ人労働者2万人の引き渡しを依頼した。これに対してスロバキア側の反応は好意的であり，ドイツ側は2万人全員のユダヤ人を引き取る用意があることを表明した[226]。

その間の事情は，1942年2月16日に外務省次官マルティン・ルターがブラチスラバ駐在ドイツ公使ハンス・エラルト・ルディン[227]に送った次の電報から明らかになる。

> ヨーロッパにおけるユダヤ人問題の最終解決のために諸措置を執る過程で，ドイツ政府は壮健なスロバキア・ユダヤ人青年2万人を直ちに受け入れ，労働力を必要とする東方に移送する用意を整えた。その旨，現地政府に伝えられたい。スロバキア政府が原則的に同意次第，ユダヤ人問題担当顧問官（ディーター・ヴィスリチェニー ── 引用者）がその詳細を口頭で伝える[228]。

ルディンの回答は以下のとおり（1942年2月20日）。

（225）マルティン・ルター（Martin Luther）（1895年～1945年），ドイツ外務省事務次官，同省ドイツ部長。

（226）以下，Dokument 197を参照。

> ……このようにして東方（これはドイツ帝国を指すと理解される ── 引用者）から移送されたユダヤ人だけでは，東方における労働力需要を穴埋めするには足りない。
>
> このために，帝国保安本部（Reichssicherheitshauptamt: RSHA）は，親衛隊全国指導者［ヒムラー］の指示により外務省を通じて，スロバキア政府に対して2万人の屈強なスロバキア・ユダヤ人青年の東方への強制移送を準備するよう要請して，プレスブルク［ブラチスラバ］駐在ドイツ公使館に宛てて，D Ⅲ 874号文書に対応する指示書を送った。その指示書には国務長官兼政治第4部長［ゲシュタポ］のマルティン・ルターの署名がある。プレスブルク駐在ドイツ公使館はD Ⅲ 1002号文書で，スロバキア政府がこの提案を前向きに受けとめ，予備作業に着手できたと報告した。この喜ばしい承認を受けたスロバキア政府は，親衛隊全国指導者［ヒムラー］に対して残余のスロバキア・ユダヤ人も東方へ追放し，スロバキアからユダヤ人をいなくすることを提案した。公使館にはD Ⅲ 1559号付属文書をもってそれに対応する指示が出された。その指示の草稿は国務長官によって署名され，その発出後，国務長官がその旨，外務大臣とマルティン・ルターに報告するものとした。

（227）ハンス・エラルト・ルディン（Hanns Elard Ludin）（1905年～1947年），1941年1月～1945年3月，スロバキア駐在ドイツ公使。

（228）Siehe Dokument 122.

スロバキア政府は提案を誠心誠意飲み込んでいる。準備の着手が可能となった[229]。

その結果，スロバキアからのユダヤ人強制移送の問題は，1942 年 3 月 3 日のスロバキア政府の会議で議論されたが，この問題の処理は首相ヴォイテフ・トゥカと内務大臣アレクサンデル・マッハが無理押しした。その件はトゥカが 1942 年 3 月 6 日に国務院に報告した。政府が圧力をかけて迅速な行動をとったのは，移送列車の手配が完了していたためであった。ユダヤ人を乗せた最初の強制移送列車は，1942 年 3 月 25 日にポプラド［コシチェの北西約 105キロメートル］を出発し，1942 年 3 月 26 日にスロバキアの国境を越えた[230]。

スロバキア政府は，自国の行政機関と警察組織（基幹部隊はフリンカ警護団と義勇親衛隊[231]）を投入したり，独自の判断によったりしてスロバキア・ユダヤ人をジリナ，ポプラド，セレッジ，ノヴァーキー，ブラチスラバ＝パルトーンカの通過収容所に強制収容し，さらにスロバキア国境までの移送列車を手配した[232]。

スロバキア内務省は，地方出先機関と協力してユダヤ人名簿を作成し，これに基づいて強制移送を実行した。ユダヤ人センターもユダヤ人名簿を作成する義務を負っていたが，内務省がユダヤ人センター作成の名簿を使用して移送することはなかった。強制移送に関してドイツが初めて圧力を加えたのは，1942 年 6 月と記録されている[233]。

これに関する重要な文書は，「強制移送法案」に対してマッハが署名した提案趣意書であり，それによればこうある。

……スロバキア共和国は……ユダヤ人を排除できるかもしれない。政府としてはこの機会を逃したくないので，ユダヤ人を追放するための法的根拠を策定しようと努めている。……[234]

（229）Siehe Dokument 123.

（230）Näher dazu NIŽŇANSKÝ, Eduard (Hg.), *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie v roku 1942*［スロバキアのホロコースト　第 6 巻　1942 年の強制移送と関連文書］, Bratislava 2005.

（231）義勇親衛隊（Freiwillige Schutzstaffel: FS）はスロバキアのドイツ党　（Deutsche Partei: DP）の準軍事組織。ドイツ党はフランツ・カルマシンを党首とするスロバキアのカルパチア地方のドイツ人［フォルクスドイチェ］によるファシスト政党。

（232）強制移送については以下を参照。HLAVINKA, Ján, Organizácia deportácií Židov zo Slovenska v roku 1942［1942 年におけるスロバキアからのユダヤ人強制移送の組織化］, in: *Vojenská kronika*［軍事年譜］, Vol. 1, No. 1, 2012, S. 3–13; NIŽŇANSKÝ, Eduard, *Holokaust na Slovensku 6. Deportácie v roku 1942. Dokumenty*［スロバキアのホロコースト　第 6 巻　1942 年の強制移送と関連文書］, Bratislava 2005; KAMENEC, Ivan, Deportácie židovských občanov zo Slovenska roku 1942［1942 年におけるスロバキアからのユダヤ人の強制移送］, in: *Tragédia slovenských Židov*［スロバキア・ユダヤ人の悲劇］, Banská Bystrica 1992, S. 77–101; NIŽŇANSKÝ, Eduard, Expropriation and Deportation of Jews in Slovakia, in: *Facing the Nazi Genocide: Non-Jews and Jews in: Europe*, Berlin 2004, S. 205–230; DERS. - KAMENEC, Ivan, Poplatky za deportovaných slovenských Židov［強制移送されたスロバキア・ユダヤ人の経費］, in: *Historický časopis*［歴史学雑誌］, Vol. 51, No. 2, 2003, S. 311–342.

（233）ドイツ側の圧力が明らかになるのは，1942 年 6 月末，50 本の強制移送列車が出た後である。1942 年 6 月 26 日付のルディン発外務省宛の報告は次のとおりである。

スロバキア・ユダヤ人の再定住事業は，現時点で行き詰まっている。教会の影響と腐敗した役人のせいで，ユダヤ人約 3 万 5000 人が再定住の必要なしという特例処遇を受けている。ユダヤ人の再定住は，スロバキア国民にはとても評判が悪い。この傾向は，数日来激しさを増しているイギリスの対抗プロパガンダによって助長されている。しかし，首相のトゥカはユダヤ人再定住の継続を希望し，我が国からの強力な外交圧力による支援を要請している。（Dokumente 177, 178, 179 を参照。）

この言い方の根底にあるのは，「我々にはチャンスがある。すばやくそのチャンスをものにしてはならないという理由はどこにあるのか。」という座右銘を翻案し，急進派が口を酸っぱくして述べていたシニカルな考え方である。このとき，卑劣にも憲法とそれを親規程とする法律を持ち出したのである。そうすることによって，例えばユダヤ人の市民権剥奪が合法的な手続きで行われていることを国民に示すことができた。1942年3月の「強制移送法」の草案は，議会で審議されることはなかった。しかし，そうだからと言って，強制移送が止められたわけではなかった。

強制移送の第一波は，1941年政令第198号第22条に従って実行された。同条は，ユダヤ人の強制労働を定めている。この法案は3月の議会で審議されることはなかったが，かと言って強制移送が止められることはなく，ユダヤ人の再定住に関する規定を盛り込んだ憲法が議会で審議された1942年5月15日までには，28本の強制移送列車が（約2万8000人のユダヤ人を乗せて）スロバキアを後にした。

これと併行してスロバキア政府とドイツ政府の間では，強制移送されるユダヤ人に関する支払交渉が行われていた。ドイツ語による口上書は以下のとおり。

> ……スロバキア領からドイツ帝国領に移送されたユダヤ人および移送待機中のユダヤ人は，労働の準備と再訓練を受けた後，労働のためにポーランド総督府および占領された東方地域に移送される。ユダヤ人（その親族を含む）の宿泊，食糧，被服，再訓練のためには経費が発生する。その経費は，初めは労働能力が低いユダヤ人では稼ぐことができない。再訓練による効果が目に見えるようになるのは，一定期間を経過した後である。移送されたユダヤ人で労働能力のある者はごく一部に過ぎないからである。……この一回の費用は，これまでの経験上，一人当たり500ライヒスマルクと算定される。スロバキア政府は，ドイツ帝国が連行したユダヤ人一人につき500ライヒスマルクをドイツ帝国政府に振込によって支払うものとする。……ブラチスラバ，1942年4月29日[235]。

スロバキア側は，強制移送されたユダヤ人一人につき500ライヒスマルクを支払い，強制移送されるユダヤ人の財産の引渡しを約束した。以下はスロバキア語の口上書。

> 4月29日付口上書第2565号，および5月1日付口上書第2578号[236]により，［スロバキア］外務省は，スロバキア政府がスロバキア領土からドイツ帝国領土に追放されるユダヤ人（追放予定を含む）でスロバキア国籍を有する者一人につき500ライヒスマルクをドイツ帝国政府に支払う予定であることを通知する[237]。

国会議員の証言によると，ユダヤ人強制移送に関する法案の審議入りは「より小さな悪（das kleinere Übel）」のためと認識されていた。1942年法律第68号（1942年憲法（「強制移送法」））は，国会議員の対外的な面目を保つためのものでしかなかった。最初の強制移送

（234）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第2巻］, S. 151- 152.

（235）Siehe Dokumente 150.

（236）Siehe Dokumente 151.

（237）Siehe Dokument 175. Mehr dazu NIŽŇANSKÝ, Eduard, Payment for the Deportations of Jews from Slovakia in 1942, in: *Discourses - diskurse.* S. 317-331.

が実行され，その後ドイツ側と交渉してみると，強制移送はもはや止められないことがすべての関係者に明らかになった。1942 年法律第 68 号（1942 年憲法）[238] は，一方ではユダヤ人からスロバキア市民権を剥奪し，他方では，社会的に必要とされる一部の就業者を国の手で国内に留めるための口実として活用された。憲法制定会議とそれに続いて開かれた国会の本会議で，1939 年 3 月 14 日以前にキリスト教に改宗したユダヤ人，および非ユダヤ人と法定婚をした者を移送の例外として認めるという条文が憲法に追加された［憲法第 2 条第 1 項 a 号および b 号，脚注 238 参照］。同様に共和国大統領[239] もしくは省庁から移送免除証明書の交付を受けたユダヤ人は「移送」不可とされ，その者の配偶者，子ども，両親も同様とされた[240]［憲法第 2 条第 2 項第 3 項，脚注 238 参照］。

移送免除の規定があったにもかかわらず，この憲法が採択されてからも強制移送は続けられた。1942 年 10 月 20 日までにさらに 29

（238）スロバキア法令集 1942 年版所収，1942 年法律第 68 号（憲法，1942 年 5 月 15 日制定），「ユダヤ人の再定住に関する条文」。(Slowakisches Gesetzbuch, Jahrgang 1942, Verfassungsgesetz Nr. 68/1942 Slow. Gesetzbuch. Verfassungsgesetz 68/1942 Sl. Gesb. vom 15. 5. 1942 über die Aussiedlung der Juden.)

第 1 条　ユダヤ人は，スロバキア共和国の領土から再定住させることができる。

第 2 条

（1）前条の規定は以下の者には適用しない。

a）1939 年 3 月 14 日現在キリスト教徒である者

b）1941 年 9 月 10 日以前に締結された非ユダヤ人（男性／女性）との婚姻が有効である者。

（2）共和国大統領が 1941 年政令第 198 号第 255 条に基づいて免除した者または免除しようとしている者，および所管省庁がスロバキアの公務または技術的経済的生活における留め置くことを必要と認めた医師，薬剤師，獣医師，技術者等は，移送の免除または国内への留置に関する決定が有効である限り，再定住されないものとする。

（3）本条第 1 項と第 2 項に基づく再定住の適用除外は，配偶者，未成年の子，および本条第 1 項第 a 号によって適用除外となった者の両親も同様とする。

第 3 条

（1）再定住したユダヤ人および出国中か出国しようとするユダヤ人は，スロバキア共和国の国籍を喪失する。

（2）前項に掲げる者の資産は，国家に接収されるものとする。……

第 5 条

（1）第 1 条および第 3 条の定めを適用するとき，この憲法は法的命令を必要とするが，特に再定住したユダヤ人およびスロバキア共和国の領土を離れたユダヤ人財産を清算する場合には，政府は必要な命令を政令として公布するものとする。

（2）前項に基づいて公布された政令は，法としての効力を有する。その政令は，議長および政府の全構成員が署名し，『スロバキア法令集』で告示するものとする。

（以上，条文（部分）の引用終わり。）

この憲法のために公布された 1942 年政令第 118 号第 1 条には，「ある者が 1942 年法律第 68 号［憲法］第 2 条第 1 項第 a 号を遵守しているかどうかを判断するためには，遅くとも 1939 年 3 月 14 日にはキリスト教徒になっているか，もしくはその日以前に実際に洗礼を受けていたかどうかによる。」とあり，「1942 年法律第 68 号第 2 条第 2 項に定める『省庁』」とは，同法が発効する日に国等に関する公務に従事していたユダヤ人を雇用していた省庁のことである。雇用関係から言えば，ここに言う省庁とは「公務，技術または経済の行政分野に関わり，ユダヤ人が留め置かれた省庁のことである。」と定められている。

（239）ヨゼフ・ティソは，約 1000 世帯のユダヤ人家族を「移送免除」とした。この免除により約 5000 人のユダヤ人が保護されたが，その保護が有効であったのは 1944 年までである。

（240）Nižňanský, Eduard, Deportácie Židov zo Slovenska v roku 1942 a prijatie ústavného zákona č. 68/1942 o „vysťahovaní Židov“［スロバキアからのユダヤ人の強制移送（1942 年）と「ユダヤ人の再定住」に関する憲法（1942 年法律第 68 号）の採択］, in: *Studia historica Nitriensia*［ニトリエンシア歴史研究］, Bd. X, Nitra 2002, S. 85–156.

本の移送列車がスロバキアの領土を離れた。1942年3月から10月にかけて，57本の移送列車で合計5万7628人のユダヤ人がアウシュヴィッツとルブリンに強制移送されている[241]。

ユダヤ人を救おうとしたユダヤ人コミュニティ（「作業部会（Pracovná Skupina: PS）」［ユダヤ人センター（Ústredňa Židov: ÚŽ）内の非合法組織］）の努力は水疱に帰した。ギジ・フライシュマン（Gisi Fleischmann）をリーダーとする「作業部会」は，一人でも多くのユダヤ人を救うために手を尽くした。しかし，ディーター・ヴィスリチェニー（ユダヤ人問題を解決するためにドイツが派遣した顧問官）に賄賂を渡しても，その流れを変えることはできなかった[242]。強制移送は，「困窮した」ユダヤ人が全員「追放されて」ようやく終了した。跡形もなくなったコミュニティに関する社会分析によれば，経済のためにその職業が不可欠であるユダヤ人はスロバキアに残るか，ノヴァーキー，セレッジ，ヴィーネのユダヤ人労働収容所に収容されて国益に資する労働に従事した。

強制移送があったころにスロバキアからハンガリーに逃亡したユダヤ人は6000人～8000人であり，「アーリア人証明書」を持ってスロバキアに残留したユダヤ人は約2000人であった。

強制移送されたユダヤ人の財産についてスロバキア政府は領土主義を受容し，そのために（帝国領から強制移送された）スロバキア国籍を持つユダヤ人の財産が国家社会主義国のドイツに残されたことに留意しなければならない。スロバキアの領土から追放されたドイツ・ユダヤ人の財産はスロバキア共和国の手に渡った。この解決策は，1942年9月にプレスブルク［ブラチスラバ］で開催された第5回ドイツ・スロバキア政府委員会合同会議で次のように合意された。

»第5回ドイツ・スロバキア政府委員会合同会議議事録（1942年9月10日～30日，於ブラチスラバ）«

……第31項 ユダヤ人の再定住。プレスブルク［ブラチスラバ］駐在ドイツ公使館とスロバキア外務省とは口上書（1942年4月29日付ドイツ大使館口上書第2565号，1942年5月1日付口上書第2578号，1942年6月23日付スロバキア外務省口上書（1942年3月2日，第61295号））を交換し，ドイツ帝国領土内に連行されたか，連行が予定されるスロバキア・ユダヤ人一人につき500ライヒスマルクをスロバキア政府がドイツ政府に支払うことで合意を見た。上記口上書の交換にあたり，ドイツ政府は，ドイツ帝国領に連行されたユダヤ人がスロバキアに残した財産に対するさらなる請求権を放棄した。1942年6月23日付のスロバキア外務省の口上書で想定された支払問題を解決するために，ブラチスラバ駐在ドイツ公使館は直ちにスロバキアのしかるべき部局に連絡して，すでに帝国の領土に連行したユダヤ人の人数，ならびにスロバキア政府の支払額を決定するものとする。スロバキア財務大臣は，かく決定された金額（この金額も同様にブラチスラバ駐在ドイツ公使館とスロバキアのしかるべき部局との協議で決定されるものとする。）を支払期日までに親衛隊全国指導者［ヒムラー］に送金するも

（241）SNA, Fond 209 (ÚŠB)［209（スロバキア国家保安本部）関係］, kartón 864-1. Verzeichnis der Transporte［強制移送リスト］.

（242）ヴィスリチェニーは賄賂を受け取った。1942年の8月と9月には強制移送が確かに中断された。しかし，それはヴィスリチェニーの功績ではなかった。強制移送に必要な1000人のユダヤ人を集めることができなかったからである。ヴィスリチェニーは引き続き，強制移送の準備に着手した。Siehe Dokument 193.

のとする。……(243)

国家の首脳部が，新聞やラジオを使って反ユダヤ・プロパガンダの歯車を回し，それによって国民の態度が反ユダヤになるならば，首脳部に対しては間接責任を問うことができる。その一例としては，スロバキアからユダヤ人を強制移送した 1942 年 8 月にホリーチ［ブルーノ（現チェコ）の南東約 65キロメートル］におけるティソの演説がある。当時，スロバキア領から 54 本のユダヤ人移送列車がすでに出国していたが，感謝祭のときにティソは次のように述べている。

> 最近話題になっているユダヤ人問題についてもお話したいと思います。ユダヤ人に行われた事柄はキリスト教の教義に適うものなのでしょうか，人間的なことなのでしょうか，あれは集団による強奪ではないのでしょうか。このような質問に対して，あえて私は逆に，スロバキアの人々が永遠に不倶戴天の敵であるユダヤ人を排除することは，キリスト教の教義に適うことでしょうかと問い返したいと思います。キリスト教徒のすることなのでしょうか。自己愛は神の御教(みおし)えであり，自己愛は私に害をなすもの，私の生活を脅かすもの一切を取り除くようにと命じています。……立ち上がるのに時を逸したならば，そして私たちがユダヤ人の穢れから身を清めることができなかったならば，事態はさらに酷くなってしまうことでしょう。私たちは，「スロバキアの民よ，汝に纏(まつ)わりつく害虫を追い払いなさい。」という神の命令に従って行動したまでです(244)。

このティソの演説のどこにも，「汝を愛するように隣人を愛せ。」[訳注8] というキリスト教の教義は見られない。それとも，ティソがあのような見解を開陳できたのは，ユダヤ人の中に民族的・宗教的「他者性（Andersartigkeit）」を見たからであろうか。ホリーチで演壇に上がった大統領は，政治的な役割を果たす者として演説したのであろうか，それとも司祭として演説したであろうか。大統領としてか，あるいは司祭としてかはともかくとして，みずからの権威を利用して，まさに進行中の強制移送の非人間性をことさら軽んじようとしたのであろうか。この演説の後の 9 月にはさらに 2 本の移送列車がスロバキアを出発し，10 月 20 日には，1942 年最後の移送列車が出発した。ティソの演説は，強制移送に疚(やま)しさを覚えるスロバキアの人々の良心を慰めたことであろう。こうなると，かつて人数制限(ヌメルス・クラウスス)原理に基づいてユダヤ人を排除しようとした「穏健派」のティソと急進派（政府を代表して強制移送を実行したトゥカやマッハなど）との間には違いがあったと言えるのだろうか。

ティソのこの演説には，ホロコーストに関するハーバート・C. ケルマン（Herbert C. Kelman）(245) による次の図式

（243）Siehe Dokument 215.

（244）ティソは演説で「私たちのものは，誰にも渡さない。」と何回も言っている（例えば 1942 年 8 月 18 日付『スロバキアの人々（*Slovák*）』（第 4 面）参照）。

［訳注 8］　この文言は『聖書』に複数回出てくる。例えば，「レビ記」第 19 章第 18 節（『旧約聖書』），「マタイによる福音書」第 19 章第 19 節（『新約聖書』），「マルコによる福音書」第 12 章第 31 節など（同）。

（245）Näher dazu KELMAN, Herbert C., Violence Without Moral Restraint Reflections of the Dehumanisation of Victims and Victimizers, in: *Journal of Social Issues*, 1973, S. 25–61; KLAMKOVÁ, Hana, Protižidovská propaganda: dehumanizácia Židov na stránkach Gardistu (1939–1942)［反ユダヤ・プロパガンダ ──『警護団員（*Gardista*）』紙（1939 年～1942 年）に見るユダヤ人の非人間化 ──］, in: SOKOLOVIČ, Peter (Hg.), *Perzekúcie na Slovensku v rokoch 1938-1945. Slovenská republika 1939-1945 očami mladých histor-*

権威付け［お墨付きの付与］
↓
日常化
↓
非人間化

の各段階を当てはめることができる。個人としても公人としても権威あるティソが（強制移送を含む）反ユダヤ主義政策を承認したという事実は，多くのスロバキア人にとって十分な »権威付け« になった。ユダヤ人への迫害は，大統領兼司祭でさえ「神聖視」していたため，悪行（あくぎょう）と見なされることはなかった。反ユダヤ政策は1939年から行われ，［強制移送が実行された］1942年にはほぼ »日常化« していた。言うまでもなく，スロバキアの反ユダヤ政策は，ユダヤ人の就業禁止，ユダヤ人企業のアーリア化・清算などとなって現れ，その結果，ユダヤ人は社会の中で孤立し貧困化した。1939年から1941年にかけてユダヤ人コミュニティは広汎に亘る社会的・経済的変化を被（こうむ）り，ユダヤ人はスロバキア社会から疎外され，非人間化されてしまったが，それはもはや驚くべきことではないだろう。ユダヤ人は人間と見なされていたのだろうか。あるいはスロバキア人とは別世界に住む排除すべき仇敵と見なされていたのであろうか。上に引用したティソのホリーチ演説は，明らかにユダヤ人の »非人間化« に合致していた。［このパラグラフの強調（» «）は訳者による。］

しかし，1942年8月のこの演説とても，それ以前に壇上から述べたティソの見解とは大きく異なるところがない。1940年9月にティソはヴィシュニョーヴェ（Višňové）［ブルーノ（チェコ）の南西約55キロメートル］で次のように述べている。

> 例えば，ユダヤ人への措置はキリスト教的ではないと懸念する向きがあります。しかし，私は「秩序を守る限り，私たちの振る舞いは完全にキリスト教の教義に適っています。」(246) と言いたい。私有財産制を犯していると非難されることもあります。私たちはユダヤ人からラジオや店舗を取り上げ，生計手段（たつき）までも奪っている，それはキリスト教の教えとは相容れないとも言われています。しかし，それはキリストの教えのとおりだと私は言いたい。……私たちは，ユダヤ人が私たちから奪ったものを奪い返しているだけなのです。……あるいはこう言う人もいるでしょう。まぁ，それはともかくとして，ユダヤ人を学校に入れてはいけない，ユダヤ人に教育の機会を与えてはならない，と。私も，自国民を守ろうとすれば，ユダヤ人にはこれ以上モノを持たせないように阻止しなければならない，と言いたい。村人（スロバキア人）が飲み屋の主人（ユダヤ人）の所に行き，その主人が一筆書いて手形に署名させ，それを持ってユダヤ人の銀行家へ，この銀行家が弁護士に，その弁護士は裁判所に持参し，その結果，暴力沙汰にならず，盗みを働かした訳でもなく，一滴の血も流さずに見事なまでにスロバキア人の財産が差し押さえられます。もう，このようなことは願い下げです。私がスロバキア人を守ろうとするならば，このユダヤ人コネクションをズタズタにしなければなり

ikov VII［1938年～1945年のスロバキアにおける迫害 ── 若き歴史研究学徒が見たスロバキア共和国（1939年～1945年）VII ──］, Bratislava 2008, S. 351–360; KUBÁTOVÁ, Hana, *Nepokradneć! Nálady a postoje slovenskej spoločnosti k tzv. Židovskej otázke 1938-1945*. Dizertačná práca［盗んではいけない！「ユダヤ人問題」に対するスロバキア社会の感情と態度（1938年～1945年）（博士論文）］, Praha 2010, S. 181–183.

（246）この文章は，スロバキア語の原文でも明確さに欠ける。

ません。多種多様な学問的知識を備えたユダヤ人が，将来またスロバキア人に立ち向かうことができないようにしなければなりません[247]。

ティソの演説からは，当時政府が進めていた反ユダヤ政策（具体的には，ユダヤ人企業，事業，経営のアーリア化と清算）にティソが共鳴していたことが分かるだけではない。反ユダヤ的な法制・政策に対する否定的な発言を明らかに意識していたのである。ティソが登場したことによって，スロバキアのマジョリティは悪いことは何も起こっていないのだと安心するようになった。ティソは，大統領の権威によってスロバキアで起こっている事態の実相を隠蔽した。しかし，キリスト教の教えを口にしたとき，ティソは政治家として発言したのであろうか，あるいは司祭として発言したのであろうか。彼が登壇すると，聴衆は「すべてが順調だが，気がかりはユダヤ人だけだ。」という気になった。スロバキア人を守るためには，国家がユダヤ人に教育を受けさせないということさえも，ティソにとっては正常なことなのであろう。その演説には，経済レベルの反ユダヤ主義がはっきりと表れている。

一連のティソの発言は，数年後にはフリンカ・スロバキア人民党の急進派と保守・穏健派の両派の立場とか心構えが一点に収斂（しゅうれん）したことを示している。

ほぼ同時期にスロバキアに駐在していたドイツの外交官による強制移送に関する叙述もまた，ここでは興味深い。1942 年 4 月 6 日，ブラチスラバ駐在ドイツ公使ハンス・エラルト・ルディンは，次のような電報をベルリンに送った。

スロバキア政府は，ドイツが圧力をかけなくてもスロバキアからすべてのユダヤ人を追放することについて同意すると明言した。スロバキア司教区が介入したにもかかわらず，スロバキア共和国大統領自身も強制移送に同意している。移送は，スロバキアのユダヤ法がユダヤ人と定義するすべての者に適用される。共和国大統領が小職に宛てた親書によると，ユダヤ法に定めるユダヤ人以外の者（1938 年以前に洗礼を受けた人種的ユダヤ人（Rassejuden）。その人数は 2000 人と推定されている。）は，国内の収容所に収容されるとのことである。この間，ユダヤ人の移送は，これと言ったトラブルもなく順調に進捗している。その他については，この電報に添付した報告書を参照されたい[248]。

1942 年 5 月にロルフ・ギュンター[249]（国家保安本部（Reichssicheheitshauptamt: RSHA））がフランツ・ラーデマッハー（Franz Rademacher）[250]（外務省）に送った報告書には，次のようにある。

……スロバキア政府が貨車（移送列車――引用者）を提供してくれたことによって，移送は技術面で大いに進展した。運輸状況が憂慮すべき現下では，ドイツ帝国鉄道が必要な特別列車を手配することは難しいからである[251]。

（247）*Slovák*［スロバキアの人々］, 25. 9. 1940, S. 4.

（248）Siehe Dokument 138.

（249）ロルフ・ギュンター（Rolf Günther）（1913 年～1945 年）。親衛隊少佐。1941 年，国家保安本部第 IVB4 課長アドルフ・アイヒマンの副官。第 IVB4 課は「移住とユダヤ人関係」担当［ユダヤ人課とも］。

（250）フランツ・ラーデマッハー（Franz Rademacher）（1906 年～1973 年）。ドイツ外交官（ナチス党員）。外務省の「ユダヤ部門」の責任者として，ホロコーストの計画立案と実行に共同責任を負う。

（251）Siehe Dokument 159.

これらの資料は，当初の目的をスロバキア・ユダヤ人の貧困化対策と措定したスロバキア政府の反ユダヤ政策が，ここに来て「ドイツ」のホロコーストと交わったことを証明している。この行き着く先はスロバキア・ユダヤ人の強制移送であり，それは，ドイツの圧力なしに1942年に実現したのである。

バチカン市国国務長官ドメニコ・タルディーニ師（Domenico Tardini）は，1942年3月にジュゼッペ・ブルツィオ師（Giuseppe Burzio）が強制移送の準備についてブラチスラバから送ってきた報告書の余白に次のように書きこんでいる。

> 異議を述べたとしても，愚か者を止められるかどうかは分からない。愚か者は2人いる。手を下すトゥカ［首相］と手を下させる司祭ティソ［大統領］である[252]。

前述したブラチスラバ駐在ローマ教皇代理大使ブルツィオ師は，ユダヤ人強制移送に関して枢機卿国務長官（Kardinalstaatssekretär）ルイジ・マリオーネ師（Luigi Maglione）に宛てた1942年3月31日付の報告書の中で，次のように書いている。

> 国家の中枢にいるティソ博士だけでなく，スピシュ司教[253]［司教ヤーン・ヴォイタシュシャーク］や政府と議会にいる他の多くの聖職者のせいで，教会が深刻な損害を被り始めていることは，先刻明らかになっている[254]。

枢機卿ドメニコ・タルディーニ師は，強制移送が行われていた1942年7月13日に次のようなメモを書いている。

> スロバキアの大統領が聖職者であることは不幸なことである。教皇聖座がヒトラーを止められないことは誰もが理解している。しかし，教皇聖座が聖職者を抑える術（すべ）を知らないことを理解する人はどこにいるだろうか[255]。

（4）第３段階：強制移送の終わりから1944年８月まで（静止期）

大量移送が終わり静止期に入ったときに，スロバキアにはまだ約1万9000人のユダヤ人が住んでいた[256]。そのうち4000人以上が，ユダヤ人労働収容所[257]（ノヴァーキー[258]，

（252）KAMENEC, Ivan - PREČAN, Vilém - ŠKORVÁNEK, Stanislav, *Vatikán a Slovenská republika /1939-1945/. Dokumenty*［バチカンとスロバキア共和国（1939年～1945年），および関連文書］, Bratislava: SAP, 1992, S. 91.

（253）司教ヤーン・ヴォイタシュシャーク（Bischof Ján Vojtaššák）のこと。HLAVINKA, Ján - KAMENEC, Ivan, *The Burden of the Past: Catholic Bishop Ján Vojtaćák and the Regime in Slovakia (1938-1945)*, Bratislava 2014.

（254）KAMENEC, Ivan - PREČAN, Vilém - ŠKORVÁNEK, Stanislav, *Vatikán a Slovenská republika /1939-1945/. Dokumenty*, Bratislava: SAP, 1992, S. 95.［脚注252に同じ］

（255）*Ebenda*, S. 117.

（256）HLAVINKA, Ján - FIAMOVÁ, Martina, Medzi deportáciami a povstaním: postavenie židovského obyvateľstva na Slovensku v rokoch 1943–1944［強制移送と蜂起の狭間で ── 1943年～1944年のスロバキアにおけるユダヤ系住民 ──］, in: *Obraz a odraz osobnosti modernej doby k „70“ historikov Jana Pećka a Stanislava Sikoru*［現代の人格のイメージと反映 ──「70人」の歴史学者ヤン・ペチェクとスタニスラフ・スコラへ ──］, Bratislava: Veda, 2019, S. 269–282.

（257）NIŽŇANSKÝ, Eduard - BAKA, Igor - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 5. Židovské pracovné tábory a strediská na Slovensku 1938-1944. Dokumenty*［スロバキアのホロコースト　第5巻　スロバキアのユダヤ人労働収容所/労働センター（1938年～1944年）とその関連資料］, Bratislava 2004.

（258）BAKA, Igor, *Židovský tábor v Novákoch 1941-1944*［ノヴァーキー・ユダヤ人収容所（1941年～1944年）］, Bratislava 2001.

セレッジ[259]，ヴィーネ[260]，第 6 労働大隊（VI Battalion）[261]）に収容されていた。そこでは，国からの発注だけでなく，民間大企業への納品で多忙を極めていた。例えば，国営プールの改修や建設はすべてユダヤ人収容所が行った。スロバキア政府から見れば，ほとんど無給で労働するこのユダヤ人たちは重宝な存在であった。1944 年 8 月末のスロバキア国民蜂起のとき，ユダヤ人の「囚人」はその全員が収容先のノヴァーキー，セレッジ，ヴィーネの収容所から脱走することができた。

1943 年 2 月 7 日，ルジョムベロク［バンスカ・ビストリッツァの北 53 約キロ，ジリナの東約 64キロ］で内務大臣マッハは次のように演説した。

> 今，国民はすべてが団結し，一つの目標に向かって注力しなければならないと自覚している。それは，ユダヤ・ボルシェヴィズムを打倒するためだ。そうだ，同志諸君，ともにユダヤ・ボリシェヴィズムと闘おう。ボルシェヴィズムとの闘いがあるのみである。闘おう。我が国民の未来をよりよいものとするために。そして，悲願であるスラブ諸国の自由を獲得するために。……ユダヤ教が何を意味するか。我々にはこれまでにも明確であったが，今日ではいっそうはっきりしてきた。ユダヤ人の 80% を駆逐した我々の当面の任務の一つは，［スロバキアに］残っているユダヤ人を始末することであろう。我々は皆，まだ国内に残留している 2 万人のユダヤ人が何を考えているかを了解している。洗礼を受けた者も受けていない者も，またどのような証明書を携行していようとも，ユダヤ人は皆，一つの目標を追求している。しかし，3 月が過ぎて 4 月が来れば，移送列車はまた動き出すことだろう[262]。

しかし 1943 年春，強制移送の準備[263]が進んでいたにもかかわらず[264]，1943 年 8 月に開催された政府会議でマッハは，みずからユダヤ人の強制移送は行わないと報告している[265]。

確かにそれには，北アフリカ戦線における連合軍の勝利とムッソリーニ軍の敗退の後に起こった国際情勢の変化も一役買っていた。また，スロバキアからのユダヤ人に対する強制移送が進行していた 1942 年 4 月に発出された「カトリック信徒に送る」という書簡とは，その性格をまったく異にするが，1943 年 3 月の「カトリック司教教書」も，この状況に対して確実に影響を及ぼしていた。当初，

（259）HLAV INKA, Ján - NIŽŇANSKÝ, Eduard, *Pracovný a koncentračný tábor v Seredi*［セレッジ労働/強制収容所］, Bratislava 2009.

（260）Siehe z. B. auch NIŽŇANSKÝ, Eduard, Die Aktion Nisko, das Lager Sosnowiec (Oberschlesien) und die Anfänge des Judenlagers in Vyhne (Slowakei), in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung*, Vol. 11, 2002, S. 325–335.

（261）KRALČÁK, Peter, *Pracovné jednotky slovenskej armády*［スロバキア軍労働中隊］, Bratislava, 2014; TÓTH, Dezider (Hg.), *Pracovné jednotky a útvary slovenskej armády 1939-1945. VI. Robotný prápor*［スロバキア軍の労働部隊とその編成（1939 年～1945 年）── 第 6 労働大隊 ──］, Bratislava 1996.

（262）*Gardista*, roč. 5, čís. 32, 9. 2. 1943, S. 1–2.

（263）KAMENEC, Ivan, Neúspešné pokusy o obnovenie deportácii slovenských židov［スロバキア・ユダヤ人強制移送の再開失敗］, in: MILOTOVÁ, Jaroslava - LORENCOVÁ, Eva, *Terezínske studie a dokumenty*［テレジーンシュタット研究と関連文書］, Praha institut terezinské iniciativy［テレジーン・イニシアティブ研究所］, 2002, S. 299–315.

（264）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第 2 巻］, S. 256–261, 274–276.

（265）NIŽŇANSKÝ, Eduard - KAMENEC, Ivan (Hg.), *Holokaust na Slovensku 2*［スロバキアのホロコースト　第 2 巻］, S. 277.

カトリック司教は洗礼を受けたユダヤ人だけを庇護していたが，1943年になると「司教教書」はスロバキアに残っていたすべてのユダヤ人を保護の対象にするようにとした[266]。

①バチカンによる介入の表明[267]

スロバキアからの強制移送について，再開の準備が進められていた1943年4月7日に，バチカンの国務長官タルディーニ師は次のように述べた。

> スロバキアの国政を束ねる者（ヨゼフ・ティソ）は聖職者である。彼を巡るスキャンダルはますます大きくなり，その結果，カトリック教会にも責任が及ぶ危険がある。したがって，教皇聖座は改めて抗議の意を表明する必要があるだろう[268]。

②大統領等による例外措置

1943年にはスロバキア・ユダヤ人を強制移送するようにという圧力が，ナチス・ドイツからは来なかったことも指摘しておく必要がある[269]。

様々な例外措置によってユダヤ人が残留して，スロバキアに住んでいた。（その多くは「経済のために欠くべからざるユダヤ人」とする大統領や各省庁の措置による。）1944年8月に公使ハンス・E. ルディンは次のようなレポートを［本国ドイツに］送った。

> 公式に人口登録がなされている1万5300人のユダヤ人のうち，約350人[270]を除いた残りは，スロバキアの省庁が交付した何らかの居住許可証または労働許可証を持っている。一番多かったのは経済省で，ユダヤ人6500人を認可した。その次は内務省の2000人，文部省650人，財務省350人，交通省300人が続く。その他の中央省庁ではユダヤ人が100人，それに外国籍を持つユダヤ人は250人である[271]。

また，ヨゼフ・ティソが移送の例外措置の対象とした事例を分析すれば，興味深いことが明らかになる。何はともあれ我々は，ティソがユダヤ系のスロバキア国民を迫害し，社会，政治，経済の諸分野から排除し，一切の権利を少しずつ剥奪していった国の領導者であることを忘れてはならない。ユダヤ人の迫害に対して政治的責任を負っているそのティソが，他方では［強制移送を］免除している。それでは辻褄が合わないのではないか。ティソは，みずからが創り上げた建国以来の国策から，一部のユダヤ人を守ったからである。そのようなことは，ティソの「より小さな悪」をなすという政策の一環であったと解釈することもできる。特定のユダヤ人は強制移送したが，ユダヤ人の全員にはそうしていない，というわけである。誰を残すかを決定したのは，まさに大統領と聖職者を兼ね備えたただ一人の人物であり，その裁定は，上述した1941年政令第198号（「ユダヤ法」）第255条に基づいていた。

しかし，ティソをユダヤ人の救世主と見なすことはできない。1939年～40年，ティソは，人数制限（ヌメルス・クラウスス）原則に従った反ユダヤ政策を採用して，スロバキア・ユダヤ人を失業させ，アーリア化を実行して貧困化させたからである。その一方で，ティソは前述の1941年政令第198号の適用除外を認めた。大統領が執った例外適用の圧倒的大多数は，1939年3

（266）Siehe Dokumente 151, 152.
（267）Siehe Dokumente 151, 152.
（268）*Ebenda*, S. 132f.
（269）Siehe Dokumente 254, 265, 268, 271, 282.
（270）この情報は正しくない。
（271）YVA, fond R 1, in: II g 57/5, Juden in der Slowakei 1942–44, (Mikrofilm JM 2218).

月 14 日以前に改宗したユダヤ人であった。ティソは全部で 1000 件ほどの例外を認めたが，それは必ず家族全員にも有効であったために，1942 年の強制移送が始まる前には約 4000 人～5000 人のユダヤ人が保護された[272]。

戦後になってから，ティソはこの例外の取扱について次のように述べている。

> 私は彼（アントン・ノイマン（Anton Neumann）（大統領府事務局長 ── 引用者））の仕事ぶりに満足していました。事務局長は規則に従って模範的に部局をとりまとめ，上長と部下の両方に節度ある態度で臨みました。私は，ユダヤ人に対する［移送］免除の許可に関しても，彼をはじめとする部局の職員が不正を働いたのではないかという疑いなど，抱いたことがありません。……ユダヤ人に関する事柄，換言すればユダヤ法の厳しい規定の適用免除に関して，私はみずから決定を下しました。私はノイマン博士に，見出しを付けた申請者ごとに申請リストを作成するように指示しました。このリストは毎日私に届けられ，それには私の判断を記入する欄があり，申請の処理はこれに従いました。以上より，ノイマン博士にはユダヤ人問題に関してまったく権限がなかったと言えます。ユダヤ人問題は私の専決事項でした[273]。

1944 年秋になると，ティソの例外許可はとうとう失効してしまった。だが，1945 年になっても，ティソが個人的にある程度の例外適用を認めたことを示す証拠がある[274]。

ドイツ公使ハンス・エラルト・ルディンは，1944 年 8 月，スロバキアにおけるアーリア化について，随分率直に次のように書いている。

> 1943 年以来，野放しになっているユダヤ人全体の経済状況はあらゆる面で改善されている。企業には夥しい数のユダヤ人が残され，その上新規の雇用もあった。多くの場合，ユダヤ人は依然としてアーリア化された企業の実質的な経営者であり，その名儀上の所有者（多くはスロバキアの政治家や国家公務員の親族）はユダヤ人が稼いだ金で快適な生活を送ってはいたが，その企業で働こうとは思いもしなかった。このような観点からすれば，ユダヤ人は「経済のために不可欠な存在」であると言えよう[275]。

(5) 第 4 局面：1944 年 9 月から終戦まで

①スロバキア国民蜂起とその鎮圧

スターリングラード以後，状況は徐々に変化した。チェコスロバキア型ブルジョア野党と共産党は，1943 年 12 月，協定を締結し共闘と蜂起に備えた。1944 年になって赤軍がスロバキア国境に接近するにつれて，国民各層でも反ドイツ感情が高まった。

1944 年 8 月末，ファシズムとティソ政権に反対するスロバキア国民蜂起が勃発した。8 月 29 日，共和国大統領ヨゼフ・ティソはスロバキアへのドイツ軍の侵攻を承諾し，その 2ヶ月後に蜂起はドイツ軍，親衛隊，警察部隊によって鎮圧された[276]。

---

(272) Näher dazu WARD, James Mac, „People Who Deserve It“: Jozef Tiso and the Presidential Exemption, in: *Nationalities Papers*, Vol. 50, No. 4, 2002, S. 571-601.

(273) Aussage Anton Neumanns vom 15. 4. 1946. Aussage Jozef Tisos vom 18. 5. 1946. Štátny archív Bratislava［ブラチスラバ国立文書館（以下，SAB と略記）］;以下も参照。SAB, fond Ľudový súd［国民法廷関係］, Tnľud 459/46 Dr. Anton Neumann.

(274) SAB, fond Ľudový súd［国民法廷関係］, Tnľud 459/46 Dr. Anton Neumann.

(275) Siehe Dokument 324.

1944年のスロバキア国民蜂起のときには，バンスカ・ビストリッツァに新しい政治組織（スロバキア国民評議会（der Slowakische Nationalrat））を設置して，反ユダヤの諸法令を失効させた。

ヨゼフ・ヴィティスカ（Dr. Josef Witiska）麾下の特別分遣隊（アインザッツグルッペ）H部隊は，1944年9月，政治的立場と人種的偏見を動機として反対派を狩り始めた。蜂起勃発後の1944年10月末になると，パルチザンとなったユダヤ人グループも鎮圧されたが，そのとき特別分遣隊（アインザッツグルッペ）H部隊は多くの部隊と連携して「ユダヤ人問題の抜本的解決」に貢献した。フリンカ警護団の中隊だけでなく新たに創設されたドイツ郷土防衛隊（Heimatschutz）も，補助部隊として特別分遣隊（アインザッツグルッペ）H部隊の指揮下に置かれた[277]。

1944年9月には，筆舌に尽くしがたい残酷な強制移送が始まった。ドイツ本国は，アイヒマンの部署から強制移送の専門家アロイス・ブルンナー（Alois Brunner）をスロバキアに派遣した。ただちにブルンナーは，セレッジ収容所の管理を引き継ぎ，ドイツ軍はそこを経過収容所［移送する収容者を一時的に留置する収容所］として利用した。こうして，絶滅収容所への移送による「ユダヤ人問題の解決」の新段階が始まった。スロバキア政府は残りのユダヤ人をまったく救済しようとはしなかった。スイスやバチカンから抗議があったものの，状況に変化はなかった[278]。

ユダヤ人に交付され，それまでは有効だった移送除外証明書がすべて失効し，大量処刑が日常茶飯事になった。多くの場合，ユダヤ人と「非ユダヤ人」（パルチザンとその幇助者）が一緒に処刑されたが，アーリア化された事業所で経営を幇助したユダヤ人と「ジプシー」が一緒に処刑されたこともある（その例はクレメンチカ（Kremnička）の集団墓地，ネメチカ（Nemecká）とズヴォレン（Zvolen）のユダヤ人墓地など）。特別分遣隊（アインザッツグルッペ）H部隊の報告書（1944年12月9日付）によると，9月から12月にかけて2257人が「特別措置（sonderbehandelt）」の対象となった（つまり処刑された）[279]。そのうちの何人がユダヤ人であったかは特定しがたいが，全部で1000人～1500人であろう。

ブラチスラバだけでも，1944年9月末にはフリンカ警護団の部隊がドイツ郷土防衛隊とともに大がかりな襲撃をかけて，約2000人のユダヤ人を，間髪を置かずセレッジに移送した。一連の迫害によって，スロバキア最大のユダヤ人コミュニティは終焉を迎えることになった。

特別分遣隊（アインザッツグルッペ）H部隊の報告（1944年12月9日付）によれば，1944年9月から12月にかけて，スロバキアではユダヤ人9653人が逮捕され，そのうちの8975人がドイツの強制収容所に移送された[280]。

今日知られているところによれば，1944年9月30日から1945年3月31日の間に11本の移送列車で1万1719人のユダヤ人が

（276）Siehe näheres unter: VENOHR, Wolfgang, *Aufstandin der Tatra*, Frankfurt am Main 1992.

（277）KWIET, Konrad, Der Mord an Juden, Zigeunern und Partisanen. Zum Einsatz des Einsatzkommandos 14 der Sicherheitspolizei und des SD in der Slowakei 1944/45, in: *Jahrbuch für Antisemitismusforschung*, Bd. 7, 1998, S. 71–81; ŠINDELÁŘOVÁ, Lenka, *Finale der Vernichtung. Die Einsatzgruppe H in der Slowakei 1944/45*, Darmstadt 2013.

（278）HLAVINKA, Ján - NIŽŇANSKÝ, Eduard - RAGAČ, Radoslav, Koncentračný tábor v Seredi vo svetle novoobjavených dokumentov (september 1944 - marec 1945)［新発見文書から見たセレッジ強制収容所（1944年9月～1945年3月）］, in: KOVÁČOVÁ, Viera *et al.*, *Druhá vlna deportácií Židov zo Slovenska*［スロバキアからの第二波ユダヤ人強制移送］, Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2010, S. 50–80.

（279）SNB, Fonds Nationalgerichtshof［国民法廷関係］, H. E. Ludin, Tnľud 56/46–26.

（280）SNB, Fonds Nationalgerichtshof［国民法廷関係］, H. E. Ludin, Tnľud 56/46–26.

スロバキアから追放された[281]。最初の 4 本の移送列車でユダヤ人はアウシュヴィッツに，次の 3 本はドイツの様々な強制収容所（ベルゲン＝ベルゼン，ラーベンスブリュックなど）に，最後の 4 本では約 1450 人がテレジーンシュタットへ移送された（1944 年 12 月～1945 年 3 月）[282]。

1944 年秋のユダヤ人の悲惨な状況は，以下に引用するバチカン代理大使ジュゼッペ・ブルツィオ師の報告からも明らかである。1944 年 10 月 26 日の電報には次のようにある。

> 占領前からのユダヤ人の保護措置は効き目がなくなった。引き続き強制移送が行われ，潜伏ユダヤ人の捜索が続いている。占領の結果，独立国スロバキアではその名残（なごり）さえも消滅してしまった。政府と共和国大統領は，占領軍の命令を唯々諾々として実行している。善良なカトリック教徒は大統領の態度に愛想を尽かし，大統領は何を待っているのか，なぜまだ辞表を出さないのかと問うている[283]。

②ローマ教皇ピウス 12 世へのティソの書簡（1944 年 11 月 8 日）

ところが，ティソは，1944 年秋のユダヤ人の状況をまったく別様に評価をしている。スロバキアのユダヤ人コミュニティが経験したあらゆる迫害の挙げ句の果てに，今度は強制移送の再開という恐ろしい知らせがセレッジから届いた[284]。その上スロバキア領内（クレムニチカ（Kremnička））とネメツカ（Nemecká））での大量処刑のニュースも飛び込んできた。こうして，ようやくティソは 1944 年 11 月 8 日に教皇ピウス 12 世への次のような書簡を認（したた）める気になった。

> 私たちを敵と見るプロパガンダは，スロバキア共和国政府が国籍と人種を理由に，人道と正義に反する残虐な措置を実施しているとの噂を誇張しています。……スロバキア共和国政府が，国籍や人種を理由にチェコ人やユダヤ人に対して犯罪行為をなしてきたことはありません。何世紀にも亘って，腹に一物を持って破壊的な影響を与えてきた仇敵から自国民を保護しなければならないと考えたまでです。……スロバキア共和国が誕生して以来 5 年の長きに亘って，いい思い（ママ――引用者）をしてきたチェコ人とユダヤ人は，今年の 8 月末，パラシュートでスロバキアに降

(281) HLAVINKA, Ján - NIŽŇANSKÝ, Eduard, *Pracovný a koncentračný tábor v Seredi* [セレッジ労働/強制収容所], Bratislava 2009; Siehe Dokumente 330, 371, 383, 386, 393, 397, 398, 399, 400, 402, 409, 415, 418.

(282) Siehe HRADSKÁ, Katarína, Vorgeschichte der slowakischen Transporte nach Theresienstadt, in: *Theresienstädter Studien und Dokumente*, Praha 1996, S. 84-98（「テレジエンシュタットへのスロバキアからの強制移送―前史―」（木村和範訳）『経済論集』（北海学園大学）第 71 巻第 1 号，2023 年 6 月）; HRADSKÁ, Katarína, Deportácie slovenských Židov v rokoch 1944-45 so zreteľom na transporty do Terezína [1944 年～1945 年におけるスロバキア・ユダヤ人のテレジーンへの移送], in: *Historický časopis* [歴史学雑誌], Vol. 45, No. 3, 1997, S. 455-471.

(283) Siehe auch: KAMENEC, Ivan - PREČAN, Vilém - ŠKORVÁNEK, Stanislav, *Vatikán a Slovenská republika /1939-1945/. Dokumenty* [バチカンとスロバキア共和国（1939 年～1945 年）および関連資料], Bratislava 1992, S. 202f.

(284) HLAVINKA, Ján - NIŽŇANSKÝ, Eduard - RAGAČ, R. Koncentračný tábor v Seredi vo svetle novoobjavených dokumentov (september 1944 - marec 1945) [新発見文書から見たセレッジ強制収容所（1944 年 9 月～1945 年 3 月）], in: KOVAČOVA, Viera *et al.* (Hg.), *Druhá vlna deportácií Židov zo Slovenska* [スロバキアからの第二波ユダヤ人強制移送], Banská Bystrica: Múzeum SNP, 2009, S. 50-80.

下した様々な国籍の敵兵と手を組み，スロバキア共和国に公然と反旗を翻したことは，決して看過することができません。予期せぬ不法な攻撃を受けた小国スロバキアは，自国を防衛することができないために，我が国を保護しているドイツ帝国政府に救援を要請した次第です。そのとき以来，スロバキアにおける作戦は軍事的性格を持ち，戦争の様相を呈するようになりました。この作戦遂行はスロバキア政府の権限の及ぶところではなく，それゆえに，スロバキア政府はその責任の埒外（らちがい）にあります[285]。

この文面は，ティソが個人としても政治家としても機能不全に陥っていることの証拠である。この書簡が届けられる前の1944年10月6日に，ローマ教皇代理大使ジュゼッペ・ブルツィオ師はティソの姿勢について次のように書いている。

私は彼［ティソ］からは，迫害されている人々の心情を分かち合おうとする心を読み取ることはできなかったし，思いやりの一欠片（ひとかけら）も見出すことができなかった。ユダヤ人を諸悪の根源と見なす彼は，ユダヤ人に対するドイツ側の施策が最高度の軍事的な利益をもたらすと擁護している[286]。

このように，真っ向から異なる立場に立つ二人のカトリック聖職者［ティソとブルツィオ］は，スロバキアの領土内に留まっていたユダヤ人の状況について真逆の評価をしたのである。

③バチカンからのティソへの働きかけ（1944年10月28日）[訳注9]

1944年10月28日にタルディーニ師は次のように書いている。

聖なる父[287]におかれましては［ローマ教皇代理大使］ブルツィオ師に打電し，猊下の御名において同師が司祭ティソに呼びかけるようにしてくださいますことを具申いたします。そして，ティソをして感情や思いを司祭職の尊厳性と良心とに調和せしめるようにさせてくださいますようお願い申し上げます。大統領職にあって犯した不正と暴力は，司祭としてのティソ師の魂に重くのしかかり，その祖国を辱め聖職者の信用を損ない，在外の教会にも仇（あだ）をなしているからに他なりません[288]。

同日（1944年10月28日），枢機卿タルディーニ師は，ベルン駐在ローマ教皇代理大使フィリッポ・ベルナルディーニ師（Filippo Bernardini）を通じて次のようにブラチスラバのブルツィオ師に伝えさせた。

（285）KAMENEC, Ivan - PREČAN, Vilém - ŠKORVÁNEK, Stanislav, *Vatikán a Slovenská republika /1939-1945/. Dokumenty*［バチカンとスロバキア共和国（1939年～1945年），および関連資料］, Bratislava 1992, S. 207f.

ミラン・スタニスラフ・デュリカ（Milan Stanislav Ďurica）がその著書 *Jozef Tiso a Židia*［ヨゼフ・ティソとユダヤ人］（Bratislava 2008）の中で，1944年秋の状況に注目していないことは重要である。ティソがピウス12世に宛てた書簡は，デュリカの興味を引いていない。

（286）*Ebenda*, S. 196f.

［訳注9］　前項で引用した「ローマ教皇ピウス12世への書簡（1944年11月8日）」をティソが送ったのは，以下に述べるような経緯があった（脚注285参照）。

（287）教皇ピウス12世の謂。

（288）KAMENEC, Ivan - PREČAN, Vilém - ŠKORVÁNEK, Stanislav, *Vatikán a Slovenská republika /1939-1945/. Dokumenty*［バチカンとスロバキア共和国（1939年～1945年）および関連文書］, Bratislava, 1992, S. 203.

貴台（ブルツィオ師 ── 引用者）にあっては，ティソ大統領のもとに赴き，国籍や人種を理由に人道と正義に反して，かの国で実に多くの人々が受けている苦しみに対する聖なる父［ローマ教皇］の深い悲しみを伝え，さらにまた大統領がその感情や思いを司祭職の尊厳性および良心と調和させるようにと，聖なる父の御名において，伝えてくださるようお願いいたします。併せて，ティソ大統領の統治下で行われた不正は祖国を辱めているばかりか，反対派はそれを奇貨として世界中で聖職者と教会の信用を失墜させようとしていることについても，大統領にお話ししてくださいますようお願いいたします[289]。

大統領職に就き政権の中枢にいたティソは，誰が必要で（換言すれば，少なくとも一定期間は生き延びるべきは誰か），移送されるべきは誰かについての決定権を私物化した。この措置に対してティソには政治責任がないと言える者は誰もいない。強制移送されたユダヤ人は労働するために移送されたのだ，と戦後の裁判でスロバキアの複数の政治家は主張した（スロバキアの一部の歴史学者は今でもそう主張している）。しかし，この言説には，簡単に反論することができる。強制移送された人々は，その妻たちが 5 人の小さな子どもと一緒にミハロフツェ［ブラチスラバの約 90㌔，コシチェの東約 60㌔，プレショフの南東約 70㌔］のどこかで家畜運搬用の貨車に乗り，20 時間もかけてブラチスラバまで運ばれることを承諾していたであろうか。ましてやそこからさらに貨物列車で占領下のポーランドのアウシュヴィッツやルブリンまでに行くことに同意したであろうか。ティソたちもそれに同意したのであろうか。子どもたちは，80 歳の老親が隣の線路に停車中の貨車で同じように輸送されるのを当たり前と考えていたのだろうか。高齢者がそのような旅に耐えられるとでも思っていたのだろうか。1942 年 4 月から 10 月[290] にかけてスロバキアを出発した強制移送のときも[291]，1944 年～

（289）*Ebenda*, S. 203f. なお，1944 年 11 月 9 日のブルツィオ師の報告によると，この書簡を受け取った大統領ティソは，1944 年 11 月 8 日にピウス 12 世に宛てた書簡で返答している（*Ebenda*, S. 207f.）。

（290）ローマ教皇代理大使ジュゼッペ・ブルツィオ師は，強制移送が始まる前の 1942 年 3 月 9 日に，国務長官枢機卿ルイジ・マリオーネ師に宛てて次のように書いている。

ドイツ軍に引き渡した 8 万人の人々をポーランドに強制移送することは，その大部分を死刑に処することとまったく同じです。（Kamenec, Ivan - Prečan, Vilém - Škorvánek, Stanislav, *Vatikán a Slovenská republika /1939-1945/. Dokumenty*［バチカンとスロバキア共和国（1939 年～1945 年）およびその関連文書］, Bratislava 1992, S. 80.）

1941 年 10 月 27 日，ブルツィオ師は，司教ブザルカ師からの情報に基づいて，東部戦線におけるユダヤ人殺害をマリオーネ師に次のように報告した。

ユダヤ人（捕虜の謂 ── 引用者）は即座に射殺される。（ユダヤ系民間人も性別や年齢に関係なく手際よく殺害されたと言われている。）（*Ebenda*, S. 71.）

（291）1942 年の強制移送に当たってナチス・ドイツと協議したスロバキア，ハンガリー，ルーマニアの三ヶ国の外交交渉を比較すると，ドイツにとって強制移送はこれら三ヶ国との関係から見れば，最重要事項ではなかったことが分かる。東部戦線の戦況下で強制移送よりも重要視されたのは，これらの国の平穏（ドイツにとって占領軍を派遣する必要がないこと），経済的な対独協力に基づく必要な軍需物資の供給，そして自国部隊による戦闘遂行であった。戦勝こそがドイツにとって最重要課題であった。Näher dazu Nižňanský, Eduard, The Discussions of Nazi Germany on the Deportation of Jews in 1942 - the Examples of Slovakia, Rumania and Hungary, in: *Historický časopis*［歴史学雑誌］, Vol. 59 (supplement), 2011, S. 111-136.（ニジニャンスキー（木村和範訳）「1942 年におけるユダヤ人強制移送にかんするドイツの外交交渉 ── スロ

1945年の移送もその様子はまったく同じである。

「古典的なキリスト教的価値観」が生きていたスロバキアでは，ドイツ帝国やボヘミア・モラビア保護領とは対照的に，戦時中にその価値観は崩壊したと言うことができる。当時の一連の出来事は，キリスト教的価値観を前提とするヨーロッパ文明が危機に瀕していたことの現れである。キリスト教徒を自認するスロバキアの大方の政治家は，人間性が機能不全に陥り人類が破局を迎えてしまったことには目をつぶり，「より小さな悪」という言説で言い逃れようとした。ヨゼフ・ティソは，何事もスロバキア人のためを思って行動したのであり，すべてのユダヤ人を強制移送するようなことはしていないと言って，みずからを「正当化」した。しかし，価値観と人倫（モラル）についてのそのような相対主義をもってしても，当時の政治家たちが心正しき人間の顔をしていたなどとは，とうてい言いがたい。

第二波の強制移送のときには1万人のユダヤ人が救われているが，それは［「より小さな悪」論者によったのではなく］スロバキア人が助けたからである。

ホロコーストを生きのびた人々に向けられた公然たる迫害と迫り来る死の危険は，国が解放されてようやく終焉を迎えた。ところが，第二次世界大戦では「ユダヤ人問題の解決」の終着駅が集団虐殺（ジェノサイド）であった。こうして，スロバキアのユダヤ人コミュニティは崩壊した。

バキア，ルーマニア，ハンガリーを例にして――」『学園論集』（北海学園大学）第189・190号合併号，2023年3月。）

解　　題

1．底本とそれを集録した著書

エドゥアルド・ニジニャンスキー（コメニウス大学/スロバキア）はスロバキア・ホロコーストの研究者として夙(つと)に著名である。カタリーナ・プシツォヴァ（同大学大学院）は，活躍が嘱望されている新進気鋭のゲルマニストである。二人は，スロバキア・ホロコーストに関する研究が自国（スロバキア）に留まらず，外国でもいっそう深められることを期待して，スロバキア語版とドイツ語版を一書に収め，2021 年に

Eduard Nižňanský - Katarína Psicová, *Antisemitizmus a holokaust na Slovensku v dokumentoch nemeckej proveniencie 1938 - 1945/ Antisemitismus und Holocaust in der Slowakei in Dokumenten deutscher Provenienz von 1938 bis 1945*, Múzeum Slovenského národného povstania, Banská Bystrica, Slovakia, 2021, SS. 712.

を上梓した。この労作『ドイツ側の外交文書から見たスロバキアの反ユダヤ主義とホロコースト　(1938 年～1945 年)』(2021 年）は，コメニウス大学哲学部（ブラチスラバ/スロバキア）[(1)] の支援により，スロバキア国民蜂起記念博物館（Múzeum Slovenského národného povstania）から出版された。その際，ヤド・ヴァシェム国際ホロコースト研究所（エルサレム/イスラエル）[(2)]，「人種差別，反ユダヤ主義，ホロコースト研究のためのフリートリヒ・カール・フォン・オッペンハイム男爵寄付講座」（フォン・オッペンハイム家/ケルン/ドイツ）[(3)]，および EC（「多様性の統合 ── 現代ヨーロッパ・ユダヤ人に関する学際的研究と諸省察 ── 」（課題番号 UDISEJ - Erasmus+ 2018-1-CZ01-KA203-048165））[(4)] から出版助成を受けた。

この著書は 700 頁を超える大著である。それが対象とする 1938 年から 1945 年までのスロバキアは実質的にドイツの支配下にあった。そのためにスロバキアの内政と外交政策はドイツの影響を強く受けた。スロバキア・ホロコーストの分析には，ドイツ側文書の参照を欠かすことができない ゆえん である。ドイツとスロバキアに関する外交文書等を網羅的に提供することを目的とするこの著書は，その全体がスロバキア語(バイリン)とドイツ語(ガル)で書かれている。それは，スロバキア語だけでなく，ドイツ語に通じたホロコースト研究者の便を図ったからである（ドイツ語訳はカタリーナ・プシツォヴァが担当した）。

この著書の主要部分の構成は以下のとおりである。

（1）解説篇

第 1 論文：「スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト（1938 年～1945 年）(Die Politik des Antisemetismus und der Holocaust in der Slowakei (1938 – 1945))」。ここに掲載した訳文の底

（1）Filozofickej fakulty univerzity komenského v Bratislave.

（2）The International Institute for Holocaust Research - Yad Vashem.

（3）The Baron Friedrich Carl von Oppenheim Chair for the Study of Racism, Antisemitism, and the Holocaust, founded by the von Oppenheim Family of Cologne.

（4）UDISEJ - Erasmus + 2018-1-CZ01-KA203-048165 - “United in Diversity” - An Interdisciplinary Study of Contemporary European Jewry and Its Reflection (Co-funded by the Erasumus+ Programme of the European Union).

本（ドイツ語版）はこれである。

第2論文：「カリカチュアとポスターによる反ユダヤ・プロパガンダ（Die Darstellung des Antisemitismus in der Slowakei durch Karikaturen und Plakate）」。カリカチュアとポスターはドイツ語版に集録されている。

（2）史料篇

ホロコースト関連の外交関連文書等465文書。

2. 解説篇第1論文（スロバキアにおける反ユダヤ政策とホロコースト（1938年～1945年））—訳文の底本—

標題に記した期間（1938年～1945年）はドイツ支配下のスロバキア・ホロコーストの時代である。この時期には，矢継ぎ早に様々な反ユダヤ措置が執行された。それは，具体的にはユダヤ人の定義，ユダヤ人マークの着用，ユダヤ人の経済生活からの放逐，「アーリア化」によるユダヤ人資産の収奪を経て，ユダヤ人の集団強制移送で頂点に至る。本稿に訳出した第1論文は，（1）ホロコーストを実行したフリンカ・スロバキア人民党の権力奪取に至る過程と（2）ホロコースト政策の目的，内容，結果を取り上げている。屋上屋を重ねることになるが，以下では第1論文を読むに当たって必要と考えられる歴史的背景を素描する[5]。

（1）スロバキアの独立（1939年）とボヘミア・モラビア保護領（1939年）

1938年3月12日にオーストリアを併合（独墺合邦（Anschluß））したナチス・ドイツは，ミュンヘン会談（1938年9月29日～30日）でマイノリティのフォルクスドイチェを保護すると称して，チェコスロバキアからズテーテン地方（ズテーテンラント）を割譲させた。1918年のチェコスロバキア建国以来，独立志向が強かったスロバキアは，この割譲に対して不満を募らせた。このような中にあって，スロバキアはドイツの後押しを得て自治宣言を発し（1938年10月6日），チェコスロバキアからの分離独立の道を歩み始めた（この日から1939年3月14日の独立までを「自治政府時代」と言う）。

チェコスロバキアからのスロバキアの独立を決定づけたのは，ドイツを後ろ楯にしたハンガリーの要求（スロバキア南部とカルパ

（5）以下を適宜参照した。① Jarek Mensfelt (ed.), *The Tragedy of the Jews of Slovakia*, Auschwitz-Birkenau State Museum (Oświęcim), Museum of the Slovak National Uprising (Banská Bystrica), 2002；② Eduard Nižňanský, “The Discussions of Nazi Germany on the Deportation of Jews in 1942 — the Examples of Slovakia, Rumania and Hungary,” *Historický časopis* [The Historical Journal], Vol. 59, 2011, Supplement, pp. 111–136, Bratislava. 以下，Nižňanský（2011）と略記。（「1942年におけるユダヤ人強制移送にかんするドイツの外交交渉 ── スロバキア，ルーマニア，ハンガリーを例にして ── 」（木村和範訳）『学園論集』（北海学園大学）第189・190号，2023年3月。）；③ Ján Hlavinka, Hana Kubátová, Fedor Blaščák (eds.), *Proceedings from the conference: Uncovering the Shoah: Resistance of Jews and Efforts to Inform the World on Genocide*, Žilina, Slovakia, 25 – 26 August 2015, The conference and this publication were made possible through a generous contribution by the Conference on the Jewish Material Claims to Germany (Proceedings_from_Conference_Zilina_2015.pdf, http://vrbawetzler.eu/img/static/Prilohy/Proceedings_from_Conference_Zilina_2015.pdf, accessed on Dec. 3, 2023). この邦訳（木村和範訳）は分割されて，以下に集録されている。『経済論集』（北海学園大学）第70巻第2号（2022年9月），第70巻第4号（2023年3月），第71巻第1号（2023年6月）；④エドゥアルド・ニジニャンスキー「スロバキアのホロコースト（1938年～1945年）」『学園論集』（北海学園大学）第189・190号合併号，2023年3月（これは未公刊論文の邦訳）；⑤矢田俊隆『ハンガリー・チェコスロバキア現代史』山川出版社　1978年；⑥南塚信吾編『ドナウ・ヨーロッパ史』山川出版社1999年。

ト・ルテニア南部の割譲）をチェコスロバキア政府が飲んで，第一次ウィーン裁定[6]を受諾したことによる（1938 年 11 月 2 日）。これによってスロバキア南部のハンガリーへの割譲が決まると，スロバキア政府は，約 8000 人のユダヤ人を割譲予定の領土（中立地帯（ノーマンズランド）（Niemandsland））へと強制移送（追放）した。これは，スロバキアによるユダヤ人強制移送の最初の試みであったが，ハンガリー側の抗議により撤回され，ユダヤ人はスロバキアに戻された。

スロバキアにおける反チェコスロバキアの機運に乗じたドイツは，1939 年 3 月 14 日にチェコスロバキアからスロバキアを独立させた。1939 年 3 月 14 日の独立宣言から 1939 年 7 月 21 日までのスロバキアの国名はスロバキア国（Slovenský štát, Slowakische Staat, Slovak State）であり，1939 年 7 月 21 日～1945 年 5 月 8 日の国名はスロバキア共和国（Slovenská republika, Slowakische Republik, Slovak Republic）と言う[7]。

ドイツの真の狙いは，チェコスロバキアを解体して，軍事上の理由から工業力に富んだ「チェコスロバキアの残りの部分」（ボヘミアとモラビア）を「保護下」に置くことであった。世界情勢を見極めたドイツはチェコスロバキアの解体が可能と判断して，スロバキア独立と同じ日（1939 年 3 月 14 日），チェコスロバキアの西側部分（ボヘミアとモラビア）を保護領とした（ベーメン・メーレン保護領とも）[8]。

独立に対するドイツの支援は，スロバキアの東方（ソ連）と北方（ポーランド）への備えを自国のために固めるという軍事上の目的とも合致し，スロバキアの安定政権は兵站線の確保の観点からドイツの国益に叶うものであった[9]。1939 年 9 月 1 日，ドイツがポーランドに侵攻して第二次世界大戦が勃発したとき，スロバキア軍とともにドイツ軍はスロバキア国境からもポーランドに侵攻した。

独立後のスロバキアを「目下（めした）の同盟国」として維持するために，ドイツ側にとって外務大臣フェルディナンド・デュルチャンスキー（Ferdinand Ďurčanský）は排除すべき人物であった。反ユダヤ主義者として激しいプロパガンダを主導したデュルチャンスキーは，西側とソ連に融和的であり，ドイツとは距離を置いて独自路線を歩もうとしたからである。

(2) ザルツブルク会談（1940 年）

戦前と戦中を通じてスロバキアは，フリンカ・スロバキア人民党による一党独裁の国である。カトリックの教義に基づくスロバキア・ナショナリズムを標榜して，この政党の母体（スロバキア人民党）が結党されたとき（1906 年），カトリック司祭アンドレイ・フリンカ（Andrej Hlinka，1864 年～1938 年）は創立者の一人であった[10]。1925 年にはその名にちなんで党名をフリンカ・スロバキア人民党と改称した。フリンカの死後（1938 年），同じくカトリック司祭のヨゼフ・ティソが党首に就任した。

1938 年 11 月の第一次ウィーン裁定により領土をハンガリーに割譲すると，スロバキアではナショナリズムがいっそう高まり，共産党系と社会民主党系の政党を除く政党が合同して，スロバキア国民統一党が結党された。

---

(6) 第二次ウィーン裁定（1940 年 8 月 30 日）によって，ルーマニアはトランシルバニア北部をハンガリーに割譲した。

(7) ただし，全期間を通じて，「スロバキア」「スロバキア国」が使われることがある。

(8) スロバキアが自治を宣言する（1938 年 10 月 6 日）以前のチェコスロバキアは第一共和国と言われる。また，スロバキア自治政府を抱えていた時期（1938 年 10 月 6 日～1939 年 3 月 14 日）をチェコスロバキア第二共和国と言う。ボヘミア・モラビアが保護領になることによって，1918 年建国のチェコスロバキアは消滅し，ロンドンにチェコスロバキア亡命政府が置かれた（大統領エドヴァルド・ベネシュ（Edvard Beneš））。

(9) Nižňanský (2011).

同年，フリンカ・スロバキア人民党はこれと合同した（フリンカ・スロバキア人民党＝スロバキア国民統一党（Hlinkova slovenská ľudová strana - Strana slovenskej národnej jednoty, HSĽS-SSNJ）の結成）。しかし，フリンカ・スロバキア人民党が主力であったことから，この合同政党もフリンカ・スロバキア人民党と言われることがある（以下では，これに従う）。

フリンカ・スロバキア人民党は二大勢力（穏健派（大統領ヨゼフ・ティソ）と急進派（首相ヴォイテフ・トゥカ，内務大臣アレクサンデル・マッハ））に分かれていたが，当初は穏健派が優勢であった。穏健派は，「人員制限（ヌメルス・クラウスス）（numerus clausus）」を原則として，ユダヤ人の社会参加割合を4%（ユダヤ人の人口比）に抑える施策を執った。これが「ユダヤ人問題」の抜本的解決にはならない方策であると見たドイツは，スロバキア政府の「てこ入れ」が必要と判断した。この問題の解決策を含めて，ドイツの意向をスロバキアに伝えるために，スロバキア政府の首脳部（ティソ，テュカ，マッハ）を招いて開催されたのが，「ザルツブルク会談」（1940年7月28日）である（ドイツ側の出席者は，総統ヒトラー，外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップ（Joachim von Ribbentrop），スロバキア駐在ドイツ公使（予定）マンフレート・フォン・キリンガー（Manfred von Killinger）など）。この会談では，①デュルチャンスキーの排除，②急進派政権の擁立，③ドイツ顧問官（Berater）の派遣が合意された。③により，スロバキアはドイツが派遣する複数の顧問官から内政と外交政策の様々な分野に対する「アドバイズ」を受けることになった。例えば，ユダヤ人問題の専門家として，アドルフ・アイヒマンの部下，親衛隊大尉ディーター・ヴィスリチェニー（Dieter Wisliceny）が顧問官として赴任した[11]。

(3)「アーリア化」と集団強制移送（1940年～1942年）

ザルツブルク会談により，執行部が急進派に入れ替わったスロバキア政府のもとでは，「人員制限（ヌメルス・クラウスス）（numerus clausus）」の原則が棄てられ，ユダヤ人排除はいっそう厳しさを増した。急進派の措置に対して，政権に残ったティソなどの穏健派が批判したり反対したりすることはなかった。「ザルツブルク会談」以後は実質的に両派の違いがなくなった（急進派に一本化した）と見てよい。

こうして，「経済のために有用」とされるユダヤ人を除き，大半のユダヤ人は生活の場を失った。ユダヤ人を排除するための一連の措置が「アーリア化」であり，その力点はユダヤ人資産の接収に置かれた。これによって，経済的に困窮したユダヤ人の処遇を巡る問題は社会問題化した。貧困ユダヤ人が大量に発

（10）スロバキアでは，2009年1月1日以降ユーロに移行するまでの通貨単位はスロバキア・コルナ（Slovak koruna）である（1993年2月8日～2008年12月31日）。このとき，1000スロバキア・コルナの肖像にはアンドレイ・フリンカが使用された。

1000スロバキア・コルナ（見本），1993年～2008年

（出所）Aurea eShop, https://www.aurea.cz/katalog/bankovky/slovenska-republika-1993/1000-koruna-1-8-2007-p-00000000-bankovni-vzor-hej-sk49v1-bhk-sk15dp-n-unc-bcsr3sk049v1, accessed on Dec. 12, 2023.

（11）Katarína Hradská, „Der deutsche Berater und die ‚Lösung der Judenfrage'", *Theresienstädter Studien und Dokumente*, 2002, SS. 300-317.（カタリーナ・フラツカ「ドイツ顧問官とスロバキアにおける『ユダヤ人問題の解決』」（木村和範訳）『経済論集』（北海学園大学），第71巻第1号，2023年6月。）‘

生したが，スロバキア政府は財政基盤が脆弱であり，福利厚生に充当する財源を確保することができなかった。「アーリア化」によって作り出された「社会問題」の手っ取り早い解決策として採用されたのが，国外への強制移送である。ユダヤ人の経済活動からの排除，「アーリア化」，強制移送という三つはひと続きとなった。

以上に述べた「アーリア化」と強制移送が，ザルツブルク会談以降のスロバキアで展開されたホロコーストの主要内容である。換言すれば，ザルツブルク会談によりスロバキア政府を主導するようになったフリンカ・スロバキア人民党急進派のイニシアティブにより，ホロコーストが着実に実行されたのである。1942 年の強制移送をピークとするホロコーストは，その前段で「アーリア化」の法制化とそれに基づく体制整備という形で現象した。具体的には，「第一次アーリア化法」（1940 年），「第二次アーリア化法」（1940 年）の制定，「アーリア化」の効率的実施のための国家機関としての中央経済局の設置（1940 年），ユダヤ人の移送に備えてその実状を掌握するための政府機関としての内務省第 14 局における人事刷新（アントン・ヴァシェックの局長登用）（1940 年）などである。

強制移送の法的根拠のひとつである「ユダヤ法」は，ザルツブルク会談の翌年（1941 年）に制定された。この法律（政令）に基づく大量強制移送は 1942 年 3 月～10 月に実施され，5 万 7628 人のユダヤ人がポーランド総督府の強制収容所（マイダネク）やアウシュヴィッツなどに移送された（このときの移送者のうち生還したのは 300 人を下回るとも言われている）。こうして，「ユダヤ人問題」は一応の「解決」を見た。これを第一波の強制移送と言う。

ユダヤ人の「東方」への強制移送を実行するにあたり，ドイツ側はハンガリー，ルーマニア，スロバキアの三国に事前に通告して，その意見を求めた。強制移送に賛同したルーマニアとハンガリーは必ずしも積極的ではなかったが，スロバキアは，ユダヤ人財産を自国に帰属させることができるならばということを条件に賛成し移送体制を準備した。

この第一波の強制移送は 1942 年 10 月に終了した。その中止については，例えば移送すべきユダヤ人（社会問題の種となる貧困ユダヤ人）がすべて移送されたこと，ユダヤ人を集められなかったこと，ユダヤ人センター内の非合法組織（「作業部会」）からの賄賂が功を奏したことなど，諸説がある。

(4) スロバキア国民蜂起（1944 年）とバチカンの介入（1944 年）

ボヘミア・モラビア保護領には「金髪の野獣」という異名をとるナチス序列第三位のラインハルト・ハイドリヒ（Reinhard Heydrich）(12) が実質的な長官として赴任し（1941 年），「反政府」活動に対して厳しい態度で臨んだ。このため，チェコスロバキア亡命政府（ロンドン）は類人猿（エンスラボイド）作戦によりハイドリヒの暗殺を計画した（1941 年）。ロンドンから送り込まれた二人のチェコスロバキア人（ヨゼフ・ガブチク（Jozef Gabcik）とヤン・クビシュ（Jan Kubiš））が，1942 年 5 月 27 日，プラハでハイドリヒを襲撃し，そのときの怪我でハイドリヒは 6 月 4 日に死亡した。これはナチス高官への暗殺計画の中で唯一成功した作戦であり，この成功により，イギリスと自由フランスはミュンヘン会談の合意を破棄した。このときのドイツ側の報復の激しさから，以後はこの種の作戦は実行されることがなかった。

しかし，この 2 年後の 1944 年 8 月 29 日に，スロバキアでは親独スロバキア政権に対する

(12) ハイドリヒは，ゲシュタポ長官および親衛隊保安本部（Sicheheitsdienst）（SD）長官。国家保安本部（Reichssicherheitshauptamt: RSHA）の事実上の初代長官。ヒトラー，ヒムラーに次ぐナチス序列第三位。「ユダヤ人問題の最終解決」を主導し，ヴァンゼー会議を主宰（1942 年 1 月 20 日）。

国民蜂起が勃発した。これは，解放された労働収容所のユダヤ人が参加し，傀儡（かいらい）政権の打倒とチェコスロバキアの再興を標榜した全国民的な蜂起であったが，10月28日にドイツ軍が介入して鎮圧された（パルチザンによる抵抗はその後も続いた）。蜂起軍に加担したとして1万3000人強がアウシュヴィッツなどに移送された（1000人～1500人は逮捕後に殺害されたと言われる）。このときの強制移送は第二波と言われる。なお，戦争末期には，カトリック司教でもあったティソを諫めるべく，バチカンが介入した（1944年）[13]。

＊　＊　＊

以上，第1論文における指摘などの先行研究を参照して，ホロコーストを巡る政治過程の概略を述べた。第1論文には文献注と文章注が併せて291施されているが，それによってあの時代がより具体的により詳細に解明され，スロバキア・ホロコースト史研究の基準文献となることであろう。

3. 解説篇第2論文（カリカチュアとポスターによる反ユダヤ・プロパガンダ）

プロパガンダの視覚的手段（ポスターとカリカチュア）は，以下に掲げる4つのレベルの反ユダヤ主義の一つもしくはそれ以上を表現するために制作されている。

①宗教レベル（「ユダヤ人は救世主（メシア）を殺した。」）

②民族レベル（「ユダヤ人はイディッシュ語，ドイツ語，ハンガリー語を話し，スロバキア人ではない。」）

③社会経済レベル（「スロバキア人の財産を簒奪したユダヤ人は経済を思いのままにしている。」）

④政治レベル（「ユダヤ人は自由主義者であるか左翼『ユダヤ・ボルシェヴィキ』である。」）

第2論文では，反ユダヤ主義プロパガンダにおける「敵のイメージ」を創作した主体がフリンカ・スロバキア人民党であること，その「敵のイメージ」の創作にはスロバキアの独立を支援したドイツが影響を与えたこと，さらには「敵のイメージ」が第二次世界大戦

（13）第二次世界大戦後のバチカンの動向について，ここでは簡単に『私たちの時代（ノストラ・エターテ）（*Nostra Aetate*）』（1965年）を取り上げるに留める。1965年10月28日，バチカン（教皇パウロ6世）は『私たちの時代（ノストラ・エターテ）（*Nostra Aetate*）』を公布し，ヒンズー教，イスラム教，ユダヤ教など様々な宗教を信仰する非キリスト教徒への不寛容がキリスト教とは無縁であることを宣言した。それは，次のような言葉［第5項］で結ばれている。

教会は，人種，肌の色，生活の仕方，宗教を理由にして他人を差別したり嫌がらせ（ハラスメント）をしたりすることは間違いであり，キリストの精神とは相容れないと考えています。さらに言うならば，聖なる使徒ペテロとパウロが歩んだ道を歩むこの聖なる教会会議［第二バチカン公会議］が，キリストの教えに忠実な信徒の皆さんに対して衷心より次のように願っています。「異教徒の間で立派に生活すること」（ペトロの手紙1，第2章第12節），そしてできれば，すべての人と平和に暮らし（ローマの信徒への手紙，第12章第18節），紛（まご）うことなく天の父の子になって欲しいということです（マタイによる福音書，第5章第45節）。（*Declaration on the Relation of the Church to Non-Christian Religions* ***Nostra Aetate*** *Proclaimed by His Holiness Pope Paul VI on October 28, 1965*, https://www.vatican.va/archive/hist_councils/ii_vatican_council/documents/vat-ii_decl_19651028_nostra-aetate_en.html, accessed on Dec. 11, 2023.［　］内と強調は引用者。）

『私たちの時代（ノストラ・エターテ）』第4項では，「教会の屋台骨である使徒たちだけでなく，キリストの福音をあまねく世界に伝えた初期の弟子たちのほとんどがユダヤ人」であったと指摘した。バチカンは，第二次世界大戦中にスロバキア（だけではないが）に流布された，ユダヤ人を神殺しの罪で断ずる考え方の克服に向けて歩み始めた。なお，『私たちの時代（ノストラ・エターテ）（*Nostra Aetate*）』第4項については，木鎌耕一郎「Nostra aetate 第4項50周年を記念した教皇庁文書　解説と翻訳」『神戸松蔭女子学院大学研究紀要』No. 2（2021年3月），17頁～47頁。））

の戦況に応じて変化したことを述べている。その上で，プロパガンダでスロバキアの敵として措定された対象を次の 4 類型に分類した。

第 1 類型　反共産主義，反ボルシェヴィズム，反ユダヤ･ボルシェヴィズム
第 2 類型　金権政治との戦い(対英，対米)
第 3 類型　反連合国（対米，対英，対ソ）
第 4 類型　反チェコスロバキア（反チェコ，反ベネシュ）

そして，第 2 論文では，類型ごとのプロパガンダで用いられたポスターやカリカチュアを具体的に取り上げて解説している。

2023 年 6 月，ニジニャンスキーはこの第 2 論文に大幅に手を加えて，その改訂稿（「スロバキア国のプロパガンダにおける敵のイメージの諸類型（„Die Typologie des Feindbildes in der Propaganda des slowakischen Staates“）」を執筆した。この改訂稿を所載する増補版は，まだスロバキアでは発行されていないが，それに先だって改訂稿が邦訳された[14]。

4. 史料篇

史料篇は約 600 頁に及ぶ（全体の約 85%）。これは，上述の解説篇（第 1 論文と第 2 論文）を「プロローグ」とする本書の基幹部分である。そこには，1938 年 10 月 12 日に行われたヘルマン・ゲーリンクとフェルディナンド・デュルチャンスキーとの会談を記録した第 1 文書から，1945 年 3 月 28 日の親衛隊大尉クラットによるレポート（第 465 文書）までの，全史料 465 文書（スロバキア語版とドイツ語版）が時間的経過の順に集録されている。

本書の序文（9 頁以下）によれば，集録された文書群は，(1) ドイツを中心とする外交文書，(2) 軍事関係文書，(3) 親衛隊関係文書に大別される。これらの文書は，ニジニャンスキーが長年に亘って各国の様々な公文書館等で実施した調査研究によって収集された。それらは，ヤド・ヴァシェム（エルサレム）（ホロコースト博物館，ホロコースト記念館とも）[15]，ドイツ連邦共和国外務省政治文書館（ベルリン）[16]，ドイツ連邦共和国文書館（ベルリン）[17]，ドイツ連邦共和国軍事文書館（フライブルク）[18]，スロバキア国立文書館（ブラチスラバ）[19]，スロバキア軍事史文書館（ブラチスラバ）[20]，全米退役軍人会史料館（ワシントン）[21] などに収蔵されている。

しかしながら，本書には上記の 3 分野に入らない重要文献も収録されている。その一例としてフリッツ・フィアラ（Fritz Fiala）による強制収容所のルポルタージュ（第 225 文書）がある[22]。これは，フィアラが主筆を務めていたスロバキアのドイツ語日刊紙（『国境通信（*Grenzbote*）』）に分割連載され

(14)［翻訳］エドゥアルド・ニジニャンスキー，カタリーナ・プシチョヴァ「スロバキア国のプロパガンダにおける敵のイメージの諸類型」(木村和範訳)『経済論集』(北海学園大学) 第 71 巻第 3 号，2023 年 12 月。

(15) Yad Vashem in Jerusalem (YAV).
(16) Politisches Archiv des Auswärtigen Amtes Berlin (PA AA Berlin).
(17) Bundesarchiv Berlin (BArch Berlin).
(18) Bundesarchiv-Militärarchiv Freiburg (BA-MA Freiburg).
(19) Slovenský národný archív in Bratislava (SNA Bratislava).
(20) Militärisches Archiv Vojenský historicky archív Bratislava (VHA Bratislava).
(21) Archiv NAUS［National Association for Uniformed Services］, Washington.
(22) Dokument 225, in: Eduard Nižňanský - Katarína Psicová, *Antisemitizmus a holokaust na Slovensku v dokumentoch nemeckej proveniencie 1938 - 1945/ Antisemitismus und Holocaust in der Slowakei in Dokumenten deutscher Provenienz von 1938 bis 1945*, Múzeum Slovenského národného povstania, Banská Bystrica, Slovakia, 2021, SS.431ff.

た（1942年11月7日，8日，10日）。このフィアラ・ルポルタージュは，あのアイヒマンが1943年6月2日付の書簡の中で，「移住させられたユダヤ人の運命についてスロヴァ(ママ)キアで広まっている異様な噂を打ち消す」ための郵便物と並んで，「ユダヤ人収容所の状態を記載したもの」[23]と指摘している文書であり，連合国等による「死の収容所」報道に対抗する枢軸国側のプロパガンダに使用された。

フィアラとそのルポルタージュについては，2015年にミハル・シュヴァルツ（Michal Schvarc）（スロバキア科学アカデミー歴史研究所）[24]が取り上げて，フィアラの役割とそのルポルタージュの歴史的意義を解明した。

『ドイツ側の外交文書から見たスロバキアの反ユダヤ主義とホロコースト（1938年～1945年）』（2021年）の史料篇には，そのような重要文献が数多く集録されている。この著書は，スロバキア・ホロコーストを研究する者にとって必読の書であると言えよう。

2024年3月10日

訳者識

［付記］

本稿は，経済統計学会政府統計研究部会報第73号（2024年2月29日刊）に掲載された拙稿「【文献紹介】エドゥアルド・ニジニャンスキー＝カタリーナ・プシツォヴァ編著『ドイツ側の外交文書から見たスロバキアの反ユダヤ主義とホロコースト（1938年～1945年）』スロバキア国民蜂起記念博物館／バンスカ・ビストリッツァ（スロバキア）2021年」に加筆・訂正したものである。

（23）Raul Hilberg, *The Destruction of the European Jews*, revised and updated edition, 1997（ラウル・ヒルバーク（望田幸男，原田一美，井上茂子訳）『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』全二冊，1997年，訳書下巻，48頁。）

（24）フィアラと彼が執筆した収容所に関するルポルタージュについては以下を参照。Michal Schvarc, “Fritz Fiala: A Man in the Service of Evil. (An Attempt at a Biographical Study),”（ミハル・シュヴァルツ「悪魔の手先フリッツ・フィアラ ── 書誌的研究試論 ── 」（木村和範訳）『経済論集』（北海学園大学）第70巻第4号，2023年3月）。in: Ján Hlavinka, Hana Kubátová, and Fedor Blaščák (ed.), *Uncovering the Shoah: Resistance of Jews and Efforts to Inform the World on Genocide* (*Proceedings from the Conference Žilina, Slovakia, 25 - 26 August 2015*), pp.88–110.

なお，ヤーン・フラヴィンカ他が編集した *Uncovering the Shoah*（上掲）は以下のサイトで公開されている。http://vrbawetzler.eu/img/static/Prilohy/Proceedings_from_Conference_Zilina_2015.pdf, accessed on Dec. 3, 2023. この邦訳（木村和範訳）は，『経済論集』（北海学園大学）第70巻第1号，第2号（以上2023年）および同第70巻第4号（2023年）に収録されている。